

18世紀フランスの服飾に関する研究
—色彩を中心に—

A Study on French Costume in Eighteenth Century
—Focused on Colors—

広島女学院大学大学院人間生活学研究科生活文化学専攻
2003年度修士論文

佐々木 芳恵
Yoshie SASAKI

序論	4
1. ロココ芸術の特徴	4
1-1. ロココ時代	4
1-2. ロココ時代のフランス文化	6
1-3. ロココ様式	7
2. ロココ時代の服飾	9
2-1. ロココ時代の服飾観	9
2-2. ロココ時代の女性のファッション	10
2-3. 文様	13
2-4. 色彩	16
3. 服飾における流行色の検証	17
3-1. 流行色の検証方法	17
3-2. ロココ服飾における色彩の検証	18
3-3. ルネサンス服飾における色彩の検証	20
3-4. バロック服飾における色彩の検証	20
4. 流行色の変化の要因及び背景	21
4-1. 流行の要因及び背景の考察方法	21
4-2. ルネサンス時代の文化と色彩	22
4-2-1. ルネサンス時代の文化	22
4-2-2. ルネサンス時代の色彩	23
4-3. バロック時代の文化と色彩	29
4-3-1. バロック時代の文化	29
4-3-2. バロック時代の色彩	30
4-4. ロココ時代の文化と色彩	34
4-4-1. ロココ時代の文化	34
4-4-2. ロココ時代の色彩	35
4-5. 流行色分析のまとめ	40
結論	43

図表	45
図表リスト	93
参考文献	99
註	102
あとがき	103

序論

展覧会でボンパドゥールピンクという非常に美しい薔薇色の磁器に目を奪われた経験がある。これは18世紀の短い期間に限って製作されていたフランスのセーブル磁器であり、この色名にはロココの女王とまで言われるボンパドゥール侯爵夫人の名が冠せられている。日本でも歌舞伎役者の名の付いた色名はあるが、西洋においてこのように人名の付された色名は稀であるという点でこの色は興味深い。注意して見ると、ロココ時代の肖像画のドレスにもこの色は多く出現している。ではボンパドゥールピンクを始めとするロココ時代の服色とは一体どのようなものであったのであろうか。

服装史においてその色彩に関する研究は、まず中世やルネサンス時代のキリスト教的色彩シンボリズムから始まる。中世のヨーロッパは教会の權威によって支配され、色彩にキリスト教的なシンボリズムを持たせた宗教色の濃い時代であり、次いで訪れたルネサンス時代にも、その色彩シンボリズムは色濃く残った。この頃の服飾の色彩感情に関しては、ヨハン・ホイジンガーの『中世の秋』（1958年）や、日本においても徳井淑子氏の『服飾の中世』（1995年）、伊藤亜紀氏の『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』（2002年）等で詳しく研究されている。しかし続くバロック時代、ロココ時代の服色については、残された文献資料もエデュワード・フックスの『風俗の歴史』（1955年）にある一部の記述等ごく僅かであり、日本では専門的研究はほとんどなされていない。そこで本論文では太陽王ルイ14世の死（1715年）後、フランス革命（1789年）までの約75年間をロココの時代と定義し、ロココ時代の肖像画を始めとする絵画資料等を実際にサンプルに用いて測色統計する事によって流行色を導き出し、少ない文献資料の記述を確かめると共に、徳井氏や伊藤氏の先行研究の方法を踏まえ、美しい色彩の溢れるこの時代の服飾の色彩感情を明らかにしたいと考える。なお、この時代を指すのにロココという時代区分を用いないで後期バロックと呼ぶ場合もあるが、しかし服装を中心に考えると17世紀と18世紀とでは明らかに性質が異なるため、本論文ではロココの呼称を採用した。

1. ロココ芸術の特徴

1-1. ロココ時代

ロココ時代は、1715年のルイ14世の死を契機としたアンシャンレージュム（絶対王政）の衰退と共に訪れる。ルイ14世は太陽王と称される程の史上稀に見る偉大な君主で、

市民階級から官吏を登用し、貴族の参政を抑える事で自らを唯一の絶対的支配者とし、君主制政治を充実させ、フランス国内における栄光と権力を確立した。また、国外に対してもアンリ4世（在1589～1610年）が固めた経済の基礎を引き継ぎ、更に発展させて、政治・経済・文化の上でフランスを全ヨーロッパの支配的地位にまで高めた。ルイ14世の意志と方策は、芸術・文化・服飾等、ヨーロッパ全般の動向を左右したのである。しかし、こうしてルイ14世の栄光が頂点を極めた一方で、王の治世末期にはフランス国内に倦怠と憂いが生じていた。階級制の変化によりそれまでの特権を失った貴族階級は、ルイ14世の儀式ばった堅苦しい宮廷文化に嫌気がさし、君主に対する不満を募らせていった。また度重なる戦乱のため、かつて華やかだった祝祭のための財源は底を尽き、民衆は戦争の惨禍や重税にあえぎ、厳しく冷ややかな規則の圧迫に苦しんでいた。

そのような支配と強制という重圧の中でルイ14世の死を迎え、フランスに新しい時代が訪れた。ルイ14世の遺言に基づいて、まだ幼いルイ15世に代わって政治を司ったのは41歳の摂政オルレアン公であった。この摂政時代は1723年までの僅か8年間ではあったが、ロココ文化の幕開けという大きな役割を果たした。オルレアン公はまず、政治権力を奪われた貴族階級の不満を解消するため、10人から成る7つの顧問会議を作り、貴族達の意見を重く見た。長い束縛から解放された貴族階級や市民階級は生活の自由、自律を楽しめるようになり、より優美で繊細な、まさに貴族的な文化を作り上げた。こうして全ての人々が生活の自由を得て、奢侈の自由を楽しみ、放縦な貴族文化の繁栄を齎したのである。またオルレアン公は公然と愛妾を抱えており、女性との噂が度々流れる人物であった。このような行為は、前時代までは外部に対して慎み深く控え目に行われていたが、この時代には常識として表面化し、更に見栄とさえなってパリの上流社会に流行したのである。女性達は愛妾になる事を至上の憧れとし、こうして摂政時代は道徳や礼儀正しさの失われた、軽はずみで浮ついた文化の始まりともなった。

摂政時代は一見して短く空虚な時代のようにであるが、人々が長い間遠ざかっていた自由を取り戻し、新しい文化を誕生させた、極めて有意義な時代であった。この時代に生まれた人間的で情味豊かな文化は、後にロココ文化と呼ばれるようになるが、この洗練された貴族的ロココ文化は、依然としてヨーロッパ各国に決定的な影響力を持っていたフランスの優勢によって、この時代にも引き続き西洋モードを支配した。

1-2. ロココ時代のフランス文化

時の摂政オルレアン公は、格式ばった儀礼のために自らの気ままな生活を犠牲にする事を望まなかったため、宮廷を持つ事はしなかった。彼は前時代からの過度な豪華さから逃避して、エチケットのいらぬ気軽なサロンで気に入った人々と過ごす事を好み、国事さえもそこで行った。バロック宮殿の壮麗さ、権力やエチケットの堅苦しさに息詰まりを感じていた人々にとって、サロンの安楽さ、居心地の良さは欲求に叶ったものであり、彼らはサロンのほのぼのとした自由な雰囲気に入る時こそ、人間としての真の喜びを味わう事ができたのである。

このように、ルイ14世治世の緊張の後に来た弛緩はサロン文化の繁栄を齎した。サロンとは本来、客間・応接間・広間を意味する言葉であるが、この時代にはそこで催される私的な集まり・パーティーを指している。しかもそれは単なる会合ではなく、ソフトで知的かつ自由な会話を楽しむ文人・芸術家・知識人が集い、文学・芸術・哲学・政治その他あらゆる事柄について談話する知的な集まりであった。そこでは貴族と市民が対等の立場で語り合い、サロンは前時代にはなかった「知の解放区」¹の役割を担ったのである。

サロンは大半が女性によって主催された。才気のある女性は多額の費用をかけてサロンを開き、洗練された社交によって名を成すことを楽しみ、それを名誉と心得たのである。パリで初めて開かれたサロンは、1719年ランベール侯爵夫人によるもので、その後、タンサン夫人、ジョフラン夫人、デュ・デファン夫人、レスピナス嬢等のサロンは18世紀半ばのフランスで最も有名なサロンであった。それぞれのサロンには中心となる哲学者がおり、例えばジョフラン夫人のサロンにはデイドロ、フォントネル、ドルバックが、レスピナス嬢のサロンには百科全書派の文人たちが顔を揃えていた。こうしてサロンでの集いがいっそう盛んになると、それまで文化を生み出してきた宮廷や宗教はその役割が著しく減少し、文化の中心はサロンへと移行した。そして、バロック的な“我々”ではなく“私の”を強調した装飾趣味が流行し、私的でささやかな婦人の私室（ブドワール）の芸術が求められるようになったのである。

このようなサロンを中心とした社交生活の中で生み出される芸術や文化はかつてない程に女性的なニュアンスを帯び、ロココ時代を女性主導の時代へと導いた。生活文化の担い手、推進役は男性よりも女性となり、生活が遊戯化されていたこの時代には、男性は女性の魅力に支配されているかのごとくに振舞う事自体がモードとなった。例え国王であっても、その力の強弱に関わらず等しく寵姫の言うままに振舞い、女性主導の文化の形を作

り上げていった。例えば、ルイ16世は王妃マリー・アントワネットが34万8千リヴルもするダイヤモンドのイヤリングを大いに気に入ったと聞き、迷わずすぐに買い与えた。それは当時相当の収入を得ている職人と家族が、一年間は楽に暮らしてゆけるお金であったのである（1リヴルは1万円に相当する）。このように、当時、亭主の最大の務めは女房に最新のモードを与える事であった。

このような女性主導のムードは、当時の文学作品・絵画作品にも現れている。モンテスキューは自身の著書の中で「もっとも文明開化した民族のあいだで、女は常にその夫に対し権威を持って」おり、「これまで女性が男性に支配権を取らせたのは、彼女たちが柔和で、人情と理性を持っていたからである」「もし男性が道理をわきまえていたならば当然女性に優越性を与えるはずだった」として、これまでの女性の扱いは不当であった事を述べ¹¹、男女の対等な関係について論じている。F. ブーシェの絵画「朝食」（図1-1）はパリの割と裕福な家庭を描いたもので、画面には2人の女性と1人の男性、それに子供が2人登場するが、ここで一家の主は前掛けをし、コーヒーポットを手にして愛想よくサービスに努めている。この朝食風景のように、サロンでも女性に目立たぬよう奉仕して盛り上げる夫は、その内助の功を称えられた。図1-2はニコラ・ランクレが1740年に四季を描いた絵画の一枚である。毛皮の縁取りの付いた軽快な冬服を着た若い女性が、足元の男性に左足を預けてスケート靴を着けてもらっている。彼女の足首を支えるその姿は、いかにも彼女の魅力と官能美に心を寄せ、その虜になっているようである。

このように、ロココ時代には女性上位が一種のモードであったので、経済的な実権は夫にあったものの、社交の場において夫は権力を表面に押し出さず、女性に主導されているかのように振るまい、サロンに集う知識人の間でもしばしば女性の地位について論じられた。

1-3. ロココ様式

このような社会背景の中で華麗に花開いた美術様式がロココ様式である。ロココ様式は、ルイ14世の宮廷を中心とするバロック芸術と19世紀の市民社会における個人的な自由芸術に挟まれ、ふたつの流れの要素が入り混じったある種の移行期の様式であると言える。バロック時代にはあらゆる芸術は権力者の庇護の下にあり、芸術家は如何に才能に恵まれていたとしても、主題の選択や、その主題をどのような形式で扱うかというそのやり方において、完全に自由ではあり得なかった。また、市民社会が君主制社会に取って代わった

19世紀においては、芸術家も全ての市民達と同様に自由を得たが、しかしその自由は絵画と文学には多大な利益を与えたものの、家具工芸や金銀細工等のその他の諸芸術は次第に衰退し、やがて装飾芸術ないし小芸術として一段と低いものと見なされるようになった。このような二つの時代の間中期ロココは、意外にも均衡と繁栄の時代であった。小芸術と呼ばれるものは存在しなかったこの時代には、フランスの建築・家具工芸・金銀細工は、恐らくかつてない程の高い成果を示した。また同時に、画家や文学者達は前の時代には許されなかった発想と製作の自由を享受しうるようになった。その結果、あらゆる芸術が一斉に花開き、それらは一体となってフランス文明の絶頂期を齎したのである。戦争に明け暮れた前時代とは異なり、平和で経済も好調だったこの時代は贅沢と放逸の快樂主義を頂点に押し上げ、美的趣味の豊かさこそが意味を持った。

ロココという言葉の起源については、岩を意味するフランス語 **roc** から派生したロカイユ **Rocaille**、つまり当時の造園術で流行した人工の洞窟に用いられた装飾用の不規則な岩や貝殻（特に螺旋状の曲線のある巻き貝）を指す言葉と、イタリア語のバロッコ **Barocco** を合成したものとする説、或いは **Rocailly** と **coquillage**（貝類・貝殻）という二つの言葉の第1音節を合成したものであるという説が考えられている。つまり、いずれにせよロココという言葉には、人工的な曲線を多用したこの時代の文化、様式が特徴づけられているのである。

ロココ様式の特色は繊細で優美な曲線の生み出すリズムカルな躍動感、左右均衡を破った自由な形式による室内装飾等にあり、その神髄は、束縛から解放された人々の人間らしく生きる喜びにあった。人々はこの世の生を儚くも楽しい遊び、戯れの世界と考え、芸術にはひたすら若さや青春、幸福な幻想を求め続けた。ロココ的世界で求められるのは真理や真実ではなく快い偽り、深さよりも上辺や表層であり、思想的な奥行よりも気のきいたエスプリ、魂や精神よりも感覚、官能なのである。

また、ロココ時代の美術様式に見られる顕著な現象として、シノワズリ（中国趣味）が挙げられる。人々が絶えず変化を要求する流行の中で新しさを追求した結果、現実の生活を遥かに超えた奇抜さが望まれ、東洋が注目される事となったのである。もちろん東西文化の交流は18世紀に始まった事ではない。古くは陸路でローマやビザンツに中国の絹織物が齎され、7世紀には沿岸航路を利用してイスラム教徒が中国の工芸品を輸入し、そのうちのごく僅かを西洋に伝えている。そして16世紀になると舵器装置の完備と羅針盤の発達によって遠洋航路が開かれ、更に17世紀にはオランダ及びイギリスの東インド会社

が設立され、陶磁器や漆器等の絹以外の工芸品も豊富にヨーロッパに輸入されるようになった。これによってシノワズリは宮廷を中心に大流行し、そして次第にそれは一般に模倣された。フランスでは宰相コルベールが自国経済を保護するためにその輸入を制限したので、対中国貿易は発展しなかった。しかし品不足のためフランス国民の需要に応じ得なかった事は、却ってシノワズリの流行を過熱させ、セーブル窯に代表されるように、人々は漸次中国工芸の長所を模倣した模造品の製作を試みるようになり、新しい工芸を発達させたのである。こうして中国舶来品とその模造品は相並んで当時のあらゆる社会層の室内を装飾した。ルイ15世やその愛妾ポンパドゥール夫人も、この種の美術品をパリのサントレノ街に店を構える古美術商ラザール・デュヴォーの店から頻繁に購入している。表1-1は、彼女がヴェルサイユ宮殿1階に住むようになった1751年の数ヶ月のデュヴォーの売上日誌である。彼女は巨額を投じて私室を中国趣味で飾り、狎のミミを愛玩し（図1-3）、中国風刺繍の施されたドレスを着用し（図1-4）、まさに生活全てにおいてトータルコーディネートを楽しんでいたのである。

こうしてロココ時代のフランス文化は“ここに存在しないものへの憧憬”として関心が高まった中国趣味によって異物を取り込み、それを創造の糧としてあらゆる分野に東洋風を採り入れた。シノワズリの流行は西洋に磁器並びに漆工、独特の更紗染めや変化組織の応用による絹織工芸といった新しい技術を発達させ、また陶磁器や絹織物の新鮮な色彩や左右均衡を破った絵画のような写生的な文様は、西洋人に自然に親しむ生活を教え、彼らの感情生活に新たな一面を開拓したのである。しかし、儒教精神や仏教的世界観によって支えられる中国文化を真に理解し、その高さが認められていたとは言えず、単に人々の贅沢の心や、遠い異国の珍しい、高価なものを誇らしげに見せたいという気持ちを満足させていたという見方が本当かもしれない。中国の工芸品に対する心酔は、実際にはその真髄までは理解されるに至らなかったが、しかしこれまでの異国趣味がたいい珍しい物をそのまま受容する一過性の流行であったのに対し、この時代にはその文様や色彩、技術、自然観等、より広い範囲で異国趣味の影響が見られており、やはりロココ美術を語る上で中国趣味は軽視すべきでないと思われる。

2. ロココ時代の服飾

2-1. ロココ時代の服飾観

バロック社会からの解放は、ファッション分野にも多大な影響を及ぼした。ルイ14世

の時代には宮廷の壮麗な豪華さが何よりの理想であったので、服飾も虚栄心の刺激によって装飾過剰の傾向を招き、衣服は王侯貴族の権威の象徴として身分や階級を明確に表現するものであった。しかし次いで訪れたロココ時代には、服装上の身分、階級の差はなくなり、服飾は特権から富を表現するものになったため、人々は美的感覚に基づいて気ままに装う自由を手に入れた。男性が女性よりきらびやかに装っていた前世紀に代わって、この時代にはファッションの上でも主導権を握るのは女性となり、服飾様式とその趣向も男女共に女性的要素が表面に現れるようになった。華麗さ、優雅さ、麗しく柔和な傾向がロココ服飾の理想とされ、美を最上のものとするロココ時代の人々は、軽快で夢想的な造形美を楽しみ、陶醉した。このようにロココの時代風潮はまさに「男は女の奴隷であり、女はモード（流行）の奴隷であった」ⁱⁱⁱのである。

こうして「モードの奴隷」となったロココ時代の人々は、美的生活のために桁外れに浪費した。最新流行の衣服で身を飾る事は裕福であるという最初の目印であり、権力を誇示するだけでなく、自分が他人より優れている事を見せつけ、自らの存在を有利に導くための手段でもあったのだ。こうしてこの時代には上流階級だけでなく、あらゆる身分の人々に奢侈の風潮が流行した。しかし、これらの一般社会における奢侈の風潮は風紀状態にも非常に大きく影響し、下層階級の女性らが華美な服装をするために、盛んに自分の身を売って他人と張り合おうとするという社会問題にまで発展した。

このような服装美の追求は、染織や手工芸の各分野に数々の開発を齎した。15世紀半ばに即位したルイ11世（在1461～1483）と続くアンリ4世による強力な絹織物の振興政策と、そして17世紀後半のルイ14世と宰相コルベールによる染織業界の改革により、当時のフランスではリヨンを始めとする絹織物産業が大いに発展していた。17世紀はその安定期・黄金期であり、続くロココ時代にはルイ15世の美的趣味が大きく反映され、その当時ヨーロッパで最も美しい織物という評価を得た。そしてこのようなファッション産業の積極的な躍進は、18世紀のフランス経済に多大な富と繁栄を齎したのである。

2-2. ロココ時代の女性のファッション

ロココ時代の女性のローブは、17世紀末からのぴったりとフィットしたシルエットに代わって、摂政時代末期にはローブ・ヴォラントが主流となった。これは、前で半分もしくは完全に開いた極めてゆったりとしたローブで、衿ぐりと両肩から裾に向かってフレア

一状に広がる大きなプリーツがあるのを特徴としている。このプリーツは摂政時代の画家ヴァトーが好んで多く描いている事により、後にヴァトー・プリーツと呼ばれるようになった。図2-1は触れると崩れ落ちそうな、背中を滑るように流れる襷の瞬間の動きと、サテンの反射する光を描いた、ヴァトーの代表的な作品の一つである。このローブは1703年に上演されたテレンティウスの劇“アンドリアンヌ”で妊婦役を演じた主演女優ドンクール夫人が妊娠服として着用し、人気を得て以来“アドリエンヌ”と呼ばれた。つまり、このローブは本来略服（ネグリジェ）で、外見は思いきりくだけた様子であったのだが、摂政時代のくつろいだ世相を反映し、おしゃれ着として礼服の上に着用されるようになったのである。このローブはリヨン産の華麗な絹織物等でできていたので、礼服といっても不思議ではなかったのだ。1729年の『メルキュール・ド・フランス』誌に、「このローブは至るところでもてはやされている」とも、「もはや他の衣服はほとんど見られない」とも記してある通り、このローブはかなり長期間着用された¹⁴。図2-2は1731年にド・トロワが描いた上流社会の風俗画であるが、このように、1730年以後にもなおこのローブは登場しているのである。

しかし、次第にローブ・ア・ラ・フランセーズ（フランス風ローブ）がローブ・ヴォラントに取って代わり、ルイ15世時代、ルイ16世時代の優雅な衣裳となった。ローブ・ア・ラ・フランセーズとは共布、もしくは同色のアンダー・スカートの上に前開きに着用するローブで、衿線の中央に始まって背部中心線の両側に2本のプリーツがゆったりと垂れているのが特徴である。絹やインド更紗の織物でできたこのローブのあらゆる部分にはリボン・レース・組紐・造花・刺繍・縁飾り・宝石といった過剰なまでの装飾が施されたが、しかしそれはロココ時代の女性の洗練されたバランスの良さのために装飾過多とは見受けられず、寧ろ後世にも「多すぎもせず少なくもなく」¹⁵と評価されるものであった。このローブはルイ15世の公式愛妾ポンパドゥール侯爵夫人によって愛好され、彼女の庇護を受けた宮廷画家ブーシェやラトゥール等がこのローブを着用したポンパドゥール夫人を数多く描き残している（図2-3）（図2-4）。18世紀中期のファッションはロココの女王とまで言われるポンパドゥール夫人の好みがそのまま流行したと言っても過言ではなく、この型のローブはロココの女性服の典型となって全ての女性に採り入れられ、その流行は織物工場の生産量をいっそう増大させたと言われる。

ローブ・ヴォラントやローブ・ア・ラ・フランセーズは、大きくくった衿元とコルセットの細胴、パニエで誇張されたヒップの曲線、大きく露出された胸部といった、女性の身

体の曲線美を強調したラインが特徴であった。きっちりと紐で締められた鉄棒枠で「雀蜂のようにほっそり」^{vi}とした娘らしい胴を演出するコルセットと、スカートを膨らませる鯨骨製の腰枠のパニエは、その対比で女性達のウェストをいっそう細く見せたのである。パニエは1718～19年頃から急激に普及し、1725年頃には次第に丸く大きくなって、30年頃にはその周囲が最大3オンス（約3メートル60センチ）にまで及んだ。こうしてロココ時代の女性のローブは50年頃まで、次第に丸く大きくなっていったのである。

その後、ロココの円熟期にはルイ16世妃マリー・アントワネットがファッションのヒロインとなった。この頃にはローブ・ア・ラ・フランセーズの下に着けるパニエは2つに分離されて大きく左右に広がり、それと競うように髪型と被り物も巨大になって、モンテスキューが風刺したように「顔が全身の中央にある」^{vii}という程になった。しかし、虚飾の生活にもやがて行き詰まりが訪れ、非道德的で不健全な、贅沢なモードは反省されるようになった。そこで、ポンペイ遺跡の発掘をきっかけとする古典ギリシャ・ローマ風モードや、イギリスの合理性、ルソーの自然へ帰れという思想が注目され、田園や自然が見直されるようになった。こうして庭園の散歩という英国流の新しい習慣や、古典風モードに通ずる白生地 of 簡素なシュミーズ、素朴な麦藁帽が牧歌趣味に伴ってフランスに齎され、アングロマニー（英国心酔）が日常生活に浸透していくのである。王妃マリー・アントワネットもヴェルサイユ宮殿の庭の端にトリアノンという牧歌的な村を作り、取り巻きの女性達と共に羊飼いのような白のモスリンで作られたシュミーズ・ドレスを着け、大きな麦藁帽を被り、セーブル製の乳搾りのバケツを持って羊飼いごっこに興じ、ヨーロッパ的田園ファンタジーに浸った。そしてこのファッションは、ヴィジェ・ルブラン夫人が1783年のサロンに出品した王妃の肖像画（図2-5）によって世に出ることとなり、シュミーズ・ア・ラ・レーヌ（王妃風シュミーズ・ドレス）としてあっという間に広まった。イギリス風の薄物シュミーズは、実用性において便利でありながらウェストの細さも重視しており、婦人達は人工的に整えた別荘の自然の中で、衣服に無邪気さやあどけなさを演出した。1772～1774年には、ローブ・ア・ラ・ポロネーズ（ポーランド風ローブ）が流行した（図2-6）。腰の後ろに裾をたくしあげて3つの丸みを作るこのオーバースカートは、アンダースカートの上に大きく開いて、軽やかな短めのシルエットを描き、常用着として瞬く間にローブ・ア・ラ・フランセーズを追い抜いた。1778～79年頃にはアメリカ在住フランス婦人の影響である、モスリンまたは軽い紗の、胸下で幅広い飾り帯を

締めるシュミーズ形のクレオール風ローブの流行が入ってきた(図2-7)。また演劇『アタリー』の聖職者の衣裳(図2-8)をもとに作られ、1778年に初めて懐妊した王妃マリー・アントワネットが着用したレヴィット風ローブ(聖職者風ローブ)も広く行き渡った。これは白いリネンかモスリン地で、ウェストに緩やかな飾り紐を締めるだけの直線的なシュミーズ型のドレスであった。これらのシュミーズ型ドレスの流行は単なる気まぐれからではなく、装飾過剰なモードへの行き詰まりや鯨骨入りコルセットの窮屈さ等、様々な影響を反映していた。シュミーズ型ドレスはコルセットやパニエを一時的に消滅させ、モードを一枚裁ちのローブへと歩み寄せ、シルエットの上からも構造上からも次のハイウェストドレスへの過渡的な役割を果たした。王妃マリー・アントワネットはその贅沢な生活によって民衆の非難と陰口が止まらなかったが、彼女が生み出した流行は人々を素朴な服へと導いたとも言えるのである。こうして仕立てと服地は単純化され、ローブ・アラ・フランセーズやコルセット、大きな幅広いパニエは公式用や儀礼用としてのみ用いられるようになり、非常にゆっくりと日常の生活から姿を消していったのである。

2-3. 文様

一般にヨーロッパの文様は、草・花・鳥・動物等の自然的素材を題材にした場合にもそれをそのまま写生的に写すという事はなく、地紋風に扱ったり、円や方形の中に団文としてまとめたりと、製作者の感覚によって図案化、装飾化して用いる事が多い。しかし、このようなヨーロッパにおける文様の歴史の中で、18世紀は自然的・写生的文様の見られる時期として特徴的である。ここでは、そのように独特な傾向の図案を展開したロ可可時代の織物に流行したいくつかの文様様式について述べる。

15世紀にイタリアで盛んになった絹織物産業は、空引機の導入とコルベール宰相の行った絹織物の改革によって、17世紀にフランスでも大きく躍進を遂げた。デザインもバロック初期には自然の花が主なモチーフであったが、それはルイ14世の宮廷生活の特性を反映し、実物よりも大柄で厳格な重々しい印象のものや、中にはアカンサスの葉にライオンや天使が組合されるような予想外なモチーフの組み合わせで人目を奪うグロテスク文様が、織物全体に充満していた(図2-9)(図2-10)。こうして過剰な文様や奇抜な取り合わせといった独特の文様様式が展開されるようになり、フランスの絹織物は徐々にイタリア的なものから脱していった。

ルイ14世時代の末期から摂政時代には、バロック的な大柄の文様にレースのような細

密なディテール表現を見せるレース様式が現れた(図2-11)。これは17世紀の家具用の織物から影響を受けたもので、中央の植物モチーフを囲むようにレース柄を織り出しており、一見レース地を思わせるようなレース風の絹織物であった。このように細部に見られるようになった繊細さは、これまでの重厚な趣を持つ織物に代わって、ロココ時代の幕開けとなった摂政時代の雰囲気の中で歓迎され、この様式は1730年頃まで用いられた。また、同じくルイ14世の最晩年から18世紀の初め(一説には1730年頃まで)にかけて流行したものにビザール様式(奇想様式)がある(図2-12)。これはインドや東インド諸島、ペルシア、トルコ、そして中国や日本まで含めた異国風の要素にヨーロッパの当時の趣味が混ざり合った文様である。東方からの布の輸入が禁止された事によって異国の文様を直接目にする事の少なくなった人々は、却って自由に幻想を膨らませ、現実に見る事のできない幻想的なオリエント世界をあくまで空想によってモチーフに表現したのである。更に、これらと平行しながら新しい流れとなったものが、バロック様式からロココ様式への橋渡しの役割を担った摂政様式(図2-13)である。これはバロック様式の厳格なシンメトリーから解放された植物文様が散らし構成になったものであり、図2-2のように実物以上の大きな花文様にはバロックの名残が見られるものの、ロココ様式の萌芽が感じられるものである。

そして、1730年頃には従来の図案の単調な色の配列から脱し、ポワン・ラントレというぼかしの表現を利用した技法を用いて立体的な文様が表現されるようになった(図2-14)(図2-15)。これは、ある色の濃淡の色系を2色から4色作っておき、淡色に接してやや濃い色を、その隣にいつそう濃い色をという様に配色する事で物の厚みを表現する技法で、やや離れて見るとぼかしのように見えて、ふっくらとした文様の表現を可能にしたのである。こうしてあらゆる植物文様は浮き彫りのように見えられ、色彩もより繊細さを増して、織物は寧ろ絹に描かれた絵画のようになっていった。

そして次に現れるのがロココ様式である。軽やかさと優美さを好むポンパドゥール夫人とルイ15世の美的趣味が大きく反映された、いわゆる「ロココの頂点」^Ⅷに位置づけられる1740年代から60年代にはロココ様式の絹織物(図2-16)(図2-4)が流行した。これはロココ時代の明るく華やかな宮廷の雰囲気を反映したおおらかで奔放な感覚の様式で、植物文様も過度に誇張しない大きさと色彩で表現されるようになり、薔薇の花を中心とした可憐な花が数多く現れた。この様式の文様はアシンメトリーで動的であり、伸び伸びとした空白部分を残して、自由で清々しい、かつ親しみ易い自然観の溢れたもの

であった。そしてその織物の平面は蔓草文様の曲線で区画され、それらの間や上を乗り越えるように華やかで愛らしい花文様等の自然主義的な植物文様がリズムカルに配置された。このようにロココ様式の織物の美しい色彩と躍動感のあるデザインは極めて軽快な印象を生み出し、ロココの絹織物をまさに洗練の極みへと押し上げたのである。

ロココ様式と同時に触れておかななくてはならないのがシノワズリ（中国趣味）である。シノワズリはとりわけ17世紀から始まり、家具や室内装飾品と同様に衣裳用の織物図案にも数多く登場した（図2-17）。西洋のありきたりの花文様に飽きたロココ時代の人々は、異国文化の中に新しさを見出し、織物の上に中国の貴人や風景、東屋、花鳥風月等を表現していったのである。こうして中国から渡来する織物の珍しさやそのアシンメトリーで複雑に曲がりくねった線形、西欧的な理性では計り知れない曖昧さ、流れるような動的な躍動感、導入された自然及び空間といった特徴はロココ時代の軽妙な気分と合致し、新たな創造の糧となった。また、東南アジア風の影響としてシネと呼ばれる軽快な絹緋（図2-18）（図2-19）が流行した事も忘れることはできない。シネは、シナージュとかシナージュ・ア・ラ・ブラシシュ等と称せられ、当時の貴婦人の夏用ドレスに愛好された。これは日本の緋とよく似た織りの手法で、織る前にあらかじめ文様を染めた経糸を使って改めて織り上げていくもので、大変高度な技術を要した。緋の技法は18世紀以前の西洋には見られなかったので、恐らく当時西洋に入ってきた東洋の緋織物によってフランスへ齎されたと考えられる。この絹織物は特にポンパドゥール侯爵夫人が愛用したためポンパドゥール・タフタとも呼ばれ、ロココ時代のエキゾティシズムの美学に叶って非常に流行した。更に、1759年にジュイのプリント工場が開設されてからはヨーロッパでもプリント産業が発達し始め、ヨーロッパ独特のプリント文様が作り上げられるようになった（図2-20）。ヨーロッパで捺染織物の生産が試みられたのは、当時人気を得ていたインド更紗の輸入が制限された事に起因する。インド更紗はインド産の手描きで染めた鮮やかで多彩な綿布で、東インド会社を通じてヨーロッパへ齎された。これは、それまでほとんど知られていなかった木綿の軽さと保温性、洗濯も可能な実用性、安さ、異国趣味の文様、鮮やかで多彩な色彩、染料の堅牢さ等で人気を呼び、その流行はモリエールの『町人貴族』（1670年）で財産家の町人ジュールダンが音楽の先生に自分のインド更紗の部屋着を「立派な身分の人達が着るような」「身分の高い人達は朝のうちのこのような身なりをなさる」[※]と自慢しているように、自らの富を誇示する一つのスタイルとなる程であった。しかしその輸入の増大による外貨不足や、国内の毛織物・絹織物業者からの圧力等によって、イ

インド更紗にはヨーロッパ各国で輸入制限が行われた。そのためヨーロッパでは独自に更紗を生産するようになり、ジュイの工場も次第に生産量を増しながら急速に発展して、1783年には“王立更紗製造所”の名称とそれに伴う種々の特権を得た。ジュイ更紗のプリント文様にはインド的なもの（図2-21）だけでなく、中国風のもの（図2-22）も多く見られ、またそれらは東洋の文様の完全な模倣として現れるだけでなく、中には西洋風の文様に僅かに東洋の要素が添加されているようなヨーロッパ独特のもの（図2-23）もあった。こうしてプリント産業が発達すると共に、オリエンタルなプリント文様がヨーロッパに流行したのである。

1770年代になると、余白を多く残して小花文様が自由に軽快に躍動するものや、花柄のフォルムがS字形に流動するもの、自然主義的な手法から離れつつある枝文様等が現れ、少しずつそれ以前の織物図案の流れとは異なる様相を呈し始めた。そして古代遺跡の発掘調査に端を発した古代ブームによって古典美を賛美する傾向が現れ、古典的モチーフと直線的な構成から成る典雅で静かな形態が流行し始めると、絹織物の文様でも古代建築の円柱を思わせるような縦の直線が強調されるようになった。織物図案には花柄と縞柄で表現されるもの（図2-24）が多くなり、そして次第に花柄は縞柄に押され気味になって、やがて流行の表面から姿を消していった。こうして80年代には、縞柄だけの斬新でモダンな感覚が人々の心を強く惹きつけた（図2-6）。シンメトリックな構成で端正な感覚を持つ縞柄はあらゆる階級を巻き込む流行となり、革命直前のファッション雑誌には男女共に2色の縞柄の衣裳が頻繁に登場したのである。歴史が大きく転換しようとするこの時期、織物の文様の流行にもかつて無い価値の転換が訪れようとしていた。そしてこの縞柄の衣裳の簡素美は革命期にも継続して愛される事となるのである。

2-4. 色彩

ロココ時代の服色に関する専門的研究は極めて少ない。ロココ服飾についての論文の中でも、その色彩の記述はたいていほんの数行で、また参考に用いられている資料もフックスの『風俗の歴史』等のごく僅かの文献に頼っている。しかし、偏った資料に依存してロココ時代の色彩を断定的に論ずるのは危険性が高いので、これらの記述を確認する必要があると思われる。そこで、まず『風俗の歴史』の伝えるロココ時代の服色について見ると、

「ロココ時代に、しゃちこばった威厳にかわって、軽薄な享楽が流行した時に、混合色、つまり、創造的な衝動や欲望を失った肉欲が現れた。こんどは黄金色にかわって、銀色が

勢力を持った。すべてのものは、やわらかい銀色に調子が合わされた。明るい空色、やわらかいバラ色が、これまでの紫色、すみれ色をおしのけた。権力はあく抜きされた。強烈なオレンジ色のかわりに、あせた黄色が現れた。以前はわがままな権力の、無遠慮な憎しみがのさばったが、こんどは、こせこせした嫉妬がのさばった。ぴかぴか光る碧玉の色は、輝きのないうす緑によっておしのけられた。

必勝を期する未来への希望は、この時代から姿をかくし、残されたものは、創造的でない疑惑だけであった。そのために、色彩のコントラストは、かたっぱしからとりのぞかれた。うす紫、くらい黄色、うすバラ色、あせた緑色が、美術や服装でいちばん人気のある色彩になり、これまでの色彩のコントラストにたいする感覚はくずれてしまった・・・。

ところが、ちょうどこのために、色彩の度合いは何百にもわけられた。つまり、享樂が数千のニュアンスをもったように、色彩も数千のニュアンスを持ったのである。ある期間、プス、つまり蚕の色が、いちばん人気のある色彩になった。そして、誰もかれもが蚕の色の着物を着けた。ところで、こういう色にもひじょうに洗練された、こまかい濃淡があった。その名まえは、蚕、蚕の頭、蚕の背中、蚕の腹、蚕の腿、それどころか、乳腺熱のときの蚕、というように分類された。」[＊]

と述べられている。ここで彼は、ロココ時代には服飾の傾向と同様に、色彩も明るい空色、柔らかない薔薇色、褪せた黄色、輝きのない薄緑等の柔らかで軽快なものが流行し、それらの色彩はそれまで以上に微妙なニュアンスで使い分けられたという事を明らかにしている。しかし、これだけでは色名のみで実際のロココ時代の色彩について掴みにくいので、これらの記述を実際に確認していく事を目的として、続いて3章では実際にサンプルを用いてロココ時代の服飾の流行色について更に詳細に分析し、より明確にロココ服飾の色彩を位置づける事を行った。なお、本論文では実際の絵画やドレスから直接測色する事はできなかったので、サンプルには対象時代に描かれた肖像画を始めとする絵画作品や、当時のファッション雑誌の役割を果たしたファッションプレート、現存するドレスの写真カタログを用いた。

3. 服飾における流行色の検証

3-1. 流行色の検証方法

流行色の検証は次のような手順で行った。まず、ロココ時代のサンプルをスキャナでパソコンに取り込み、服飾部分以外の色彩と区別するために、測色する服飾部分の画像のみ

を切り抜く。そして画像処理用のソフトでその RGB 値を読み込み、その服色を数値化する事で客観的に評価するが、光の具合による明るい部分と影の部分の色彩誤差があるため、測色する服飾部分内を範囲指定して、対象エリア内にある全ドットの RGB 値の平均値・標準偏差・中央値をそのサンプルの測色結果とした。こうして導いた全サンプルの測色結果を色度図上にプロットし（図 3-1）、また、色度図では明度を読み取る事が不可能なので、マンセル値による表示を併記し、色の三属性全てを知り得るようにした。以上の方法で色彩を数値化し、これらのデータを表 3-1 のようにまとめ、集計・分析し、ロココ時代の流行色を推測した。またより明確にロココ時代の色彩の特色を知るために、ロココに至る前時代、即ちルネサンス時代、バロック時代の服色も同じ方法で導き出し、これらとの比較もロココ時代の色彩の位置づけに用いた。

3-2. ロココ服飾における色彩の検証

このような方法で導かれたロココ服飾の色彩データが表 3-2 である。サンプルは肖像画や雅宴画などの絵画作品や、18 世紀以降現れたファッションプレート、写真カタログによる計 167 件で、そのサンプル目録は表 3-3 に示した。

これら 167 件を色度図上にプロットしたものが図 3-2 である。この中で、光源 C に限りなく近いいくつかのデータは、サンプルの実色彩を見ると、少し色味はあるものの一見すると白色に見えるものが多く、白色というべきものがあるかもしれないが、しかし、色味のある白色と低彩度色彩の境界が曖昧であったため、色味のある白色も低彩度の各色彩として扱った。この図 3-2 によると、赤系・黄系の色彩では広範囲な彩度の色が認められるが、その他の色彩は低彩度領域に多く分布しており、全体としてははっきりした鮮やかな色彩は少ないと言える。即ち、色度図では明度を確認する事ができないが、文献資料の伝えるパステル調の淡い色彩の流行を読み取る事ができるのである。また、色相については低彩度の Purplish Red や Pink から Yellow にかけての領域に特にデータが集中する傾向が見られ、Yellowish Green と Purplish Blue の辺りにもいくつかデータが見られた。フックスはこれらの低彩度の赤色や黄色を「薄い薔薇色」及び「褪せた黄色」、低彩度の黄味緑色や紫味青色を「薄緑」「明るい空色」と表現したのではないと思われる。

続いて図 3-3、図 3-4、図 3-5 がそれぞれマンセル値をもとにロココ時代の色彩出現比率を色相、明度、彩度別に表わしたものである。図 3-3 によると、色相の出現比率は YR が一番大きく、続いて R、Y の出現が見られた。緑系、青系の色相も見られたが、

前者の3色に比べると出現は少なかった。また、無彩色は明度7の白色1件しか現れなかったが、僅かな色みを読み取られたものの一見すると白色に見える明度7以上の高明度でかつ彩度1未満の色彩が5件、全体の4%程現れており、これらも白色服飾と考えるべきかもしれない。同様に明度2以下の一見黒色に見られるものも3件、全体の2%現れたので、これも黒色服飾と考えるであろう。明彩度について見ると、図3-4、図3-5より明度は5以上の高明度の比率が多く、彩度は5以下の低彩度色彩がおおよそ7割近くを占めている事がわかり、明るく淡い色調、つまりパステルカラーの流行が確かに裏付けられている。マンセル値に基づいて色相別の明度・彩度を見てみると、YR・Yはあらゆる明度・彩度の色彩が選ばれており、Rは4~6の中明度のものが比較的多く、彩度は2・5~10まであらゆる彩度が見受けられた。その他は低~中明度・中彩度のGY、あらゆる明度・低彩度のG、低明度・低彩度のBG、中明度・低彩度のB、低~中明度・低彩度のPB、中~高明度・あらゆる彩度のRP、Nは明るい灰みの白であったという結果が得られた。

また、より詳細にロココ服飾の色彩を分析するため、167件のサンプルデータの色相、明度、彩度を年代ごとにグラフ化したものが図3-6、図3-7、図3-8である。図3-6の年代別色相データを見ると、50年代はあらゆる色相がほぼ均等に使用されていた事がわかった。図3-7の明度についてはロココ時代を通じてあまり変化は認められず、明度5以上の高明度色彩の比率が高い。図3-8の彩度についてもロココ時代を通じて5以下の低彩度色彩の出現が多い事がわかるが、中でも50年代には彩度5以下の淡い色彩だけで8割を占める。

以上の分析により、淡いパステルカラーの流行が裏付けられたであろう。特に「薄い薔薇色」と「褪せた黄色」の出現は著しいと言え、「薄緑」と「明るい空色」がそれに次ぐと言う事ができ、フックスの記述を確かめる事ができた。また年代別の色彩分析の結果、ボンパドゥール侯爵夫人がヴェルサイユに入った50年代はあらゆる色彩が淡いトーンで用いられ、最もロココ的な特徴を呈しており、服色の面でも「ロココの頂点」と呼ぶに相応しい時代であると言える。こうして見てきたロココ時代の色彩は、その前の時代の色彩とどのような違いがあるのであろうか。続いてロココ時代の色彩の特色を知るために、それ以前の時代であるルネサンス時代、バロック時代の服色を同じ方法で数値化して検証し、ロココ時代の色彩との比較を行った。

3-3. ルネサンス服飾における色彩の検証

表3-4はルネサンス服飾の色彩データであり、表3-5がそのサンプル目録である。これらサンプル全53件はいずれも肖像画を主体とし、また当時の風俗をよく描いていると評価されているカルパッチョ等の絵画も使用した。

これらデータを色度図上にプロットしたものが図3-9である。その分布は赤色の領域に多く、また、そのデータの集中する領域はロココ時代と比べてやや彩度が高い傾向が見られた。赤色以外には低彩度の紫色と、橙色から黄色にかけての領域の色彩が比較的多かった。

続いて図3-10、図3-11、図3-12はマンセル値に基づいた色彩出現比率のグラフである。この図3-10により色相出現比率を見ると、赤色の比率が高く、続いて紫色、橙色、緑色の順で出現している。とりわけ半数近くを占める赤色の割合の大きさと、逆に全く出現しなかった黄色と青色の不在は極めて特徴的である。またYRとして現れた色彩は目測すると黄金色や山吹色のように見えるもので、純粹にオレンジ色という印象は受けなかった。また全くの無彩色Nは出現せず、明度7以上で彩度1以下の白色に見える色彩も現れなかったが、明度1以下の黒色服飾と呼ぶ事のできる色彩は5件程見られた。図3-11の通り、ルネサンス時代にはロココ時代のような8~9の高明度の色彩は現れず、代わって2~5の低明度から中明度色彩が多く見られる。また図3-12によると、彩度は3以下の淡い色彩がロココ時代より少なく、比べて4~7の中彩度色彩の比率が高い。色相別に見ると、Rは中明度・中~高彩度の比較的明るく鮮やかな色彩で、YRは中明度・中彩度が多く、P・PBの紫系及びG・GYの緑系の色は低明度・低~中彩度の暗濁色であった。よって、ルネサンス時代にはやや明るく鮮やかな赤色と、中間トーンの黄金色の流行があり、続いてやや暗濁色に近い紫色と緑色、黒色が現れたと言う事ができる。

3-4. バロック服飾における色彩の検証

表3-6はバロック服飾の色彩データ全64件であり、表3-7はそのサンプル目録である。このデータを色度図上にプロットしたものが図3-13であり、これによるとデータの集中する領域は、ルネサンス時代よりも彩度の下がった赤から黄にかけての領域にあり、およそロココ時代と類似した所に現れている。その他 **Bluish Purple** にもデータが見られた。

マンセル値による色彩出現比率のグラフは図3-14、図3-15、図3-16である。

図3-14によると、色相についてはYR・R・Nがほとんどの部分を占めている。前時代にはRが絶対的多数を占めたが、バロック時代にはYRとRの比率が僅差になっているのはロココ時代に繋がる点で興味深い。また、この時代から現れたNの比率の急激な増加も著しい。特にN14件のうち、明度6の灰色1件を除く13件はいずれも明度0～2の黒色であり、黒色服飾の流行と言う事ができるであろう。更にRとYRに含まれている明度1～2の7件のデータも、測色では僅かに色みを含むが、目測によるとほとんど黒色に見え、このデータまで合わせると、YRと並んで最も高い比率となる。この他にもルネサンス時代に見られなかったBが現れた事、逆に前時代に多かった緑系・紫系色彩の割合が減少した事は特徴的である。Yの出現については1件データが現れたが、明度8.25・彩度0.75といった限りなく白色に近い色彩であり、目測でも黄色とは受け取られないので、服色としての黄色の出現とは言えないであろう。図3-15により、明度は0～6の低～中明度の色彩が多く、特にルネサンス時代やロココ時代と比べて2以下の低明度色彩の割合がより高かった事がわかる。図3-16により彩度は0～4の低彩度の色彩が多い事がわかり、3以下の低彩度の色彩の出現比率は前後の時代と比較して最も高い。つまり、バロック時代には低明度・低彩度のダークトーンが流行したと言えるのである。色相別に明度・彩度をみると、中明度・中～高彩度のR、中～高明度・中～高彩度のYR、中明度・低彩度のB、中明度・低～高彩度のPB、高明度・低彩度のP、低明度・低彩度のRPが現れている。つまり、バロック時代には明るく鮮やかな赤と黄金色、そして黒色の流行が顕著であった事、前時代にはなかった青衣の出現と、黄色の不在、また全体的にダークトーンの色調が好まれた事が特徴として挙げられる。

4. 流行色の変化の要因及び背景

4-1. 流行の要因及び背景の考察方法

前章で明らかにしたルネサンス時代及びバロック時代の服色とロココ時代の服色の傾向を比較すると、ロココ時代は他の時代と比べてあらゆる色彩が淡いトーンで使用された事、特に1750年代にロココ的色彩が顕著に見られた事、ルネサンス時代からロココ時代に至るまで赤色は常に嗜好色として存在した事、次第に黄色・青色が出現してきた事、ルネサンス時代の中明度・中彩度がバロック時代には低明度・低彩度のダークトーンになり、ロココ時代にかけて中～高明度・低彩度のパステルトーンへ変化した事等が指摘できる。ではこれらの流行色の変化には一体どのような背景があったのであろうか。

色彩の流行には、その背景に染色に関わる技術の問題や異文化の齎す外からの影響等、社会環境や経済環境、生活環境の動向が大きく関係している。その結果、ある一つの色彩を取り上げてそこから感じ取られる印象は時代によって異なり、その色彩に付与された色彩のシンボリズムや人々が抱く色彩感情にも時代ごとに差異が見られるのである。そこで本章では色彩感情や色彩のシンボリズムの変遷をもとに、時代を追って前章で導いた色彩傾向の変化の要因及び背景を考察していく事とする。また、各時代の色彩感情や色彩のシンボリズムは、ルネサンス時代については先行研究を参考に、バロック時代とロココ時代は文学作品や絵画資料を用いて読み取るという方法を採用した。というのも、文学作品や絵画作品の衣服の色はその人物の本質を代弁してくれる道具として機能する場合が多く、作家が作品中の登場人物に着せている衣服の色に何らかの意味を暗示させる事例は少なからず見られるからである。

4-2. ルネサンス時代の文化と色彩

4-2-1. ルネサンス時代の文化

ルネサンスとは“再生”を意味するフランス語で、一般的に14世紀にイタリアで始まり、16世紀に完成の域に達した古典文化復興運動を指す。それは中世以来、長い間キリスト教の権威主義の下に葬られていた現実性や人間的な強い欲求を蘇らせようとする運動である。ルネサンス時代の人々は新プラトン主義（現実を肯定する事がキリスト教的な生活と融合できるという考え方）を新しい生活規範とし、人間の知性や肉体の自由を謳歌する事、つまり人間性の再生を目指したのである。このように自由で人間らしい生活を求める人々にとって過去に栄えたギリシャ・ローマの生活や文化はまるで理想的なものとして映り、彼らは古典主義を踏襲する事で中世の様々な制約を少しずつ崩していった。

ルネサンスの運動がイタリア、特にフィレンツェを主な舞台として展開された事は周知の事実である。当時のイタリアは既に市民社会を実現したヨーロッパの先駆的立場にあり、また東西貿易の繁栄等、経済的にも極めて有利な都市国家を形成していた。世界的な貿易の拡張に伴って商品の需要は著しく増え、従って生産方式も必然的に拡大し、織物や多くの工芸品は生産量が飛躍的に増大した。

貿易の齎す利益は毛織物産業や絹織物産業、染色業に投じられ、豊かな色彩の服飾文化を誕生させた。この影響でヨーロッパの宮廷は多彩な織物を享受する事ができるようになり、色名はそれ以前の時代と比較にならない程豊かになった。そしてそれらの色彩はルネ

サンス初期には中世のキリスト教的色彩象徴の影響が残存し、やがて次第にその制約を離れてより自由に楽しまれるようになった。フィレンツェは毛織物によって莫大な富を得て、その名産地として世界的なフランドルと肩を並べるまでに至った。有力な市民階級は織物の製造業者や織物を取り巻く商人、或いは商人兼銀行家となって権力を増強し、繊維産業や染色業の振興・育成に努め、フィレンツェ経済を目覚ましく進展させた。そして大銀行家メディチ家を始めとする上流富裕階級の人々は、それまで教会や組合が主であった芸術庇護の領域に個人として影響力を持ち始めた。かつての教会付随の諸工芸品には宗教的色彩が濃厚であったが、この時代には富裕な市民階級の要求に応じながら享楽的生活のために作られたので、そこには現実的生活への情熱と、豊かな感情が満ち溢れていた。こうして宗教的束縛から解放されて、自由性と人間性が加味された所にルネサンス芸術の特徴があるのである。

ルネサンス運動の傾向が服飾にまで及ぶのは15世紀末になってからであるが、服装史の上でもこの運動は重要な意味を持っている。ルネサンスの個人的思考の自由と染織技術の発達、当時の富力と相まって、衣裳の形態や色調に多大な変化を与えた。人々は教会の支配から解放されると、同時に中世の禁欲的な衣服もまた脱ぎ捨てた。生活が豊かになった市民は美しいものを着る事を競い、新しいモードを貴族よりやや遅れて、そして遂には彼らと同時に身に着けるようになる。ルネサンス時代に生きる人々の心の解放を願う熱情は、服飾をより多彩に、より装飾過多へと導いたのである。

4-2-2. ルネサンス時代の色彩

3章において、ルネサンス時代には鮮やかな赤色の流行が著しく見られた事、次いで黄金色、暗濁色の紫色と緑色、黒色が流行した事、青色と黄色は出現しなかった事を明らかにした。では、これらの色彩に対するルネサンス時代の人々の感情とは如何なるものであったのだろうか。

まず、顕著に現れた赤色の意味を考える。ルネサンス期、赤色は“最も美しい色”“最も主要な色”であった。鮮やかな赤い衣服の着用は特別な階級にしか許されておらず、有力市民の象徴として機能した。表4-1は貴族プッチョ・プッチ家の財産目録に見られた衣類の色の出現回数を表にまとめたものであるが、これによっても、やはり赤衣の割合が極めて高い事がわかる。色名にしても赤系の色は他の色には見られない程種類が多く、ルネサンス時代の人々はかなり微妙に赤色のニュアンスを言い分けた。このような赤色に対

する特別な扱いは文学作品、ボッカッチョの『フィレンツェのニンフ譚』（1341～42年）にも見られる。この著書の中で、キリスト教の七元徳の擬人化であるニンフ達はそれぞれ表4-2に示したような色の衣服を着けている^{xxi}。当時既に多くの色彩があったにも関わらず、7人のニンフのうち3人が赤い衣服を着ている。このように、ルネサンス時代の人々は赤色を格別の色として扱ったが、その背景には伝統的な色彩感情と、染色の技術的・経済的要因が影響している。赤色の高い価値は古代オリエント、ギリシャ、ローマの貝紫染めに端を発している。貝紫染めは地中海などで採れる巻貝の分泌液で赤味がかった紫色を染め出すもので、騎士や貴婦人の衣服を染めるための重要な染法であった。しかし中世に入ると、貝紫染めは原材料の乱獲により次々と姿を消していき、13世紀には古くからその代用品であった染料ケルメスによるスカーレット色が貴族や富裕階級のステータスシンボルとなったのである。また赤衣を高価にするのに、当時の染色の技術及び染料の価格も影響した。表4-3は当時の布の最終取引価格である^{xxii}が、これを見ると上位を占めているのはケルミーズィ（深紅色）やパオナッツォ（孔雀を語源とする赤系の色）、ヴェルミリオ（小さな虫を語源とする赤系の色）、ザッフィオラート（ブラジルスオウで作られる赤系の色）といった赤系の色、そして暗緑色やアレッサンドリーノ（濃い青色）ような濃色である。これらの染色品の価格差は、染料自体の価格とその使用量によって決まった。即ちケルメスは東欧及び西アジアから、グラナーナは西地中海から輸入されており、またどちらも染色工程が複雑で時間も費用もかかるうえ、少量でも極めて高価な染料であった。ブラジルスオウの価格はケルメスやグラナーナ程ではないにしても、遠く東南アジアより輸入されるため、輸送費がかかる分、高価な染料の一つであった。アカネは古代よりヨーロッパの多くの地方に自生したため最も広く使われた一般的な赤色染料であったが、質の良い染め上がりを期待するならフランドル産のものを購入しなければならない。このような事情で赤い衣裳の価格は群を抜き、富裕階級の人々は富の象徴として華麗な赤い衣服を着用したのである。以上のような経緯で、中世ヨーロッパにおける赤色は、常に最も重要な色として特別な扱いを受けるようになった。では、この高貴な色にはどのようなシンボリズムがあったのであろうか。

まず考えられる第1のシンボリズムは“慈愛”である。ダンテの『神曲』の『煉獄篇』（1313年）の中で、ダンテは地上の楽園で神秘的な行列の中に赤、緑、白の三人の乙女を目にするが、これはその後の註解でそれぞれ“慈愛”“希望”“信仰”というキリスト教の三対神徳の擬人化であると解されている。これら3色とキリスト教の三対神徳との結

びつきは最も基本的な色彩シンボリズムであり、やがて対神徳の中で最高位の“慈愛—赤”は、枢機卿のような高位聖職者が身に着けるのに相応しい色と見なされるようになるのである。続いて挙げられる第2のシンボリズムは“勤勉”である。バルベリーノの代表作『愛の訓え』(1310年頃)では、勤勉(Industria)と呼ばれる女性がロザート(薔薇色)の衣服を着けている。当時、ロザートの服は極めて高価なものであるだけに、使用時はもちろん、その保管にも細心の注意を払う必要があり、そのためにたゆまぬ勉強を要した。これによってロザートは、知的活動を行う者にこそ相応しい色と見られ、“賢明”“叡智”の象徴と成り得たのである。また、医者や学者がロザートを始めとする赤い衣服を好んで着ていた事からの連想もあっただろう。つまり、この“勤勉”のシンボリズムは宗教的なものとは異質の、実生活から生まれた新しいシンボリズムである。さらに、第3のシンボリズムとして“戦い”“死”が挙げられる。ジョヴァンニ・デ・リナルディの『奇怪きわまる怪物、二つの論考、第一に色彩の意味について、第二に草花について論ず』(1559年)では、復讐・責苦・戦争・殺戮などの流血の事態を司る神マルスとその妹ベローナがサングイーニョ(血紅色)で装っている。サングイーニョは血(sanguine)を語源とする赤色であるので、戦いや死のような血の持つ負のイメージが付されたのである。また、血の異なるイメージとして“正義”もある。ボッカッチョは前掲の『フィレンツェのニンフ譚』にサングイーニョを着けたニンフ・エミリアを登場させている。彼女は傲慢の象徴である若者イブリーダを正道に導いた正義の化身である。このような正義と赤色の結びつきは主イエス・キリストの血染めの衣がキリストの受難を暗示するように、聖書以来見られるものである。聖人聖女の受難や殉教において流される聖なる血は、世の人々の罪を贖い浄め、正義を裁くものであるのだ。裁判官が赤い衣服を着るのは、彼らが正義を貫くためである。第4のシンボリズムは“性愛”“恋愛”である。ボッカッチョの最初期の作品『ディアナの狩猟』(1334年頃)の中で、ウェヌスは処女神ディアナに仕える乙女達に、ヴェルミリオを纏った男達を恋人として授けている。更に後の作品『愛の幻影』(1342年)でも、ボッカッチョは愛の神にやはりこの色を身に着けさせている。これを併せると、ヴェルミリオは恋愛と何らかの関わりを持っている色であると考えられるのである。このように、赤色はルネサンスの人々に最高の、最上のイメージを与える色であったので、前章で述べたように、身分の高い人々がこぞってその色を着用し、肖像画を描かせたのも当然の事であったのだ。

続いて、ルネサンス時代の金色に対する感情について述べる。ボッカッチョは『フィレ

『フィレンツェのニンフ譚』で“信仰”の乙女リーアにこの色を与えている。この金色と“信仰”の結びつきは中世のキリスト教の色彩観を引き継いだものである。1481～82年に描かれたペルジーノの作品（図4-1）は、イエスが第1の弟子である聖ペテロに天国の鍵を授与する場面であるが、ここで聖ペテロが深みのある金色を着用しているように、そのアトリビュートである鍵と共に、金色は“信仰”を意味し、見る側に彼がペテロである事を知らせるシンボルなのである。図4-2は武器を手にした兵士達に誰がイエスであるかを知らせるために、ユダがイエスに接吻をしている場面を描いた1304～06年のジョットの作品であるが、ここでも画家は左端にいる12人の弟子の長である聖ペテロに深い黄金色の服を与えている。また、金色は中世以来、太陽の光になぞらえられ、“富裕”と“権力”の色であった。それは、金や小麦の穂の実りを想起させるため、富と繁栄の色とされたからである。こうして金色は高貴な人々の身を飾るのに相応しい色彩として重用された。

前述の通り、紫色は古代の貝紫染め以来、高貴な色であった。貝紫染めは1粒の貝から僅か3～4滴しか採取できない染料の稀少性、染め上がりの美しさ、そして当時唯一の染色堅牢度の高さによって、王侯貴族の身を飾るのに相応しい色とされたのである。乱獲が祟って中世にはその技術も失われたが、しかしその色名だけは文学作品等に生き続け、紫色はルネサンス期にも“高貴”“権威”“富”の象徴としての地位を維持した。例えば、ボッカッチョは『テセイダ』で高貴な血のアルチータに、『愛の幻想』では「大いに敬われし」⁴⁴シャルルマーニュにその色を着せている。紋章学においても、紫には“主権”と“高位”が意味づけられている。貝紫染めが失われて後の紫色は、始めに青色を、次いで赤色を染めるという二度染めが施され、手間がかかるため、高価な色であったのである。

同様に二度の染色工程が必要であったものが緑色である。黄色と青色の二度染めを要した緑色の服飾品は、その費用が上乗せされるため、表4-3の通り一着の値段も決して安くはなかった。そのため表4-1のプッチョ・プッチの財産目録でも多く見られたように、ルネサンス時代の富裕階級に好んで着用されたが、ではそのシンボリズムは如何なるものであったのだろうか。フランスの紋章官シシルは『色彩の紋章』（1458年）で緑色を“歓喜”の色としている。ボッカッチョも『フィレンツェのニンフ譚』や『テセイダ』を始めとする作品の中で緑衣の人物を登場させているが、いずれも受洗・祝祭・婚礼・復活祭といった歓びの場面においてである。また、『フィローコロ』（1336～38年）でヒロインは処刑の場で黒衣を纏わされているが、彼女の着衣が黒色から緑色へ変化する事は、獄中の恐怖から新たな生命の始まりへという状況の好転を意味しているという解釈がある。

このように、暗色から緑色に着替える事は“再生”“復活”のシンボリズムでもあった。更に、緑色は“恋愛”の色でもある。13～14世紀にかけて、文学作品に緑衣を着た想い人が詠い込まれる例が少なからずある。5月の美しい緑と共に春が訪れ、人々はみな緑色を着けた。5月は恋の季節である。草木の緑はよき収穫を期待させる希望の色であり、“恋”の色なのである。このように緑色は恋心の象徴であるが、ただし、それは赤色のシンボリズムである永遠の“慈愛”ではなく、秋になれば枯れてしまう不安定な“恋愛”を意味するのである。

黒色は古代ギリシャ・ローマ時代より“死”“悲しみ”“恐怖”の色で、喪に服す時に着用される、日常には避くべき色であった。しかしルネサンス期には、このような“死”の色がスペインモードとして市民の衣服に現れるようになった。スペインは15世紀末からヨーロッパ各地に勢力を伸ばし、16世紀前半には世界最強の国家となって、モード面でも影響力を持ち始めていた。スペインの黒衣の始まりは、1516年にブルゴーニュ公フィリップ善王の息子カルロス1世がスペインの王位を継承した事で、ブルゴーニュ公国を支配していた黒服の流行が持ち込まれたものである。ブルゴーニュ公国の黒衣の着用は、1419年に自分の父親がフランス軍によって殺害された時にフィリップ公が黒衣を着たのが始まりで、彼は敵討ちをする意思表示としてその後もほとんど黒衣を着けていた。そして彼が戦いで勝利して「善王」^{xv}と奉られる程の強大な権力を得るにつれ、次第に黒色の流行が始まったのである。フィリップ公の宮廷はその華麗さで名高く、彼が着た黒い衣裳は豪華そのもので、“権威”の重みと“厳粛さ”を併せ持った、重々しい“威厳”と“地位”を示す色となった。そしてこの黒色の流行がスペインに持ち込まれると、すぐにその国の厳格な伝統の中に受容され、その国勢と共にヨーロッパ全般に波及したのである。そして、カスティリオーネの著『宮廷人』（1528年）で「衣服に用いる色としてはどの色にも増して遥かに優雅」^{xvi}と紹介されているように、黒色は“優雅”な色になっていったのである。染料についても、16世紀の中頃にはスペイン人がメキシコで発見したログウッドが導入され、黒色の染色技術が格段に進歩した。それまでの黒色の染色は何度重ね染めをしても真っ黒とは呼べないものであったが、ログウッドは媒染剤に鉄とタンニンを使用する事によって比類なく見事な黒色の染色を可能にしたのである。そしてこの色は華麗なルネサンスの色彩の中で晴れやかに際立ったために大変好まれ、次第にそれまでは赤色にしか染められなかったような高級な絹織物も黒く染められるようになり、黒色の染色品はいっそう値を高めていった。こうして黒色は“死”の色から衣裳に最も“優美さ”

を与えてくれる“高貴”な色となって、裕福で地位も権力もある人々に着られるようになったのである。

黄色が前章のサンプルに全く現れなかったように、ルネサンス時代の人々はこの色を忌み嫌った。その理由は、この色が中世以来、何よりもまずユダヤ人や売春婦、税の徴収人等、卑しまれた特殊な階級の者を区別する目印として機能していたからである。黄色は社会から最も排斥された者を見分けるための印であり、一般市民が着る事はまず考えられなかった。染料についても、モクセイソウやサフラン等、近隣諸国から容易に入手でき、染色費用としては最も安価な部類に入った。こうして黄色は下賤な色の印象を抱かれるようになり、必然的に負の価値が担わされるようになったのである。前掲の図4-2の中央で褪せた黄色のマントを着けている人物が、今まさにキリストをパリサイ人に売り渡そうとしているユダである。これは中世のキリスト教的色彩シンボリズムより続く“裏切り”“虚偽”のシンボリズムで、ルネサンス時代に至っても根強く機能していた。この作品では、ユダには薄い黄色を、左端にいる聖ペテロには濃く深みがある金色を与える事で、“裏切り”の黄色と“信仰”の黄金色を区別させる画家ジョットの配慮がよく表われているのである。また黄色は、少なくとも13世紀から“狂気”の色でもあった。これは、サフランを長く吸うと気が狂う事からの連想であろうと指摘されている。このような事情で、黄色は衣服として身に着ける事は極力避けられたのである。

青もまた、ルネサンス時代において影の薄い色であった。この色は、古代ローマ時代から辺境に住むケルト族やゲルマン族の纏う“野蛮”な色であり、ルネサンス時代に至っても“田舎者”の色と見なされた。ルネサンス時代の若者達には青衣を着て愛の告白をするという風習があったが、このような青=恋のイメージは、逆にこの色さえ着けていれば人を騙せるという“不誠実”のシンボリズムを生み出した。図4-3の中央で女性が夫に青いマントを着せているが、これは青いマントを着せる=相手を騙すというネーデルラントのことわざを描いたものである。しかし、青色は黄色のように完全に忌み嫌われた色ではなかった。例えば、キリスト教的色彩シンボリズムで言えば、青と言えど何よりも聖母マリアの衣服の色であり、空の色、天空、即ち“神性”のシンボライズであった。聖母マリアの想いは常に天の父なる神に向けられ、よって聖母マリアは空の色の衣を纏われたのである。聖母に青色を纏わせる事は12世紀以後定着したもので、その色には最も高貴な石であるラピスラズリから採る高価な顔料であるウルトラマリンが使われた。これは聖母の衣だけに特別に使用されたので古くから格別な敬意が払われ、後にマドンナブルーという

名が付けられた。また、フランスでは13世紀以来紋章や芸術作品に青色が積極的に用いられ、12世紀後半には“王家”の紋章の地色にも青色が採用されている。ルイ6世（在1108～37年）とルイ7世（在1137～80年）の顧問を務めたスグリウスと聖ベルナルドゥスは聖母をとりわけ強く崇拝し、フランス王国を聖母の保護下に置こうと努力したため、彼らの影響を受けた二人の王も象徴的な演出の中に徐々に青色や百合の花（聖母のアトリビュート）を導入した。そしてその次のフィリップ・オーギュストの治世の最初に、国王の紋章として青地に金色の百合の花というエンブレムが選ばれたのである。つまり、フランス王家の紋章は聖母マリアに対する崇拝から来ており、紋章官シシルも『色彩の紋章』でフランスの紋章が青地である理由を、「キリスト者たる王に極めて相応しかった」^{xvii}と述べ、青色を“誠実”“正義”の徳と結びつけ、赤色に次いで高貴な色としている。このようにフランスでは、青色は寧ろ肯定的な印象で捉えられていたのである。では、なぜプラスのイメージもあった青色が全く着用されなかったのであろうか。それには染料の問題が大きく関係している。この時代の青色は国産でまかなえる安価な大青で染められ、その仕上がりは褪せて薄汚れた感じであり、“卑しさ”を想起させる色で、農民や庶民が着用するものであった。16世紀の大航海時代が到来すると、インドから低価格かつ遥かに鮮やかに染められる新しい青色染料として大量のインド藍がヨーロッパに齎されたが、当時その製法はあまり知られておらず、またイングランドやフランスではその使用に対して強く非難がなされ、よってヨーロッパではほとんど大青による褪せた青色しか得られなかったのである。色名についても、セレステやトゥルキーノ等の青色を表わす言葉もたくさん存在していたが、それぞれの青の色調については人によって使い方がまちまちで、当時は確固たる概念が形成されていなかった。これまで度々用いたボッカッチョやダンテの寓意文学作品の中にも、徳と青色とが結びつけられる例は皆無である。このように、青はルネサンス時代の人々にとって認識の薄い色で、大衆的な印象を持ち、高貴な人々が身に着けるには相応しくない色であったのだ。

4-3. バロック時代の文化と色彩

4-3-1. バロック時代の文化

今日、一般に16世紀末から18世紀初頭にかけて生み出された美術を、バロック美術と呼んでいる。バロックの語源は、“歪んだ真珠”“でこぼこの真珠”の意味を持つポルトガル語のパロコがフランスに移入されて、“不恰好な、奇妙な”の意味に転化したものと考

えられている。これは、それまでのルネサンス芸術が端正な秩序を重視したのに対し、バロック芸術はちょうど歪んだ真珠のように不整形なもの、何か奇妙なものという概念に基づいている事を物語っている。

政治的・経済的理由から勢力を失ったイタリアに代わって、バロック期の前半はオランダの繁栄がヨーロッパ文化を支配した。ヨーロッパ一帯が政治的分割や宗教的対立等の激しい戦火に度々見舞われた17世紀前半、オランダは1609年にスペインからの独立を実現して平和を保ち得た唯一の国であった。当時のオランダは、毛織物による商工業及び貿易取引による経済力の充実や、カルヴァンの新教（プロテスタント）に基づく新しい思想の確立等を活力として市民生活を繁栄させ、“黄金の世紀”として輝かしい繁栄を誇っていたのである。市民層の活躍は服飾文化にも直接影響し、それまでの宮廷文化の華美な装いではなく、豪華さより実用性を、技巧的より着やすさを、貴族調より市民調を求める新しい傾向を生んだ。そしてヨーロッパ各国の人々はオランダの輝かしい発展に心惹かれると共に、その市民色豊かで簡素なゆったりとした衣裳をも模倣し始めたのである。

世紀の半ばを過ぎると、政治権力の中心はフランスの宮廷に移行し、服飾様式の上にもフランスの勢力が示されるようになった。ルイ14世は自らの君主としての権威を誇示するため、宮廷建築のみならず、宮中の儀礼や社交、服装にまでも偉大さ、権威を付与し、殊更仰々しく見せた。王によって昇格させられた豊かな財力と知識を持った新興市民階級も、新貴族として自らを価値づけるために、服飾を飾りたてて権威を誇示する事を試みた。こうして薄弱な内容を覆い、見る者を眩惑しようとして、必要以上に装飾しようとする傾向が生まれ、賑々しい装飾、重苦しい付属品、わざとらしい形態という、いわゆるバロック様式の服飾が成立した。そして、国王が全てである絶対王政の思想によって、これらの極めて外面的でバロック的な服飾傾向は宮廷から国中に、そしてヨーロッパ中に伝播していったのである。

4-3-2. バロック時代の色彩

3章の色彩統計の結果、バロック時代の服色には黄金色・黒色・赤色がほとんどを占めた事、ルネサンス時代の緑色や紫色の割合が減少した一方で青色の出現が見られるようになった事、黄色は引き続き見られなかった事を明らかにした。ここでは、これらの色彩に対するバロック時代の人々の感情について述べる。

バロック時代には、専制君主の“威厳”を伝えるため、黄金色の輝きを中心に重厚な色

が好まれた。ルネサンス時代の自由に対する情熱のほとばしりのような輝く火の赤色に対する嗜好は、この時代にはスポットライトのように1点に照りつける黄金色へと変わったのである。絶対王政下においては君主そのものが光であり、君主はいつも光の中に立っていた。図4-4はヴェルサイユ宮殿のルイ14世の寝室であるが、このように君主の生活、君主の宮廷は全て黄金色に包まれていたのである。こうして前時代に引き継ぎ、黄金色は“権力”の色であり、“富裕”の象徴であった。モリエールの『ドン・ジュアン』（1665年）の第2幕では、ピエロは自分が助けた人物の中の1人が「おそろしく偉い旦那に違いない」と思った理由を「着物の上から下まで金びかずくめ」だからと言って^{xviii}、黄金色の衣裳で彼の権力と富力を判断している。また、ボワローが『諷刺詩』（1666～68年）で「黄金を纏えば醜男も惚れ惚れするような好男子」^{xix}と諷刺しているように、この時代には黄金色さえ纏っていれば、それだけで周囲の人々から重んじられたのである。

黒色の価値はルネサンス時代にスペイン調モードによって高められ、3章の結果でも8%程度の出現が見られたが、バロック時代にはその割合が34%を占め、黄金色と並ぶ最頻出色となっている。このような急激な黒色服飾の増加には如何なる背景があったのだろうか。1620年頃まで見られたスペイン風に代わって、モードを支配したのは世界繁栄の新しい担い手となったオランダの、市民色豊かで簡素な衣裳であった。当時のオランダは終わらない戦乱に苦しむヨーロッパの中で辛うじて平和を保ち続けていたが、やはりその一方では周辺の国々の勢力に脅える不安な国家であった。このような状況下で、オランダの黄金時代は国民の多くが男女や階級の区別なく黒い服を着た、ほぼ黒衣に包まれた時代であった。富裕な商人もビロードやサテンといった衣服の素材で自らの繁栄ぶりを誇示することはあったが、その色彩は一般市民と同じ黒色であった。このように黒色服飾はオランダ中を席卷したが、このオランダの黒色は、階級や権力を表わしたスペインの黒色とは性質の異なるものであった。それは戦乱に脅えながら繁栄した新しいブルジョワ国家の不安な時代の“恐怖”を映し、北方系民族特有の“質実”で“地味”な嗜好にも適合した色であったのである。また、この色は敬虔なプロテスタントの“厳格さ”の色でもあった。当時のオランダはカルヴァンの新教（プロテスタント）を奉じる独立国で、彼らはその高潔な道徳に対する賛辞として、つまり“宗教の色”として黒衣を着用したのである。このようなオランダ市民の用いた簡素な黒色は、それまでの貴族的なルネサンスの奢侈の中で極めて新しく印象的に映り、ヨーロッパ各国を風靡した。そして世紀後半になってモードに新しくフランス風が現れても、黒色服飾は引き続き多用された。アタナシウス・キ

ルシエルは『光と陰影の大技術』（1646年）の中で、「光は陰影なくしては、陰影は光なくしては存在しない」²²と述べている。つまり、絶対王政の黄金色の強い輝きは、“陰影” “影”としての黒色の存在を以って完成したのである。黒及びダークカラーはフランスの君主の威容や権威を象徴する黄金色を確かに惹き立てている。こうして黒は、初め“質実”で“厳格”な市民的色彩として、そして次第に金色の輝きを増す“影”の色として、バロック時代を通じて愛用されたのである。

ルネサンス時代に服飾の色彩のほぼ半数を占めた赤色は、この時代になると前時代のよ
うな勢いは失われるものの、引き続き衣服に多用された。ステイタスシンボルとしての役
割も依然として果たし、中でも緋色はルイ14世による勅許服の制定によって“特権”の
印、“最上”の服、“最大恩寵”の印として禁色とされた。勅許服とは1662年にルイ1
4世が初め彼の側近の12名に、次いで40名程の者に着用を許した王自身と同じような
ジュストコールで、赤い裏付きの青のモワレ地で、袖の赤い折返しと赤いベストが付き、
金糸と少量の銀糸刺繍で独特の豪華な文様を浮き出させていた。特権として色彩を与える
事は、この時代の虚栄心で動く人々にとって大変な恩寵であった。このように国家が個人
の服装を統制する事によって、限られた一部の貴族・官職の権威のみを高める事が可能に
なり、同時に彼らを宮廷寄食者の地位に転落させる事になった。そしてこの特権を与えら
れなかった人々は高価な装飾品や色彩の使用を統制され、よって国家は服装における個人
の自己主張を権力によって制限する事ができたのである。ラファイエット夫人の『L A P
R I N C E S S E D E C L E V E S』（クレヴの奥方、1677年）では、フランス
国王とイギリス国王をウォルセー僧正が和合させる場面において、フランス国王はイギリ
ス国王に真珠とダイヤモンドで三角形にけばけばしく飾りたてられた深紅色のサテンと、
黄金で刺繍された白いピロードのローブを贈っている。またルーブル宮で行われた皇女の
結婚式の場面では、出席したアルバ公が、金襴の衣裳に燃え立つような緋色、黒、黄など
の色が混ざり、一面に宝石で飾った見事な衣裳を着けている。このように“最大恩寵”の
色、“最上”の色としての赤色は文学作品にもしばしば現れた。当時の染色技術の面におい
ても、赤に属する色調は最も鮮明で、染色後の変化も少ないものであった。この頃の新し
い赤色染料としては、スペイン領アメリカ産のコチニールが挙げられる。コチニールはレ
モン汁によって美しいピンク色を生じ、しろめの硝酸溶液によって明るい緋色に変わる染
料である。16世紀前半にはスペインがその組織的収集を行い、17世紀初めにはコチニ
ール緋の染色技法が開発された。1620年代にヨーロッパに導入され始めたコチニール

は、次第にケルメスに取って代わった。そして1660年以後まもなく、コチニールはその製法をメゾン・デ・ゴブランが採用した事でフランスに導入され、1880年頃に合成染料の出現によって利益があがらなくなるまで約400年間メキシコで集中して使い続けられたのである。また、同じく新大陸でブラジルスオウノキも発見された。前に述べたように、ブラジルスオウノキは東南アジアから輸入されていたために輸送費のかかる高価な染料であったが、南アメリカでも発見され（ブラジルという国名の由来となる）、上質の赤色の普及に貢献した。このように染料の面でも引き続き優位を占めていた赤色は、バロック時代になっても特権階級に着用されていた。

前時代の衣服に全く出現しなかった青色は、バロック時代になって肖像画にも登場し始め、勅許服にまで使用される“特権”の色となった。この色彩感情の変化には、フランスモードの影響と染料の変化が関連している。前述の通り“フランス王家”の紋章は青地に金色の百合の紋章であり、フランスにおける青色の印象は他のヨーロッパ各国に比べても非常に良いものであった。そしてこの色彩感情がフランス風モードに乗ってヨーロッパ各国に広く伝わっていった時、ちょうど時期を同じくして、大航海時代が齎した大量のインド藍が青色染色技術を改善し、それまでより鮮やかな青色の染色が可能になった事で、広く青衣が着用されるようになったのである。16世紀にフランスを含む多くの国で禁止されたインド藍の使用は、この時代にも国内産染料の使用を奨励するためにやはり制限され、大青に混ぜて使う事のみが許されていた。こうしてインド藍は初め限られた量で、そして次第に大量に使用され始めたのである。インド藍は大青に比べて大量のインジゴを含み、美しい青色染色に貢献した。この事から、青色の布地が広く使われるようになり、国王軍までも青の軍服を着るようになったのである。

一方、黄色の染色は引き続き入手が容易で安価なモクセイソウやサフラン等の染料で行われ、依然この色は下賤な色として高貴な身分の人々の衣裳には出現しなかった。しかしその色彩イメージは次のロココ時代に向けて明らかに変化し始めていた。この時代になると中世の教会支配による色彩シンボリズムは完全に失われ、ユダの色といった迷信的な黄色のマイナスイメージも次第に薄れていったのである。また自然科学の発達や、世紀初めにデカルトが合理主義を唱えた事等によって、バロック時代には人々の思考も次第に合理的になり、迷信からの脱却を促していったと考えられる。更にそれまでの反ユダヤ主義にも変化が見られた。16世紀から始まった宗教改革はそれまでのユダヤ人に対する否定的な見方に異論を唱え、1598年にはアンリ4世がナントの勅令を発した事により宗教寛

容の時代を迎えて、ユダヤ人には居住や商業活動等の様々な権利が認められるようになった。こうして17世紀には反ユダヤ的傾向が弱まり、ユダヤ人に黄色の着用を強制させて区別するといった迫害も行われなくなったのである。そして黄色に対する人々の感情は、ロココ時代に向けて内面から少しずつ変化し始めた。

またこの時代には、前時代に好まれた緑色と紫色の出現が僅かになっている。この2色に共通して言えるのは、それを染めるために黄色と青色、赤色と青色という二度の染色工程を要したという事であり、どちらの色も染め上がりは常に不安定であった。そのため、赤色や青色の美しい色彩を使用する事を許された特権階級は、敢えて不安定な緑色や紫色を着用したがらなかったと考えられる。つまり、王から与えられた赤色と青色、絶対王政の黄金色の光と影の黒色といった色を身に着ける事はその人の威厳を示し、その他の色を着ける事は、まるで王の加護を受けられなかったように捉えられたのではないだろうか。特権を与えられた一部の人々は喜んでその色の衣服を着けて権力を示し、虚栄心を満足させた。こうしてこの時代の高貴な身分の人々は、黄金色、黒色、赤色、青色以外の色彩をあまり使用しなかったと考えられるのである。

4-4. ロココ時代の文化と色彩

4-4-1. ロココ時代の文化

ロココ時代の文化についてはこれまでに詳しく述べているので、ここではロココ時代の色彩を考察するのに必要な時代背景のみを再び簡単にまとめる。

ヨーロッパ文化の中心はこの時代にも引き続きフランスであり、ロココ芸術と文化はフランスを発信地としてヨーロッパ各国に伝播した。まず、ロココ時代の幕開けはルイ14世の死後、享楽主義的な摂政オルレアン公の時代である。バロックの厳粛な精神から解放されたこの時代には、経済的にも社会的にも実力をつけた貴族階級や市民階級が一気に羽を伸ばし、生活の自由・自律を謳歌する中でロココ文化を育んでいった。バロック時代の重厚な趣味に代わって、ロココ趣味はより軽快で流麗に、女性的で官能的に、そして直線よりもしなやかな曲線を、静止よりも動きを、壮大さよりも繊細さを、儀式的なものよりも私的な楽しみを求めた。そしてこのようなロココ時代の風潮は、モード面にも強く影響を与えている。ゆったりとくつろいだ印象の優雅なローブは流れるような文様の織物から成り、その淡い色彩にも、まさに軽やかな時代の雰囲気が見事に表わされていた。また、ロココ時代はシノワズリを始めとして異国の影響を積極的に採り入れた時代であった。こ

の時代の異国趣味は、遠い外国の珍しい物をそのまま用いるだけでなく、その文様や色彩といった技術、感情までも採り込み、更にはそれを模造し、フランス風に咀嚼した新しい産業をも生み出したのである。

4-4-2. ロココ時代の色彩

3章の結果によって、ロココ時代の服色には薄い薔薇色や褪せた黄色といった淡いパステルトーンの流行が特徴づけられる。出現した色彩の中でも大きい比率を占めたのは赤色から黄色にかけての色相で、淡いものから冴えたものまであらゆる調子の色彩が見られた。そして、それに続いて緑色と明るい水色の出現が多く見られ、またバロック時代に多くを占めた黒色の減少と、逆に皆無であった黄色の増加も著しかった。ここでは、バロック時代からロココ時代にかけて起こったこのような流行色の変化の要因について述べる。

ロココ時代のパステルトーンの流行には、アイザック・ニュートンの混色理論の発見が大いに関係している。ニュートンは初めて光をスペクトルによって赤・黄・青の三原色に分離する事に成功し、著書『光学概論』（1704年）の中でその他の色彩はこれらの混色色に過ぎないとした。この研究は人々の複合色や中間色、ぼかし等に対する関心を高め、ゲッティンゲン大学のヨハン・トビアス・マイヤーもこの混色の基本原理を確立し、91種の主な色相と9,381種の色調を人間の眼で判別する事に成功している。こうして18世紀にはこれらの色彩の染料を製造するために必要な条件が探求され始め、盛んに微妙な混合色が生み出されていったのである。新しい混合色の登場によってロココ時代の服飾はいっそう多様な色彩の中から選択され始め、あらゆる身分の人々が様々な色を容易に楽しめるようになった。配色の可能性も無限になり、柔らかな色調の混合色による新しい独創的な配色はバロック時代の権力から解き放たれたロココ時代の軽薄な享楽の流行に適合し、既存の配色感覚を崩していった。こうして、それまでの権威を誇示するようなけばしい原色のコントラストは完全に取り除かれたのである。

赤色の流行はロココ時代にも続いたが、とりわけ淡い色調のピンク色の流行はロココ時代の色彩を語る上で避ける事ができないであろう。この時代のピンク色と言えば、工場創設の恩人の名からポンパドゥールピンク、ローズ・ド・ポンパドゥール（ポンパドゥールの薔薇色）と呼ばれたセーブル窯の磁器の色（図4-5）が思い出される。ポンパドゥール侯爵夫人は薔薇の花を何よりも愛し、広大な薔薇園を造って数多くの種類の薔薇を栽培したと言われており、ロココ時代には彼女の薔薇に対する偏愛を反映して各種の薔薇色、

つまりローズやローズピンクが人気を集めたのである。薔薇の花は古代ローマの時代から“勝利”や“愛”の象徴であり、ルネサンス時代以降は“愛の神”“ヴィーナス”のアトリビュートとされた。ロココ時代にもその花に“愛”の意味を持たせた例は少なからず見受けられる。当時の詩人アンドレ・シェニエの『寸鉄詩集』には薔薇のしとねにまどろむ愛の神が登場しているし、また恋人に棄てられた男に「テストリスは僕を棄てた 誓いに背いた だからもう僕には春も薔薇もない」^{xxx}と言わせて薔薇を失う＝愛を失うと解させる場面もある。このような“愛”の花は、ロココ時代の女性的で甘美な風潮に大いに歓迎され、その色彩やモチーフはモードとなって絹織物や造花、焼物等に多用された。レチフ・ド・ラ・ブルトヌの短編小説『三色娘』（1780～83年）はピンク色が最も流行した色彩であった事を伝える文学作品である。これは、1人の女性が互いに友人同士である3人の男性と付き合うために、それぞれの好みに合わせて服装や髪の色を変える事で別人に成りきり、恋をするという話である。それぞれの男性の好みは表4-4の通りである。この中で、第2の男性は洋服も履物もピンク色の彼女について「僕の恋人はいつも良い趣味で、桃色の服を着ている」とか「特に履物にセンスがあって」と言っており^{xxx}、ピンク色が当時最もセンスの良い色であった事が窺われる。また、「贅沢な服装」と言っているように、ピンク色は高価な服装の色でもあった。このように淡い色調の赤色はロココ時代を代表するモードの色となり、女性の服色に多く出現したのである。ピンク色の染料には、17世紀末にフランスに採り入れられたコチニールや南アメリカ大陸のブラジルスオウノキがあった。また、中国からも紅染め用のスオウノキ（広東以南の諸地方で産出）が相当に輸入されていたとも伝えられている。更に、それまでフランドルが独占していたアカネが18世紀の初めにはフランスの諸地域で多量に栽培されるようになったという変化もある。こうして18世紀には、ポンパドゥール夫人の好みを満足させ得る程に赤色の染色が発達していったのである。そして同じピンク色と言っても一つ一つの濃淡が尻の腹（一番柔らかい、また一番清浄な薔薇色）、妻の腹（濃厚な薔薇色）、遊女の腿（薔薇色が縹子のように光る時）、娘の尻（芳香を放って、手触りが柔らかい場合の薔薇色）等と言い分けられたように、ピンク色はその色調の微妙な差異まで注意して細かく分類された。

ロココ時代になって急激に現れた黄色は、それまでの濃く深みのある黄金色ではなく、淡い色調の褪せた黄色であった。バロック時代の流行色であった黄金色も、ロココ時代のパステルカラーの流行によって褪せた黄色、淡い黄味橙へと変化したのである。長い間ヨーロッパで避けられてきたこの色が、ロココ時代に流行色として出現したのには、幾つか

の要因が考えられる。バロック時代の色彩で述べたように、ヨーロッパにおける黄色に対する感情は中世的色彩観の薄れ、思想の合理化が齎した迷信からの脱却、反ユダヤ主義の薄まり等によって次第に変化していた。このように黄色に対する印象が内面から変化しつつあった時、第2の要因であるシノワズリの色彩観が外的刺激となって、黄色に対する迷信的な嫌悪感を完全に払拭したのである。前述の通り17世紀に流行を始めたシノワズリは、18世紀には文様や色彩等の意匠でまで採り込むようになっており、ロココ時代には中国の色彩観が西洋美術に多大な影響を及ぼしていた。黄色は中国において隋代より皇帝の着用する色彩であり、清朝でも冠服制度によって黄色は皇帝以外の者が着用できない禁色と定められていた。中国の人々にとってこの色は地上で最も尊い色であり、皇帝を象徴するものであったのである。こうしてそれまで完全に疎まれていた黄色は、中国の梔子色の織物（図4-6）や陶磁器等の工芸品によって西洋に齎され、そのエキゾチックな色彩の美しさはあつという間に西洋の人々を魅了した。以上のようにロココ時代の黄色の急激な受容は、次第に起こりつつあった内的変化とシノワズリの外的刺激の両要因が相互に関連し合って起こったと言えるのである。

不安定な染料であつたにも関わらず、ロココ時代に緑色が上位色として挙げられるのはどのような理由があつたのだろうか。前掲の『三色娘』に現れる緑衣の女性で考えると、表4-4の通り、彼女は白いドレスの女性のようにグリゼット（貧しい階級の娘）風に気取らないわけでもなく、桃色の衣を着た女性のように贅沢なわけでもない。ヒールの高さにもあるように、緑衣の彼女は二人のちょうど中間の、最も普通の、一般的な女性であると考えられる。つまりこの頃の緑色は、ルネサンス時代のように高価な衣裳の色ではなく、またバロック時代のように服色として無視された色でもない、一般的に好まれた色であつたのである。とはいえ、ブーシェが緑色のドレスを着けたポンパドゥール夫人を描いているように（図4-7）、この色はもちろん高貴な身分の人にも愛されている。ルイ15世に随行してショワジーやクレシーに赴く紳士達も金糸の縁どりの付いた緑色の制服を着用したし、ショワズール公のシャンテルーの館に来る客達も金モールの肋骨（ブランドブルー）の付いた緑色の制服を着けたと伝えられている。このように緑衣が男女を問わず、階級を問わず着用された理由として、バロック時代の色彩統制への反動が考えられる。既に述べた通り、緑色はバロック時代には色彩統制の影響であまり使用されなかった。そして、バロック的なしきたりを否定したロココ時代には、その反動として緑色を始めとするあらゆる色彩を用いる事が行われたのである。また、この色がロココ時代の自然主義・田園趣味

のムードに適合していた事も考えられる。ヴァトーの雅宴画に見られるように、ロココ時代の人々は木々の茂る庭園やのどかな田園に憩う事を大変好み、自然への親しみや憧憬を大いに持っていた。そして緑色の衣裳もまた、このようなロココ時代の人々の欲求に叶ったものであったのである。また、セーブル窯特有の配色の一つにローズピンクに緑色釉を組み合わせるといったものがあつたように(図4-5)、緑色はローズピンクとよく調和した配色であつた(図4-8)。こうして緑色染色は合成染料が現れるまで引き続き不安定であつたが、それでもロココ時代の人々はこの色に魅了され、使用せずにはいられなかつた。

ロココ時代には青色も例外なく混色されて明るい水色へと変化したが、この色の流行にも中国の陶磁器の影響が見られる。青色の磁器は中国の陶磁器の中でも最も珍重され、当時のヨーロッパに最も多く輸入された中国の陶磁器も青花(図4-9)や青磁(図4-10)であつた。この事はイエズス会の宣教師ダントルコールが景德鎮で見聞した磁器製作の実況を記した書簡をまとめた『中国陶磁見聞録』(1712~22年)にも書かれている。この中でダントルコールは、「ほとんどあらゆる色彩と金彩とを用いて風景を描かれたる磁器も有之候。この高価なるものは甚だ美しく候、但しこの種の普通の磁器は到底藍一色を以て描かれたものに及ぶべくも無之候。」^{xxiii}と述べ、その理由を景德鎮の周辺で産出される青料は下等であり、上好の磁器に使用される青料は遠くから齎され、かなり高価なものであつたためと伝えている。こうして中国でも愛好されていた青色の磁器は、フランスでももちろん愛され、セーブル窯でも天上の青(ブル・セレスト)とか王者の青色(ブル・ド・ロワ)と呼ばれるターコイズブルーに近い地色の磁器が造られた(図4-11)。それはルイ15世にも愛好されて、その使用は勅令によって限られたが、長期にわたって殊のほか好まれた。またこの時代には室内装飾や家具、調度、器、衣裳、髪型に至るまで身の回りの全てが調和していなければならなかつたので、ロココの壁面装飾にもトリアノン風装飾として青磁及び白磁の色調が流行し、そして服飾品にも同様にこの磁器の美しさが求められた。こうしてその光沢と色彩の美しさで青磁を想起させるようなロココ時代の水色の絹織物は、当時のインテリアとのトータルコーディネートを完成させ、人々の美的センスを満足させたのである。ロココ時代の絹織物の美しい水色を染め出した染料は、バロック時代から次第に多く使用されるようになったインド藍であつた。大青よりも安価で、美しく染め上がるインド藍は、ロココ時代には自由に使用されるようになったのである。こうして良質の青色を得られるようになったロココ時代の人々は、この色を歓迎して生活のあらゆる場面に採り入れていった。

バロック時代の権威的なものを否定したロココ時代には、その厳かな黒色も排除した。ジャンティ・ベルナールの詩『フロジヌとメリドール』で黒縮緬に身を包んだ年老いた男と薔薇をふりまいている天真爛漫な幼な児が対比して登場しているように、黒色は“老い”や“死”を象徴するものであったので、美や若さを追求するロココの人々に好まれなかったのである。こうして如何にもバロック的でグロテスクな黒色は廃れ、その色の着用は喪に服す時に限られるようになっていった。そして黒色は他の色相と同様にもっと淡い色調へ、つまり軽快であどけない白色へと変化していったのである。前述の通り、ロココ時代のインテリアにはシノワズリを採り入れて薄青色と白色を主色としたものが流行し、とりわけ漆喰の乳白色は大変喜ばれていた(図4-12)。18世紀フランス模造漆工の名誉を独占したマルタン一家は、もちろん当初は東洋より齎される黒塗りのエキゾチックな漆工芸品の製造を目指したが、しかし彼らの使用する密陀漆は黒色に適さず、白色及びその他の色に最適であったので、これらの色彩のインテリア等の製造を始めたのである。流行の服色にも白色は好まれ、前にも掲げた『三色娘』にも白いドレスの女性が登場している。彼女はほとんどいつでも普段着と室内履きで、ヒールも低く気取らない、グリゼット風だが“清潔”な身なりで、品行も模範的な、可愛らしい女性である(表4-4)。このように白色には“簡素”で気取らない、“無垢”で“清潔”な印象があり、ロココ時代の田園趣味、古典風モード、イギリス趣味等のムードに適合したのである。また、このような白色の衣裳の流行を助けたものに、漂白技術の改良も挙げられる。フランシス・ホーム(1719~1813年)は『漂白に関する実験』(1754年)の中で従来使用してきた酸敗ミルクまたはバター・ミルクの代わりに稀硫酸の使用を提唱し、その結果、酸処理の時間がそれまでに必要とした時間の1/25まで短縮できるようになった。更に1774年には塩素が発見され、1785年にはフランスの科学者C. L. ベルトレ(1742~1822年)はそれが強力な漂白剤である事を発見した。こうして18世紀には漂白技術が格段に進歩し、白色服飾の流行を促していったのである。実際、4章で確認した白色服飾6件も、その出現は30年代に1件、50年代に1件、60年代に1件であるのに、80年代には3件出現している。つまり、この結果にもロココ時代後半に起こったイギリス心酔や古典風モードへの回帰と共に、漂白技術の発達との関連が見受けられるのであり、そしてこの傾向は革命期の白色ドレスの流行へとますます勢いづいていくのである。

4-5. 流行色分析のまとめ

これまでロココ時代の服色の流行が生み出されるまでの過程について、時代を追って見てきた。ここでは本章のまとめとして、ロココ時代の色彩観が誕生した経緯を色別にまとめる事とする。

赤系の色彩はルネサンス時代、バロック時代、ロココ時代を通じて流行した。特にルネサンス時代には鮮やかな赤色の流行が顕著であり、この時代の色彩の中でも半数近くの出現比率を占めた。この色の価値を高めたのは、キリストの贖罪の血や三対神徳等の宗教的色彩シンボリズムの影響や、また遠隔地から輸入される染料の高値とその染色の美しさであり、こうして赤色はこの時代の最上の色となったのである。ルネサンス運動とは中世のキリスト教的束縛からの解放を目指し、現実性や人間的な強い欲求を再生させようとする運動であったが、服色については直ちに中世以来のキリスト教的色彩シンボリズムの影響を取り除く事はできなかったようである。バロック時代には赤色の出現比率は前時代よりも少なくなったものの、新しく導入されたコチニールやブラジルスオウノキによってより鮮明で美しい赤色を得られるようになり、引き続き多く使用された。そして17世紀後半には勅許服の色彩にもなって、中でも緋色はその着用を許された一部の特権階級のステータスシンボルとなっていた。しかしロココ時代になると、ニュートンが混色理論を発見した事によって、染色の分野においても混色の技術が進み、その結果混合色の流行が起こり、これまでの鮮やかな赤色はボンパドゥールピンクのような柔らかい薔薇色へと変化した。ヴィーナスのアトリビュートである薔薇の花のピンク色は愛や美を追い求めるロココ時代の風潮に合致し、その淡く軽やかな色彩は女性的なロココモードに受容されたのである。こうして淡いピンク色は当時最もセンスの良い色彩となって、ロココ時代の洗練された華麗な衣裳を彩った。

ルネサンス時代に濃く深みのある黄金色は聖ペテロの纏う色彩として信仰を象徴し、また富裕と権力のシンボルとなって、高貴な人々の身を飾るのに相応しい色彩として重用された。しかしバロック時代になるとキリスト教的な信仰の意味は薄れ、寧ろ現人神のような国王を称える色彩として、黄金色は権力や威厳を示す色彩へと変貌していった。そして、バロック的なけばけばしさを否定したロココ時代には、黄金色はより淡い色調の褪せた黄色へと変化していったのである。

紫色は古代の貝紫染め以来、王侯貴族の身を飾る高貴な色彩であった。その技術は乱獲が祟って中世には失われたが、ルネサンス時代にも依然としてこの色の高貴なイメージは

残り、暗濁色の紫色は赤と青の二度染めをしてまでも富裕な階級の人々に着用された。しかし、バロック時代になると古代の色彩観は薄れ、紫色の衣裳は僅かに出現した程度に過ぎなかった。二度染めを要したこの色の染め上がりは常に不安定であり、他に美しい色彩を得られるようになった人々が着用したがいなかったためである。ロココ時代にも引き続き鮮やかな紫色はあまり出現せず、美しい紫色の利用にはパーキンによる合成染料の発明を待たねばならなかったが、あらゆる色彩を楽しんだロココ時代には、やはり紫系の色彩も淡い色調になって僅かに利用されしている。しかし3章の結果によると、この時代の服飾に現れた淡い紫色はPよりもRPとして現れており、恐らく紫色の淡い色調と言うよりも、寧ろ淡い赤色、紫味のピンク色として利用されたのではないと思われる。

同様に二度の染色工程が必要で、ルネサンス時代の高価な染色品であったのが緑色である。この色は当時、歓喜や再生、恋愛を象徴し、富裕階級の人々に好んで着用された。しかしバロック時代になると、紫色と同じく染め上がりの不安定な緑色はあまり使用されなくなり、流行色の地位からいったん退く事となった。特権の美しい色彩の使用を許された人々は敢えて不安定な色彩を着けたがいなかったのである。この色彩統制の反動で、ロココ時代には人々はそれまで使用されなかった緑色をしばしば用いるようになった。この色は自然への親しみや憧憬を持っていたロココ時代の人々を魅了し、引き続き不安定な色彩であったにも関わらず、彼らはこの色を使用せずにはいられなかったのである。

死や悲しみの色彩として古代より喪に服す時のみ着用された黒色は、16世紀にはスペインモードとして裕福な人々に着用されるようになった。前述のように、これは15世紀にブルゴーニュ公国で流行した威厳と権力を示す黒衣がスペインに伝わったもので、この流行は15世紀末から次第にヨーロッパ全般へと波及したのである。この黒色衣裳は華麗なルネサンスの色彩の中で、晴れやかに際立った。また16世紀初めのログウッドの発見も黒色の染色技術を格段に改善し、こうして優美で見事な黒色の衣裳が高貴な身分の人々に着用されるようになったのである。バロック時代の黒色は、17世紀初めには質実で厳格なオランダ風モードとして、世紀後半には専制君主を象徴する黄金色を惹き立てる影の色彩として、黄金色と並ぶ最頻出色となった。しかしバロック的なものを否定したロココ時代には、一転して厳かな黒色は廃れ、もっと淡い色調、即ち白色系へと変化した。ロココ時代には白磁によるシノワズリの影響でインテリアにも白漆の乳白色が好まれ、服飾についても古典風モードやイギリス趣味によって白色が愛好されたのである。また、漂白技術の進歩も白色服飾の供給を促した。こうしてロココ時代には黒色はモードから姿を

消し、再び喪の時に着用が限られるようになった。

青色は古代より辺境に住む田舎者の色であり、また不誠実な恋人を象徴する色として、ルネサンス時代において影の薄い色彩であった。染料も安価な大青で、褪せて薄汚れた仕上がりしか得られず、この色の卑しいイメージをいっそう助長したのである。しかしバロック時代にはフランスモードによって青色の印象は好転し、勅許服にまで使用される特権の色彩となった。12世紀後半から使用されているフランス王家の紋章の地色に青色が採用されているように、フランスにおけるこの色のイメージは決して悪いものではなかったのである。また、大航海時代が齎したインド藍によって美しく鮮やかな青色が得られるようになった事もこの色の流行を助けた。ロココ時代には、ニュートンの色彩論や青磁や青花によるシノワズリの影響で、その色の流行は鮮やかな青色から明るい水色へと変化した。そしてこの時代には室内装飾や家具、調度、器、衣裳、髪型に至るまで身の回りの全てが調和していなければならなかったので、明るい水色はインテリアから服飾まであらゆる場面に用いられたのである。

黄色は中世より卑しまれた階級を区別する色彩であり、ルネサンス時代にも下賤な印象の色として忌み嫌われた。そして染料も入手が容易で安価なモクセイソウ等が使用され、裏切り者ユダを象徴する色彩として負の価値を担わされるようになったのである。この色はバロック時代にも高貴な身分の人々の衣裳には出現しなかったが、しかしその色彩イメージはロココ時代に向けて明らかに変化し始めた。中世的色彩観はこの頃になってようやく薄れ、また自然科学の進歩とデカルトの合理主義によって合理的な思考が発展し、迷信のような宗教的色彩象徴が次第に忘れ去られていったのである。このように色彩に対する感情が変化している時に、シノワズリによって中国の色彩観が齎された。中国において黄色は地上で最も尊い色であり、そのエキゾチックな色彩は次第に黄色を受け容れ始めた西洋の人々を強く惹きつけたのである。こうしてロココ時代には内的変化と外からの刺激とが時を同じくして影響し合い、褪せた黄色が急激に受容される事となった。

以上のような流れでロココ時代の流行色は形成されていった。このように色彩の流行は宗教の問題、染料や染色技術の問題、科学の発展、哲学・思想の変化、政治的立場、諸外国との文化交流の問題等、様々な要素が複雑に絡み合っている事がわかる。ロココ時代の流行は、その時代風潮のため一見軽はずみな戯れから生み出されたようにも思われるが、そのモードは複雑な要素が相互に影響し合って形成されていたと言えるのである。

結論

ルイ14世の死と共に幕を開けたロココ時代は、バロック時代の支配と強制から解放され、軽薄な享楽主義の時代であった。自由を取り戻したフランスの人々が生み出したロココ文化は、サロンを中心とした女性主導の、人間的で情味豊かな文化であり、この時代に一斉に花開いたあらゆる芸術はかつてない程に女性的なニュアンスを帯び、それらは一体となってフランス文明の絶頂期を齎した。ロココ様式の特色は繊細な曲線の生み出すリズムミカルな躍動感、アシンメトリーな構図、シノワズリ（中国趣味）にあり、その神髄は、束縛から解放された人々の人間らしく生きる喜びにあった。ロココ的世界で求められるのは真理や真実ではなく快い偽り、深さよりも上辺や表層、魂や精神よりも感覚、官能であったのである。服飾の上でも主導権を握るのは女性となり、華麗さ、優雅さ、麗しく柔らかな傾向がロココ服飾の理想とされ、その趣向にも女性的要素が表面に現れるようになった。最新流行の衣裳で身を飾る事は裕福であるという最初の目印であり、自分の存在を有利に導くための手段となった。こうして次第にロココ時代の人々はモードの奴隷となり、美的生活のために桁外れの浪費を行っていったのである。

ロココ時代の服飾の色彩に関する専門的研究は極めて少なく、資料もごく僅かの文献しか残されていない。そこで、実際に対象時代に描かれた肖像画を始めとする絵画作品や、当時のファッション雑誌の役割を果たしたファッションプレート、現存するドレスの写真カタログをサンプルとしてパソコンに取り込み、画像処理用のソフトでその服色を RGB 値に数値化して客観的に評価し、既存の文献の記述を確認する事に用いた。またより明確にロココ時代の色彩の特色を知るために、それ以前のルネサンス時代、バロック時代の服色も同じ方法で検討し、これらとの比較もロココ時代の色彩の位置づけに利用した。この結果、ロココ時代は他の時代と比べてあらゆる色彩が淡いトーンで使用された事、特に1750年代にロココ的色彩が顕著に見られた事、ルネサンス時代からロココ時代に至るまで赤色は常に嗜好色として存在した事、次第に黄色・青色が出現してきた事、ルネサンス時代の中明度・中彩度がバロック時代には低明度・低彩度のダークトーンになり、ロココ時代にかけて中～高明度・低彩度のパステルトーンへ変化した事等がわかった。このようなルネサンス時代からロココ時代にかけての流行色の変化は、宗教の問題、染料や染色技術の問題、科学の発展、哲学・思想の変化、政治的立場、諸外国との文化交流の問題等、様々な要素が複雑に絡み合っただけで起こっていた。つまり、ロココ時代の流行はその時代風潮のため一見軽はずみな戯れから生み出されたようにも思われるが、その流行色は複雑な要

素が相互に影響し合って形成されていたと言えるのである。本研究では実際の絵画やドレスから直接測色する事はできなかったのも、いずれのサンプルも撮影された写真の照明の加減や印刷の具合による誤差も考えられ、正確な色彩の数値を得たとは言えない部分もある。しかしここで明らかにした結果は、測色を通して各時代における色彩のおよその傾向を客観的に明らかにし得たと考えられ、先行研究が少ない事を考慮すると、現段階では一応の成果を得られたと考えられる。そして本研究を踏まえ、今後は実物資料に触れる機会を持つと共により多いサンプルをもとに綿密な研究・調査をし、ロココ時代の服色について詳細に検証していきたいと筆者は考える。

図表



図 1-1. 「朝食」 (1739 年)

一家の主が前掛けをし、愛想よく給仕している。
ロココ時代の女性主導の風潮がよく現れている。



図 1-2. 「四季」 (1740 年)

女性の足首を支え、スケート靴をはかせている男性
は、いかにも女性の魅力に支配されているかのよう
である。

表 1-1. 1751 年の数ヶ月のデュボアの売上日誌

日付	内訳	金額
3/9	銅製鍍金金具付卵胎瓶1個	480リヴル
	これと同様の品の修繕並びに以上2点のヴェルサイユへの運搬	12リヴル
6/10	壁張用インド紙2枚ヴェルサイユへ持参	5リヴル
6/22	人物文小形インド紙44枚	1枚2リヴル
	楼閣人物文大形インド紙2枚	24リヴル
	同様細長形1枚	12リヴル
	張り付け及び加工費	480リヴル
	張り付けの為の木枠10組ヴェルサイユへ運搬その他の運賃	15リヴル
8/18	素文天青色磁器暖炉飾1組	1480リヴル
	漆塗机筆筒附属の文具箱用銀製インキ壺3個	160リヴル
	ヴェルサイユにある筆筒の上に据付の黒漆棚1個	60リヴル
	銅製鍍金金具付白文貼花紫磁瓶2個	360リヴル
	同様金具及びワンセンヌ陶花付白文貼花紫磁香炉1個	120リヴル
	同様金具付緑釉水注2個	360リヴル
	罍を持つ陶製インド人形1個	108リヴル
	葱翠磁雙魚形花瓶1個	144リヴル
	以上のヴェルサイユへの運賃	15リヴル

ポンパドゥール侯爵夫人がヴェルサイユ宮殿に住むようになった1751年の数ヶ月のデュボアの売上日誌。
巨額を投じて私室を中国趣味で飾り立てた事が覗える。(当時の1リヴルは1万円に相当)



図 1 - 3. 「ポンパドゥール夫人肖像銅版画
(未完成)」(1757 年)

ブーシェ作の未完成の版画。夫人は日本もしくは中国の蒔絵のうちに扇子を持って腰掛けており、足下には愛犬であった狆のミミが描かれている。



図 1 - 4. 「ポンパドゥール侯爵夫人の肖像」
(1763~64 年)

手描きのチャイナ・シルクでできたローブ・アラ・フラセーズを着用している。

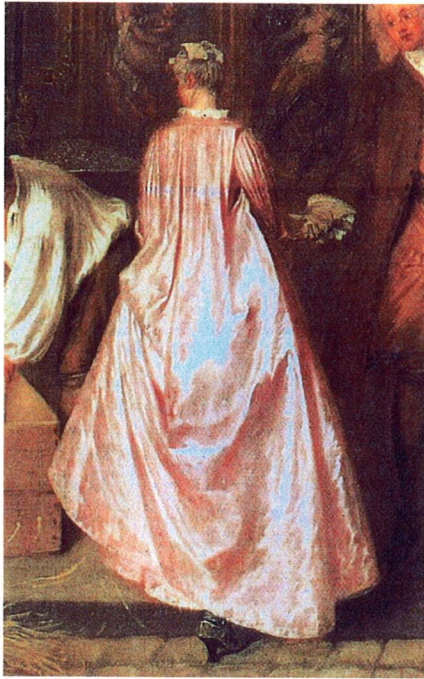


図2-1.「ジェルサンの看板」(1720年)
ヴァトー画によるローブ・ヴォラント。背中央を流れる襷がヴァトー・プリーツである。



図2-2.「愛の宣言」(1731年)
30年代に至ってもローブ・ヴォラントが描かれている。バロック様式風の大きな花文様が散らし構成になっており、摂政様式の文様と言える。



図2-3.「ポンパドゥール夫人の肖像」
(1759年)
ローブ・ア・ラ・フランセーズを着用したポンパドゥール夫人。

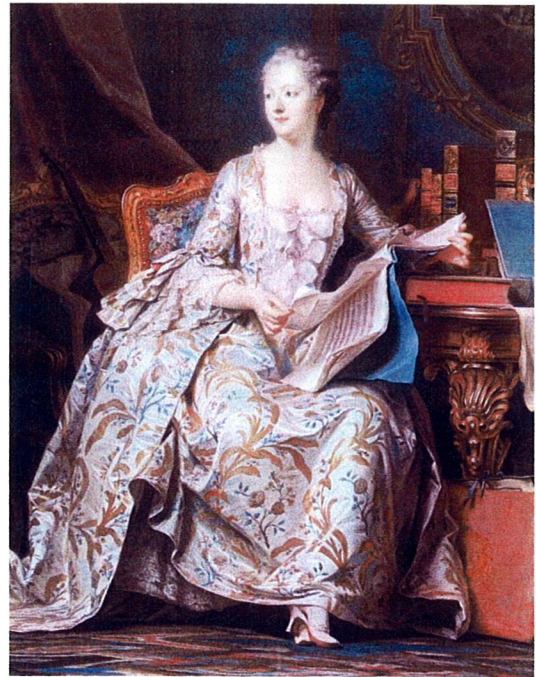


図2-4.「ポンパドゥール夫人の肖像」
(1752年)
ロココ様式の文様のローブ・ア・ラ・フランセーズ。



図2-5. 「ローブ・シュミーズを纏ったマリー・アントワネット」(1783年)

麦藁帽にシュミーズ・ドレスの王妃。トリアノンで田園ファンタジーに浸る彼女が生き生きと描かれている。



図2-6. ローブ・ア・ラ・ポロネーズ(1780年頃)

短めの丈と腰の後ろに裾をたくしあげた丸みが特徴的であるローブ・ア・ラ・ポロネーズ。80年代になって現れた縞柄が斬新である。



図2-7. クレオール風ローブ(1787年)
胸下で幅広い飾り帯を締めるクレオール風ローブ。



図2-8. 演劇『アタリー』の聖職者の衣裳
このユダヤ教聖職者の舞台衣装に着想を得たのがレヴィット風ローブである。



図2-9. バロック様式 (17~18 世紀)

実物よりも大柄で重々しい印象の植物文様が織物全体に充満している。



図2-10. 「女の肖像」(1679 年)

スカート部分に重厚な趣のバロック様式の文様を見る事ができる。

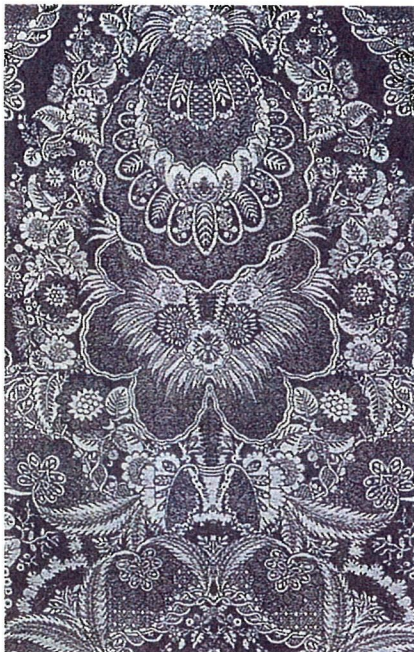


図2-11. レース様式 (18 世紀初)

植物文様を囲むようにレース柄が織り出している。バロック風に織物全体に文様が満たされているが、その細部に見られるようになった繊細さにはロココ様式への過渡的役割が覗える。



図2-12. ビザール様式 (18 世紀初)

異国風の要素に当時のヨーロッパの趣味が混ざり合った様式。東方からの布の輸入が禁止されたため、西洋の人々はオリエント世界を空想によってモチーフに表現した。



図2-13. 摂政様式 (1735~40年)

バロック様式からロココ様式への橋渡しの役割を担った様式。大柄な文様にはバロック様式の名残が見られるものの、その散らし構成にはロココ様式の萌芽が感じられる。



図2-15. ポワン・ラントレのローブ



図2-14. ポワン・ラントレ (1760年頃)

色の濃淡を利用して立体的な文様を表現している。



図2-16. ロココ様式 (18世紀中頃)

バロック様式と比べて空白部分が多く、文様も過度に誇張しない大きさと表現されている。



図2-17. シノワズリ (18世紀後半)

シノワズリはありきたりの植物文様に飽きた西洋の人々に歓迎された。



図2-18. シネ (1765年)

東南アジアから西洋に齎された緋の技法を用いたリヨン製のシネ。

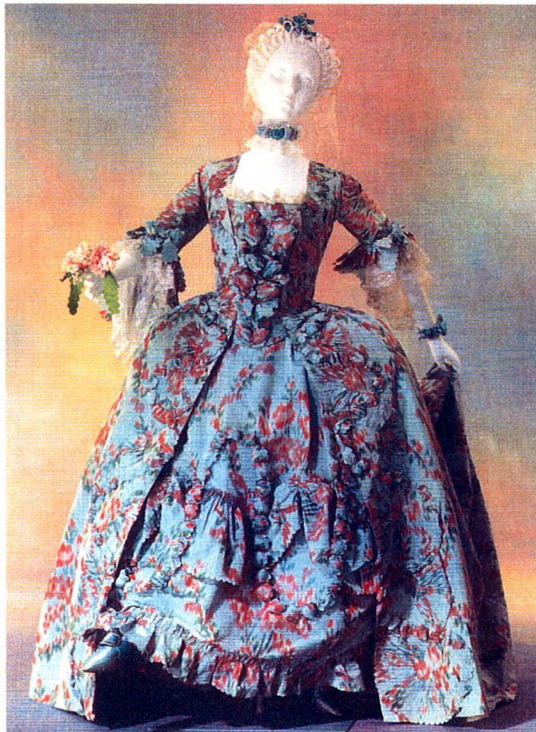


図2-20. インド更紗のローブ (1785年)

水色に花柄を閉じ込めた絹シネのローブ・ア・ラ・フランセーズ。



図2-19. シネのローブ (1765年)

インド産の手描きで染めた鮮やかで多彩な綿布。



図2-21. インド的文様のジュイ更紗
(1788年)



図2-22. 中国風文様のジュイ更紗
(1775年)



図2-23. 西洋独特の文様のジュイ更紗
(1773~75年)

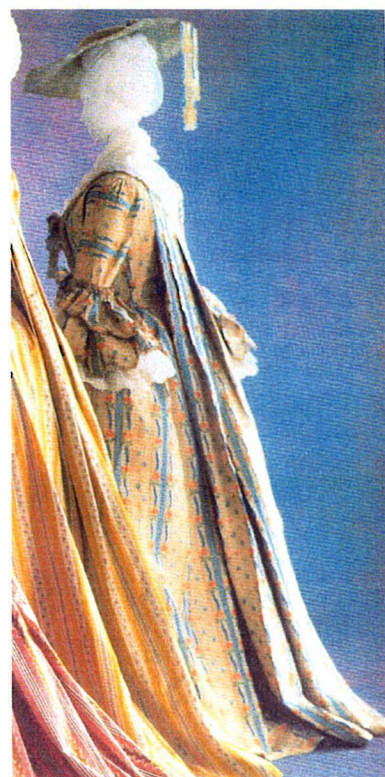


図2-24. 縞柄と花柄 (1770~75年)

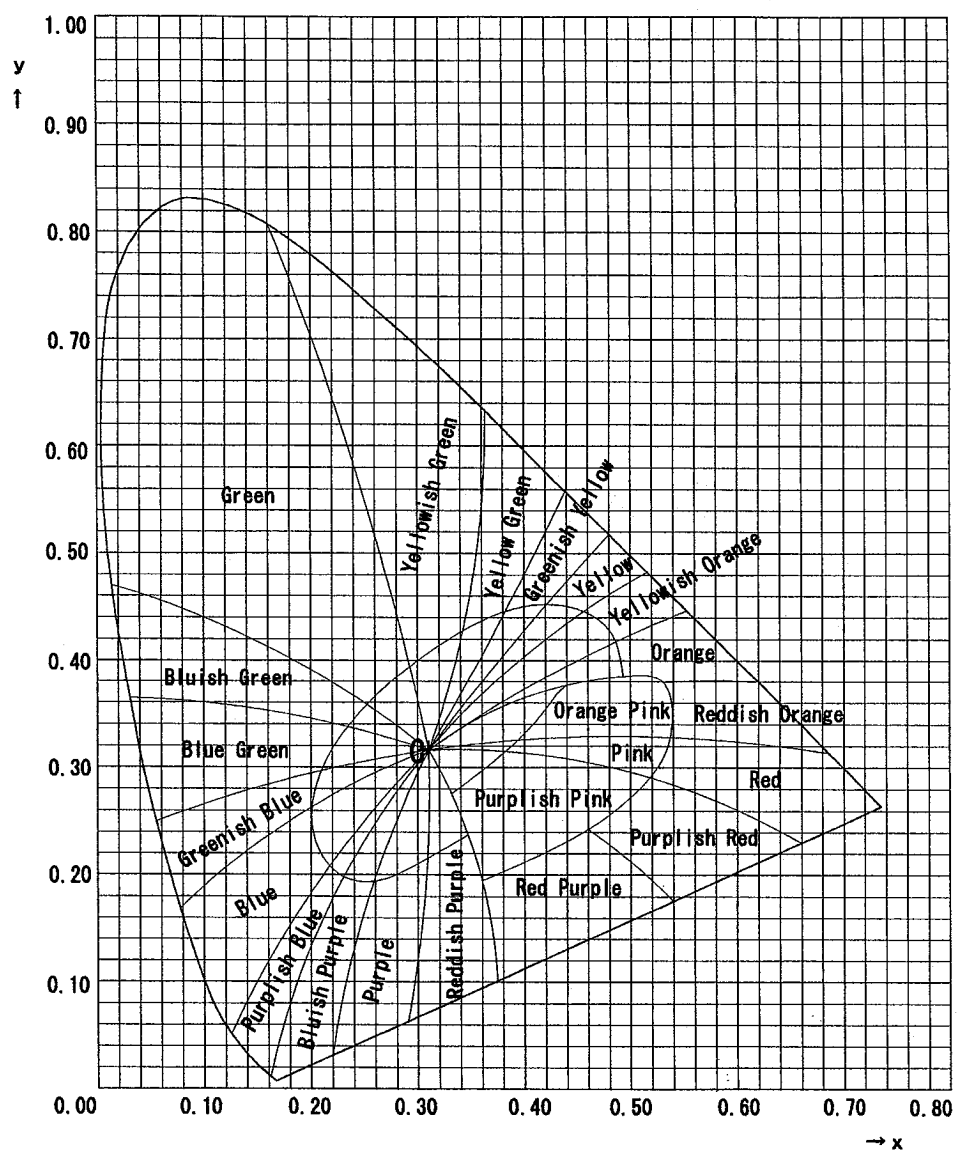























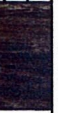
图 3-1. 色度图

サンプル	タイトル	サンプルとした絵画作品やフアッションプレート、写真のタイトル									
	測色部分	サンプル内の実際に測色した対象範囲部分の説明									
測色結果	平均値	測色範囲内全ドットのRの平均値・Gの平均値・Bの平均値 R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B									
	標準偏差	測色範囲内全ドットのRの標準偏差・Gの標準偏差・Bの標準偏差									
	中央値	測色範囲内全ドットのRの中央値・Gの中央値・Bの中央値									
	測色色彩	左記平均値より、測色範囲内の平均的な色彩としてC Pが認識した色彩 ✓									
色度図	X座標	測定したR G B値より導かれた色度座標のX座標									
	Y座標	測定したR G B値より導かれた色度座標のY座標									
マンセル	色の領域	色度図上にプロットした時の、サンプルが所属する色の領域									
	マンセル値	左記マンセル値の色彩 C Pが認識した測色色彩に近似しているマンセル値									
マンセル	RGB値	左記マンセル値をR G B値で表示したもの R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B R G B									
	差	左記マンセルのR G B値とC Pの測色色彩のR G B平均値の差									

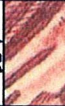

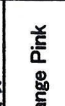

























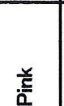


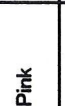




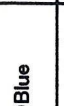




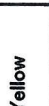
表3-2. ロココ時代のサンプル別測色結果一覧


















サンプル	タイトル	測色部分	見本	測色結果			測色色彩	色度図			マンセル		
				平均値	標準偏差	中央値		X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差
フォルテ＝アンボー侯爵夫人		ドレス地		R 144.87	46.16	152		0.369	0.374	低彩度のYellowish Orange	7.5YR4/3	R 142	2.87
				G 127.42	44.63	132						G 128	0.58
		リボン		B 89.26	41.46	91		0.422	0.349	Orange Pink	0.625YR4.75/4.75	B 86	3.26
				R 186.20	19.55	183						R 187	0.80
若い婦人の肖像		ドレス地		G 97.06	31.79	88		0.392	0.355	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.75/3.5	G 101	3.94
				B 73.93	35.07	62						B 74	0.07
		ドレス地		R 182.33	12.51	184		0.350	0.339	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.625/2	R 178	4.33
				G 121.48	10.78	122						G 121	0.48
夜会の後で		ドレス地		B 94.04	11.53	94		0.416	0.399	低彩度のYellowish Orange	3.75YR5/5	B 95	0.96
				R 154.29	23.60	145						R 158	3.71
		ドレス地		G 134.75	28.09	123		0.335	0.332	低彩度のOrange Pink	N7	G 134	0.75
				B 126.39	29.52	114						B 123	3.39
門		ドレス地		R 189.30	12.21	189		0.419	0.333	Orange Pink	10R3.75/5	R 191	1.70
				G 130.78	11.93	130						G 132	1.22
		ドレス地		B 64.40	12.41	64		0.351	0.339	低彩度のOrange Pink	1.25YR5.875/1.5	B 69	4.60
				R 219.59	20.09	224						R 220	0.41
コヴェントリー侯爵夫人の肖像		ドレス地		G 215.22	22.15	220		0.378	0.370	低彩度のYellowish Orange	2.5YR4.25/3.25	G 220	4.78
				B 216.20	23.01	222						B 220	3.80
		ドレス地		R 125.61	34.87	120		0.408	0.385	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5/4.375	R 127	1.39
				G 61.40	29.36	51						G 61	0.40
ギマール嬢の肖像		ドレス地		B 53.85	28.77	45		0.389	0.380	低彩度のYellow	4.375YR7.625/3.75	B 50	3.85
				R 195.00	16.02	198						R 194	1.00
		左の女性 ドレス地		G 170.05	24.47	173		0.374	0.368	低彩度のYellowish Orange	3.75YR5.5/3.25	G 171	0.95
				B 159.23	31.79	160						B 160	0.77
ジェルサンの看板		中の女性 ドレス地		R 195.41	14.81	196		0.334	0.345	低彩度のYellowish Orange	7.5Y6.25/1.125	R 195	0.41
				G 191.05	18.41	193						G 192	0.95
		右の女性 ドレス地		B 174.28	28.74	176		0.378	0.370	低彩度のYellowish Orange	2.5YR4.25/3.25	B 175	0.72
				R 148.06	30.47	151						R 149	0.94
シテール島への巡礼		ドレス地		G 117.93	30.27	120		0.408	0.385	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5/4.375	G 119	1.07
				B 83.50	26.71	82						B 86	2.50
		外衣		R 188.31	20.10	188		0.389	0.380	低彩度のYellow	4.375YR7.625/3.75	R 189	0.69
				G 128.64	18.03	128						G 128	0.64
ぶらんこ		ドレス地		B 74.10	18.18	74		0.374	0.368	低彩度のYellowish Orange	3.75YR5.5/3.25	B 77	2.90
				R 231.51	14.45	233						R 232	0.49
		ドレス地		G 177.66	23.19	175		0.334	0.337	低彩度のYellowish Orange	10GY7.5/0.625	G 179	1.34
				B 112.73	23.57	113						B 112	0.73
ボンパドゥール侯爵夫人の肖像		ドレス地		R 194.10	34.34	214		0.325	0.350	低彩度のYellow Green	1.5G2.875/3	R 193	1.10
				G 158.76	40.80	175						G 158	0.76
		ドレス地		B 115.33	35.51	123		0.325	0.325	低彩度のYellow Green	1.5G2.875/3	B 116	0.67
				R 217.88	12.04	220						R 220	2.12
ボンパドゥール夫人像		ドレス地		G 221.78	14.56	225		0.392	0.356	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.875/3.625	G 222	0.22
				B 215.89	16.88	219						B 215	0.89
		ドレス地		R 78.87	18.52	77		0.325	0.350	低彩度のYellow Green	1.5G2.875/3	R 77	1.87
				G 94.64	19.57	93						G 97	2.36
ボンパドゥール夫人像		胸衣		B 84.97	18.12	83		0.392	0.356	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.875/3.625	B 82	2.97
				R 183.86	22.20	182						R 185	1.14
		胸衣		G 122.92	21.33	121		0.392	0.356	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.875/3.625	G 123	0.08
				B 94.22	21.36	93						B 96	1.78

サンプル		測色部分	見本	測色結果					色度図		マンセル		差
タイトル				平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	
マリー＝アントワネットと子供達	ドレス地		R 172.49 G 50.96 B 34.03	2.97 1.61 0.80	173 51 34			0.501	0.338	Orange Pink	9.375R4.25/8	R 175 G 51 B 35	2.51 0.04 0.97
	ドレス地		R 168.38 G 96.25 B 60.08	5.14 25.42 14.52	168 112 69			0.424	0.370	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.5/4.5	R 169 G 97 B 63	0.62 0.75 2.92
	胸衣		R 195.97 G 193.21 B 187.93	24.81 23.72 23.81	184 176 201			0.336	0.337	低彩度のYellowish Orange	5YR5.875/0.5	R 197 G 193 B 187	1.03 0.21 0.93
愛の宣言	中左の女性 ドレス地		R 188.69 G 101.89 B 81.47	11.26 12.88 19.92	189 102 79			0.414	0.345	Orange Pink	10R4.625/5.5	R 187 G 99 B 84	1.69 2.89 2.53
	中右の女性 ドレス地		R 220.89 G 213.09 B 207.55	15.55 16.41 16.01	222 215 210			0.338	0.336	低彩度のYellowish Orange	2.5YR7.125/0.5	R 221 G 214 B 208	0.11 0.91 0.45
	右の女性 ドレス地		R 44.00 G 55.04 B 41.11	18.35 20.72 18.05	41 54 40			0.332	0.375	低彩度のYellow Green	2G1.625/3.5	R 46 G 56 B 42	2.00 0.96 0.89
冠を受ける恋人	右の女性 リボン		R 193.11 G 88.36 B 69.92	16.32 17.70 20.46	198 87 66			0.435	0.341	Orange Pink	10R4.75/5.5	R 193 G 91 B 73	0.11 2.64 3.08
	左の女性 ドレス地		R 168.47 G 144.37 B 129.16	21.50 22.29 25.57	170 146 130			0.355	0.345	低彩度のYellow	1.875YR4.75/2	R 165 G 143 B 127	3.47 1.37 2.16
	ドレス地		R 226.94 G 138.70 B 50.24	18.22 22.10 22.14	227 136 48			0.445	0.416	低彩度のYellowish Orange	4.375YR7/6.5	R 230 G 141 B 49	3.06 2.30 1.24
棄てられて	ドレス地		R 224.92 G 103.74 B 42.43	16.99 28.88 23.88	227 104 41			0.474	0.391	低彩度のOrange	1.875YR6.5/7	R 223 G 102 B 39	1.92 1.74 3.43
	ドレス地		R 167.19 G 125.04 B 106.98	27.23 27.07 31.07	170 125 107			0.372	0.347	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.625/2.875	R 168 G 125 B 107	0.81 0.04 0.02
	ドレス地		R 210.32 G 137.35 B 41.13	14.53 15.33 15.37	210 137 42			0.446	0.432	低彩度のYellowish Orange	5YR6/6	R 212 G 139 B 46	1.68 1.65 4.87
読書する女	左の女性 ドレス地		R 191.60 G 121.95 B 34.79	28.27 30.46 18.79	191 118 30			0.451	0.433	低彩度のYellowish Orange	5YR4.875/6.5	R 192 G 122 B 36	0.40 0.05 1.21
	右の女性 ドレス地		R 189.53 G 118.21 B 97.21	24.89 46.21 55.45	196 119 94			0.395	0.346	低彩度のOrange Pink	0.625YR4.875/4	R 192 G 118 B 96	2.47 0.21 1.21
	ドレス地		R 158.20 G 112.04 B 89.48	15.39 19.58 16.73	156 109 87			0.383	0.353	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.375/3.5	R 159 G 113 B 89	0.80 0.96 0.48
目隠し鬼	ペティコート		R 98.61 G 89.78 B 76.82	13.38 14.38 15.11	96 87 74			0.352	0.351	低彩度のYellowish Orange	3.75YR3/2	R 98 G 88 B 76	0.61 1.78 0.82
	外衣		R 186.53 G 201.36 B 183.91	40.41 29.09 36.00	193 207 188			0.333	0.346	低彩度のGreenish Yellow	2.5G6.5/2	R 187 G 201 B 180	0.47 0.36 3.91


















サンプル			測色結果										色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差				
ドルーエ夫人の肖像	胸衣		R 65.77	36.29	73		0.292	0.328	低彩度のBlue Green	1.25BG3.5/4	R 66	0.23				
			G 106.03	22.09	101						G 105	1.03				
			B 114.98	29.32	110						B 114	0.98				
フランス王妃マリー＝レザンスカの肖像	ドレス地		R 205.13	21.28	209		0.357	0.360	低彩度のYellowish Orange	7.5YR7/2.25	R 207	1.87				
			G 188.13	15.65	192						G 188	0.13				
			B 149.44	22.11	148						B 149	0.44				
歌の勉強	マント		R 68.81	11.31	70		0.318	0.328	低彩度のGreenish Yellow	1.25PB2.375/2	R 68	0.81				
			G 79.22	10.17	79						G 77	2.22				
			B 83.44	10.60	83						B 84	0.56				
狩りの休息	ドレス地		R 172.04	31.08	177		0.416	0.413	低彩度のYellowish Orange	5YR4.5/4.75	R 173	0.96				
			G 125.73	28.11	128						G 127	1.27				
			B 54.26	34.72	55						B 55	0.74				
朝食	ドレス地		R 166.80	41.64	168		0.409	0.408	低彩度のYellowish Orange	5YR4.375/4.5	R 166	0.80				
			G 125.30	34.86	126						G 124	1.30				
			B 58.34	38.05	57						B 59	0.66				
庭園の語らい	左の女性 ドレス地		R 90.78	34.35	91		0.310	0.326	低彩度のYellowish Green	7.5B3.5/3	R 88	2.78				
			G 113.12	26.71	106						G 113	0.12				
			B 121.92	33.60	114						B 122	0.08				
朝食	右の女性 ケープ		R 208.71	20.12	213		0.430	0.295	Pink	6.875R5.125/6.125	R 208	0.71				
			G 74.52	31.25	77						G 74	0.52				
			B 92.01	18.29	90						B 92	0.01				
冬	右の女性 スカート		R 225.53	13.20	228		0.364	0.366	低彩度のYellowish Orange	6.25YR8/2.5	R 225	0.53				
			G 199.65	15.96	200						G 199	0.65				
			B 149.71	23.85	152						B 149	0.71				
おしゃやれな若い女性	ドレス地		R 197.15	31.59	205		0.348	0.316	低彩度のPurplish Pink	10RP6/2	R 197	0.15				
			G 155.12	44.22	165						G 158	2.88				
			B 173.12	39.15	180						B 176	2.88				
冬	ペティコート		R 133.95	20.32	133		0.329	0.346	低彩度のGreenish Yellow	5G4.25/2	R 135	1.05				
			G 149.38	19.51	150						G 149	0.38				
			B 137.16	23.57	137						B 137	0.16				
おしゃやれな若い女性	ケープ		R 186.86	23.45	196		0.515	0.229	Purplish Red	10RP6/10	R 187	0.14				
			G 17.70	17.51	15						G 21	3.30				
			B 53.99	9.61	53						B 64	10.01				
おしゃやれな若い女性	右奥の女性 ドレス地		R 154.13	24.15	155		0.372	0.404	低彩度のGreenish Yellow	10Y4.25/2.5	R 154	0.13				
			G 150.62	27.01	152						G 147	3.62				
			B 82.62	32.88	84						B 81	1.62				
おしゃやれな若い女性	最右の女性 ドレス地		R 104.18	39.02	104		0.354	0.394	低彩度のYellow Green	7.5GY3.5/4	R 104	0.18				
			G 114.24	37.63	116						G 115	0.76				
			B 71.06	32.30	71						B 70	1.06				
おしゃやれな若い女性	ドレス地		R 197.84	42.06	214		0.382	0.369	低彩度のYellowish Orange	3.125YR5.625/3.5	R 198	0.16				
			G 152.96	45.70	161						G 153	0.04				
			B 108.19	47.33	114						B 108	0.19				
おしゃやれな若い女性	腰布		R 141.99	27.46	136		0.317	0.322	低彩度のYellowish Orange	2.5PB4.75/2	R 144	2.01				
			G 160.10	22.62	156						G 162	1.90				
			B 176.18	20.79	175						B 176	0.18				
英国風の帽子を被ったおしゃやれな女性	スカート		R 199.27	22.81	201		0.396	0.328	低彩度のOrange Pink	9.375R4.875/4.25	R 199	0.27				
			G 111.92	25.81	111						G 110	1.92				
			B 107.30	25.17	107						B 109	1.70				
英国風の帽子を被ったおしゃやれな女性	上衣		R 83.33	19.11	79		0.365	0.347	低彩度のOrange Pink	1.25YR2.625/2.5	R 83	0.33				
			G 66.12	19.09	62						G 65	1.12				
			B 57.34	19.45	53						B 57	0.34				

サンプル		色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	測色結果	色の領域	マンセル値
			平均値 標準偏差 中央値 測色色彩	X座標 Y座標	RGB値 差
サーカシア風のドレスを着た若い婦人	ドレス地		R 170.95 52.78 167 G 85.93 25.13 82 B 80.05 25.13 74	0.411 0.328	9.375R4.25/4.75 Orange Pink
	リボン		R 111.30 24.99 99 G 124.42 24.33 114 B 125.47 31.90 133	0.323 0.334	10BG4/2 低彩度のGreenish Yellow
	ドレス地		R 198.23 23.03 202 G 103.07 35.08 97 B 101.71 34.26 98	0.403 0.323	9.375R4.875/4.5 Pink
	フリル飾り		R 85.45 36.67 78 G 88.21 42.47 80 B 39.68 27.50 34	0.377 0.426	3.75GY2.75/4.5 低彩度のGreenish Yellow
ポロネーズ風のドレス	ペティコート		R 194.91 40.51 204 G 174.67 42.56 179 B 155.74 37.60 165	0.351 0.346	3.75YR6/2 低彩度のYellowish Orange
	ドレス地		R 163.31 59.98 157 G 155.63 59.83 148 B 121.84 55.75 110	0.354 0.363	5Y5.125/2.25 低彩度のYellowish Orange
	ドレス地		R 227.88 11.54 232 G 183.54 27.79 194 B 174.25 20.27 183	0.357 0.336	0.625YR7.75/2.25 低彩度のOrange Pink
	ドレス地		R 212.43 7.10 215 G 121.82 12.23 118 B 119.74 7.96 118	0.392 0.326	9.375R5.5/4 低彩度のOrange Pink
美しいデザビエ姿のおしゃれな女性	ドレス地		R 200.86 26.58 203 G 152.22 30.41 152 B 152.99 26.86 154	0.360 0.328	9.375R5.25/2.5 低彩度のOrange Pink
	飾り		R 167.80 26.82 172 G 166.37 26.52 169 B 126.57 29.31 131	0.352 0.367	1.25GY5.75/2.25 低彩度のYellow
	ドレス地		R 228.68 15.23 234 G 199.81 26.27 203 B 182.88 18.57 188	0.352 0.342	1.25YR9/1.5 低彩度のYellow
	飾り		R 167.80 26.82 172 G 166.37 26.52 169 B 126.57 29.31 131	0.352 0.367	1.25GY5.75/2.25 低彩度のYellow
完全に英国風のドレス	ペティコート		R 235.44 15.42 62 G 225.14 21.07 48 B 198.78 15.92 39	0.346 0.348	10YR9/0.75 低彩度のYellowish Orange
	ドレス地		R 224.34 21.89 230 G 198.85 32.98 208 B 172.75 29.05 177	0.354 0.349	2.5YR8/2 低彩度のYellowish Orange
	外衣		R 180.73 41.03 190 G 113.59 34.75 117 B 121.17 36.68 126	0.375 0.318	8.75R4.5/3.375 低彩度のPink
	外衣		R 140.35 22.57 144 G 162.08 19.63 166 B 176.65 16.01 182	0.315 0.324	3.75PB5/2.5 低彩度のYellowish Green
テオドール風の帽子と英国風ドレス	リボン		R 104.78 33.40 103 G 105.27 34.65 104 B 69.02 33.82 65	0.360 0.385	3.75GY3.25/3.125 低彩度のYellow Green
	スカート		R 220.35 24.35 229 G 199.91 29.24 207 B 183.42 23.10 190	0.348 0.343	3.75YR7.75/1.5 低彩度のYellowish Orange
	スカート		R 220.35 24.35 229 G 199.91 29.24 207 B 183.42 23.10 190	0.348 0.343	3.75YR7.75/1.5 低彩度のYellowish Orange
	スカート		R 220.35 24.35 229 G 199.91 29.24 207 B 183.42 23.10 190	0.348 0.343	3.75YR7.75/1.5 低彩度のYellowish Orange

サンプル		測色結果										色度図		マンセル			
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差					
ロシア皇妃風のドレス	腰布		R 181.63	32.45	181		0.371	0.334	低彩度のOrange Pink	10R4.625/3.25		R 184 2.37					
			G 129.23	38.48	122							G 128 1.23					
	外衣		B 122.32	36.83	116							B 121 1.32					
			R 118.18	27.08	112							R 121 2.82					
ローブ・ア・ラ・フランセーズ	ドレス地		G 133.60	27.27	127		0.328	0.347	低彩度のGreenish Yellow	3.75G3.75/2		G 132 1.60					
			B 122.37	27.55	105							B 121 1.37					
	ドレス地		R 215.60	21.17	222							0.412	0.314	Pink	8.125R5.75/4.75		R 217 1.40
			G 99.34	34.08	104												G 98 1.34
ドレス	左のマネキン ドレス地		B 104.31	26.04	103		0.439	0.320	Pink	8.75R4.875/6							B 105 0.69
			R 201.54	12.93	201												R 204 2.46
	ドレス地		G 79.40	20.19	76							0.323	0.322	低彩度のOrange Pink	5PB5/2		G 78 1.40
			B 76.38	15.64	75												B 76 0.38
ローブ・ア・ラ・フランセーズ	ドレス地		R 162.21	48.08	168		0.348	0.339	低彩度のOrange Pink	1.25YR6.25/1.375							R 163 0.79
			G 169.93	32.89	171												G 172 2.07
	ドレス地		B 185.62	37.91	188							0.324	0.326	低彩度のOrange	3.75PB6/2		B 189 3.38
			R 199.03	28.37	203												R 201 1.97
ローブ・ア・ラ・フランセーズ	ドレス地		G 177.77	31.55	180		0.424	0.436	低彩度のYellow	8.75YR6.5/6							G 179 1.23
			B 167.87	33.78	169												B 171 3.13
	ドレス地		R 165.13	39.05	167							0.383	0.325	低彩度のOrange Pink	9.375R5.75/3.75		R 163 2.13
			G 175.20	30.33	178												G 175 0.20
ドレス	左のマネキン ドレス地		B 186.51	35.10	189		0.473	0.215	Reddish Purple	8.75RP8/9							B 187 0.49
			R 215.55	9.86	167												R 217 1.45
	中のマネキン ドレス地		G 131.29	13.02	134							0.404	0.288	Purplish Pink	5R8/6		G 133 1.71
			B 131.29	13.02	134												B 130 1.29
ローブ・ルトウルセ・ダン・レポッ シュ	ドレス地		R 219.20	15.84	222		0.321	0.368	低彩度のYellowish Green	5G3/3							R 219 0.20
			G 166.75	17.97	170												G 169 2.25
	ドレス地		B 54.95	38.29	54							0.378	0.311	Purplish Pink	7.5R5.5/3.25		B 51 3.95
			R 216.70	15.17	219												R 213 3.70
ローブ・ア・ラ・ポロネーズ	ドレス地		G 25.43	24.97	21		0.404	0.288	Purplish Pink	5R8/6							G 30 4.57
			B 87.57	16.06	89												B 87 0.57
	ドレス地		R 75.10	49.31	77							0.303	0.302	低彩度のBluish Purple	5PB5.75/3.75		R 78 2.90
			G 102.03	28.90	100												G 101 1.03
ベティコート	ベティコート		B 81.71	25.53	79		0.285	0.300	低彩度のBlue	3.125PB3.5/4.5							B 85 3.29
			R 200.31	37.36	205												R 201 0.69
	ドレス地		G 118.45	63.13	119							0.434	0.416	低彩度のYellowish Orange	4.375YR6/5.875		G 119 0.55
			B 133.09	46.32	128												B 134 0.91
ローブ・ア・ラ・フランセーズ	ドレス地		R 248.39	12.61	252		0.303	0.302	低彩度のBluish Purple	5PB5.75/3.75							R 247 1.39
			G 103.64	54.68	123												G 104 0.36
	ドレス地		B 139.17	31.78	140							0.285	0.300	低彩度のBlue	3.125PB3.5/4.5		B 139 0.17
			R 129.08	59.56	131												R 130 0.92
カザガン	ドレス地		G 153.53	47.29	152		0.434	0.416	低彩度のYellowish Orange	4.375YR6/5.875							G 155 1.47
			B 196.80	42.57	203												B 199 2.20
	ジャケット		R 64.36	45.43	66							0.406	0.427	低彩度のYellow	8.75YR2.625/5		R 63 1.36
			G 96.57	34.41	95												G 96 0.57
ベティコート	ベティコート		B 126.62	44.11	124		0.406	0.427	低彩度のYellow	8.75YR2.625/5							B 125 1.62
			R 210.66	23.42	214												R 212 1.34
	ドレス地		G 138.14	25.85	139							0.406	0.427	低彩度のYellow	8.75YR2.625/5		G 138 0.14
			B 53.37	45.98	51												B 56 2.63
フランスの絹織物1	地色		R 97.17	17.06	90		0.406	0.427	低彩度のYellow	8.75YR2.625/5							R 99 1.83
			G 80.69	18.33	80												G 81 0.31
	地色		B 32.08	10.05	32							B 31 1.08					

サンプル		測色結果										色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	測色結果										色の領域	マンセル値	RGB値
			平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標							差
フランスの絹織物2	地色		R 223.47	8.52	223		0.444	0.396					低彩度のOrange	2.5YR6.5/5.75	R 222 1.47
			G 126.50	13.01	127										G 126 0.50
			B 56.95	9.46	56										B 55 1.95
フランスの絹織物3	地色		R 222.70	4.98	224		0.568	0.303					Red	8.75R6/10	R 220 2.70
			G 33.39	3.20	33										G 55 21.61
			B 28.28	2.05	28										B 39 10.72
フランスの絹織物4	地色		R 191.09	16.29	191		0.380	0.369					低彩度のYellowish Orange	3.125YR5.375/3.5	R 192 0.91
			G 150.30	17.03	149										G 150 0.30
			B 106.19	19.29	103										B 106 0.19
フランスの絹織物5	地色		R 193.13	20.99	195		0.358	0.352					低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.875/2.125	R 193 0.13
			G 167.72	29.85	169										G 168 0.28
			B 141.71	25.42	143										B 143 1.29
フランスの絹織物5	文様部分		R 191.66	20.29	196		0.477	0.299					低彩度のPurplish Pink	7.5R4.75/7.75	R 190 1.66
			G 50.91	28.57	52										G 52 1.09
			B 56.65	18.71	54										B 58 1.35
フランスの絹織物6	地色		R 186.04	12.42	186		0.439	0.376					低彩度のOrange Pink	1.25YR4.875/5	R 188 1.96
			G 99.08	18.97	100										G 98 1.08
			B 55.56	20.59	54										B 57 1.44
フランスの絹織物7	地色		R 185.15	16.11	187		0.476	0.296					Purplish Pink	7.5R4.625/7	R 184 1.15
			G 48.50	26.39	49										G 52 3.50
			B 55.86	18.50	54										B 59 3.14
フランスの絹織物8	地色		R 164.51	10.21	164		0.374	0.338					低彩度のOrange Pink	0.625YR4.375/3.125	R 166 1.49
			G 116.45	8.55	116										G 118 1.55
			B 106.32	10.18	106										B 105 1.32
フランスの絹織物9	地色		R 197.59	7.61	197		0.437	0.301					Purplish Pink	7.5R5/6	R 200 2.41
			G 70.37	11.30	69										G 67 3.37
			B 80.89	9.08	80										B 80 0.89
フォーマールドレス	地色		R 128.57	27.67	134		0.312	0.308					低彩度のPurple	5PB4.5/3	R 127 1.57
			G 141.68	27.88	148										G 144 2.32
			B 172.90	27.44	180										B 170 2.90
ドレス	地色		R 151.86	5.60	152		0.356	0.321					低彩度のPink	8.75R4/2.5	R 151 0.86
			G 114.60	4.84	115										G 116 1.40
			B 122.11	5.13	123										B 118 4.11
シネのドレス	地色		R 192.67	12.27	194		0.346	0.320					低彩度のPink	3.75R5.75/2.25	R 192 0.67
			G 158.27	12.89	160										G 160 1.73
			B 172.29	14.29	174										B 173 0.71
ドレス	地色		R 229.38	14.05	231		0.336	0.329					低彩度のOrange Pink	10RP8/0.5	R 232 2.62
			G 218.35	17.01	221										G 221 2.65
			B 223.96	16.20	226										B 224 0.04
ドレス	地色		R 190.27	25.51	191		0.431	0.443					低彩度のYellow	8.125YR5/6.5	R 194 3.73
			G 142.25	31.60	142										G 143 0.75
			B 41.62	12.71	41										B 40 1.62
ドレス	地色		R 155.56	15.49	156		0.405	0.401					低彩度のYellowish Orange	5YR4.125/4.25	R 154 1.56
			G 116.77	18.26	119										G 117 0.23
			B 58.71	17.54	60										B 57 1.71
レース風文様の織物	地色		R 47.32	20.29	46		0.294	0.286					低彩度のBluish Purple	5PB2.25/2	R 43 4.32
			G 57.25	18.45	54										G 57 0.25
			B 82.28	23.09	79										B 86 3.72
レース風文様の織物	地色		R 131.63	23.55	129		0.519	0.272					Purplish Red	5R3.5/10	R 133 1.37
			G 20.59	14.73	20										G 26 5.41
			B 31.08	15.41	31										B 39 7.92

サンプル		測色結果										色度図		マンセル		RGB値	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	マンセル値	色度図	色の領域	マンセル値	マンセル値	RGB値	差
レース風文様の織物	地色		R 54.70	26.98	53		0.323	0.332	低彩度のYellow	10BG2.125/2						R 57	2.30
			G 60.81	21.40	59											G 62	1.19
			B 61.95	31.69	61											B 65	3.05
レース風文様の織物	地色		R 111.56	36.81	115		0.476	0.354	Orange Pink	0.625YR3/7						R 113	1.44
			G 42.05	30.32	40											G 42	0.05
			B 25.99	24.91	22											B 26	0.01
花束の織物	地色		R 240.33	13.95	243		0.360	0.371	低彩度のYellow	7.5Y9/2.75						R 233	7.33
			G 224.36	16.42	228											G 224	0.36
			B 163.58	21.97	167											B 166	2.42
室内装飾あるいは衣装用織物	地色		R 209.39	18.05	209		0.351	0.363	低彩度のYellow	10Y7.125/2.625						R 211	1.61
			G 204.45	18.15	204											G 204	0.45
			B 160.34	20.63	161											B 160	0.34
室内装飾あるいは衣装用織物	地色		R 159.14	31.04	155		0.450	0.425	低彩度のYellowish Orange	5YR4.125/7						R 162	2.86
			G 97.86	31.02	92											G 99	1.14
			B 31.13	28.94	25											B 28	3.13
花の織飾り	地色		R 188.12	20.38	191		0.424	0.370	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.875/4.5						R 188	0.12
			G 107.30	20.13	109											G 108	0.70
			B 67.42	25.99	69											B 71	3.58
アカンサスの花と葉	地色		R 83.28	25.64	79		0.360	0.393	低彩度のGreenish Yellow	6.25GY2.375/4						R 83	0.28
			G 86.08	24.23	83											G 85	1.08
			B 52.97	26.52	51											B 52	0.97
花(断片)	地色		R 203.65	22.61	202		0.456	0.440	低彩度のYellowish Orange	5.625YR5.5/7						R 205	1.35
			G 128.58	23.08	128											G 130	1.42
			B 32.13	21.50	31											B 34	1.87
ロカーユ的な花束	地色		R 22.26	25.30	15		0.342	0.364	低彩度のGreenish Yellow	10GY1/4						R 29	6.74
			G 23.92	23.51	17											G 33	9.08
			B 18.96	21.48	13											B 19	0.04
花とロカーユの組合せ文様	地色		R 172.08	24.66	176		0.385	0.393	低彩度のYellow	7.5YR4.625/3.75						R 172	0.08
			G 145.25	23.74	149											G 147	1.75
			B 83.62	36.58	86											B 86	2.38
花文様	地色		R 67.26	32.88	63		0.326	0.379	低彩度のGreenish Yellow	3.125GY2.75/3.5						R 68	0.74
			G 91.49	31.95	86											G 90	1.49
			B 67.26	32.88	63											B 68	0.74
花の連続文様	地色		R 154.96	18.01	153		0.517	0.337	Orange Pink	9.375R3.875/9						R 157	2.04
			G 41.37	19.98	40											G 42	0.63
			B 26.46	19.37	25											B 27	0.54
五の目に配された花束	地色		R 133.13	19.82	130		0.434	0.404	低彩度のYellowish Orange	3.75YR3.5/6						R 131	2.13
			G 82.94	19.28	80											G 84	1.06
			B 36.28	17.68	34											B 36	0.28
風景と建物	地色		R 149.78	22.81	149		0.427	0.431	低彩度のYellow	6.25YR4/5.75						R 153	3.22
			G 109.49	21.51	108											G 110	0.51
			B 37.39	22.35	37											B 38	0.61
花と果実	地色		R 187.03	20.14	190		0.358	0.347	低彩度のOrange	1.875YR5.5/2.125						R 187	0.03
			G 157.92	20.28	161											G 159	1.08
			B 138.54	28.32	141											B 140	1.46
花の連続文様	地色		R 231.35	18.21	234		0.349	0.351	低彩度のYellowish Orange	5YR8.125/1.25						R 231	0.35
			G 217.97	21.53	215											G 215	2.97
			B 187.57	21.76	190											B 191	3.43
花の織物	地色		R 187.86	17.40	188		0.449	0.281	Purplish Pink	5R4.75/7.5						R 190	2.14
			G 53.33	18.25	51											G 50	3.33
			B 74.41	16.76	73											B 75	0.59

サンプル		測色結果										色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域		マンセル値	RGB値	差		
花	地色		R 215.09	10.93	216		0.332	0.339	低彩度のYellowish Orange		5G9/1.25	R 215 0.09			
			G 223.21	10.28	224							G 225 1.79			
			B 215.26	10.82	216							B 212 3.26			
コルヌコピア(宝角)	地色		R 208.04	20.02	205		0.402	0.427	低彩度のYellow		2.5Y6.625/5	R 208 0.04			
			G 178.31	20.34	175							G 178 0.31			
			B 71.89	32.24	66							B 71 0.89			
花の連続	地色		R 151.07	36.38	151		0.373	0.400	低彩度のGreenish Yellow		10Y4.25/4.5	R 153 1.93			
			G 144.56	32.45	144							G 148 3.44			
			B 81.80	39.88	82							B 81 0.80			
花の連続文様	地色		R 229.88	9.20	230		0.348	0.349	低彩度のYellowish Orange		7.5YR9/1.25	R 228 1.88			
			G 216.04	9.65	217							G 216 0.04			
			B 189.84	10.81	190							B 192 2.16			
花の連続文様	地色		R 124.52	20.38	125		0.475	0.267	Purplish Pink		5R3.25/8	R 127 2.48			
			G 26.08	17.69	24							G 26 0.08			
			B 42.24	20.77	43							B 43 0.76			
連続文様	地色		R 87.80	18.65	87		0.435	0.441	低彩度のYellow		7.5YR2.25/7	R 90 2.20			
			G 63.31	13.87	63							G 63 0.31			
			B 18.40	14.26	17							B 18 0.40			
織物断片	地色		R 182.09	21.76	180		0.406	0.289	Purplish Pink		6.875R4.5/5	R 181 1.09			
			G 75.17	23.78	70							G 77 1.83			
			B 99.74	25.90	96							B 95 4.74			
花の連続文様	地色		R 239.18	8.87	239		0.341	0.342	低彩度のYellowish Orange		10YR9/0.5	R 236 3.18			
			G 231.41	9.33	231							G 229 2.41			
			B 214.89	10.01	214							B 215 0.11			
花の連続文様(断片)	文様部分		R 129.49	12.29	128		0.497	0.260	Purplish Red		5R3.25/9	R 128 1.49			
			G 21.28	10.55	20							G 22 0.72			
			B 38.01	8.92	37							B 37 1.01			
花の連続文様(断片)	文様部分		R 87.27	11.10	88		0.368	0.402	低彩度のGreenish Yellow		5GY2.625/4.5	R 87 0.27			
			G 87.73	10.18	88							G 88 0.27			
			B 49.76	11.55	49							B 51 1.24			
絹の小紋(ドロゲ)	地色		R 230.49	12.16	231		0.398	0.420	低彩度のYellow		1.25Y7.75/4.5	R 231 0.51			
			G 197.12	11.55	197							G 198 0.88			
			B 86.68	13.94	86							B 88 1.32			
絹の小紋(ドロゲ)	地色		R 87.86	29.66	85		0.435	0.300	Purplish Pink		7.5R2.5/5	R 88 0.14			
			G 31.43	21.16	28							G 30 1.43			
			B 36.73	22.40	35							B 39 2.27			
絹の小紋(ドロゲ)	地色		R 131.64	59.50	131		0.444	0.285	Purplish Pink		6.25R3.25/7	R 135 3.36			
			G 39.84	29.86	35							G 37 2.84			
			B 53.72	33.02	48							B 53 0.72			
シワワズリー	地色		R 145.97	15.37	144		0.496	0.267	Purplish Pink		5R3.625/9	R 144 1.97			
			G 25.87	12.95	25							G 25 0.87			
			B 42.29	12.41	41							B 42 0.29			
シワワズリー	地色		R 78.41	25.81	79		0.393	0.438	低彩度のGreenish Yellow		10Y2.125/7	R 79 0.59			
			G 74.97	20.00	75							G 74 0.97			
			B 28.45	19.40	28							B 26 2.45			
シワワズリー	地色		R 176.15	21.11	178		0.582	0.274	Red		6.25R4.25/10	R 177 0.85			
			G 17.23	13.25	16							G 36 18.77			
			B 23.96	13.74	23							B 45 21.04			
シワワズリー	地色		R 196.57	10.59	197		0.362	0.359	低彩度のYellowish Orange		3.75YR6/2.5	R 197 0.43			
			G 171.00	11.15	172							G 170 1.00			
			B 135.58	12.76	136							B 137 1.42			

サンプル			測色結果										色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域		マンセル値	RGB値	差			
花の連続文様	地色		R 189.23	10.79	191		0.348	0.345	低彩度のYellowish Orange	3.75YR5.5/1.375		R 188	1.23			
			G 174.50	10.65	176							G 174	0.50			
			B 157.59	12.22	159							B 158	0.41			
花の連続文様	地色		R 192.69	12.10	194		0.345	0.343	低彩度のYellowish Orange	5YR7/1		R 194	1.31			
			G 180.56	11.94	182							G 181	0.44			
			B 165.44	12.91	167							B 164	1.44			
花とリボン	地色		R 156.09	18.95	156		0.493	0.439	Yellowish Orange	5YR3.875/10		R 155	1.09			
			G 79.58	17.00	79							G 79	0.58			
			B 13.61	13.90	10							B 13	0.61			
植物連続文様とバンド	地色		R 82.25	30.84	75		0.400	0.280	Purplish Pink	3.75R2.375/6		R 85	2.75			
			G 33.58	26.58	27							G 33	0.58			
			B 48.53	28.90	43							B 50	1.47			
花の連続文様と縦のバンドの縦織	地色		R 80.25	30.66	79		0.400	0.463	Greenish Yellow	1.25GY2.25/7		R 79	1.25			
			G 80.14	26.25	79							G 78	2.14			
			B 23.00	22.22	19							B 23	0.00			
花束と縦のバンドの縦織	地色		R 174.10	35.43	177		0.347	0.346	低彩度のYellowish Orange	5YR5.875/1		R 175	0.90			
			G 163.51	34.50	167							G 164	0.49			
			B 146.30	41.57	148							B 149	2.70			
花束と縦のバンドの縦織	文様部分		R 100.35	30.59	94		0.309	0.324	低彩度のYellowish Green	7.3B3.875/2.5		R 98	2.35			
			G 125.85	27.96	119							G 125	0.85			
			B 138.06	30.33	133							B 138	0.06			
植物連続文様と縦のバンドの縦織	文様部分		R 170.03	29.56	171		0.420	0.449	低彩度のYellow	2.5Y4.875/6		R 168	2.03			
			G 139.42	30.23	140							G 139	0.42			
			B 41.04	26.62	40							B 43	1.96			
植物連続文様と縦のバンドの縦織	地色		R 175.92	18.21	177		0.347	0.346	低彩度のYellowish Orange	5YR5.75/1		R 177	1.08			
			G 164.61	17.48	166							G 165	0.39			
			B 147.91	26.05	150							B 150	2.09			
植物連続文様と縦のバンドの縦織	文様部分		R 164.89	28.97	165		0.402	0.431	低彩度のGreenish Yellow	2.5Y4.875/5		R 167	2.11			
			G 143.11	27.53	142							G 142	1.11			
			B 55.39	29.13	53							B 56	0.61			
植物連続文様と縦のバンドの縦織	文様部分		R 111.15	33.90	107		0.409	0.427	低彩度のYellow	8.75YR3/5		R 111	0.15			
			G 90.45	30.99	88							G 90	0.45			
			B 35.57	28.76	32							B 34	1.57			
花の小枝と縦のバンドの縦織	地色		R 158.32	32.20	163		0.361	0.316	低彩度のPurplish Pink	7.5R4.375/2.5		R 157	1.32			
			G 111.51	32.99	114							G 111	0.51			
			B 122.58	32.42	123							B 121	1.58			
植物連続文様、花束、縦のバンドの縦織	地色		R 6.54	6.53	5		0.259	0.376	Green	5BG1/10		R 10	3.46			
			G 27.26	6.55	27							G 30	2.74			
			B 22.85	7.98	23							B 29	6.15			
植物連続文様、花束、縦のバンドの縦織	地色		R 191.06	35.57	196		0.346	0.337	低彩度のOrange Pink	1.25YR8.5/1		R 192	0.94			
			G 172.32	33.94	177							G 173	0.68			
			B 165.37	35.16	168							B 163	2.37			
飾り紐、引紐の飾りと花飾り文様	地色		R 176.96	11.00	176		0.449	0.448	低彩度のYellow	7.5YR4.5/8.5		R 176	0.96			
			G 120.71	9.63	119							G 119	1.71			
			B 28.86	13.51	28							B 28	0.86			
花束、植物連続文様、縦のバンドの縦織	地色		R 232.27	15.60	232		0.373	0.340	低彩度のOrange Pink	0.625YR7.25/3		R 231	1.27			
			G 167.04	16.36	166							G 168	0.96			
			B 149.89	21.84	150							B 150	0.11			
花と毛皮の連続文様、縦のバンドの縦織	地色		R 137.89	24.14	134		0.451	0.296	Purplish Pink	7.5R3.625/6		R 137	0.89			
			G 42.90	23.99	38							G 44	1.10			
			B 51.42	20.03	47							B 53	1.58			

サンプル			測色結果										色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域		マンセル値	差				
縦縞織	地色		R 138.15	23.66	138		0.367	0.314	低彩度のPurpleish Pink		6.25R3.5/3.5	R 137	1.15			
			G 90.79	23.25	91						G 87	3.79				
			B 100.74	26.73	100						B 102	1.26				
小さな花の束、花飾り文様、縞の縞の縞織	地色		R 173.01	38.72	175		0.376	0.391	低彩度のYellow		2.5Y5.25/3.75	R 173	0.01			
			G 155.18	39.36	156						G 156	0.82				
			B 93.21	46.67	91						B 94	0.79				
縦縞織	地色		R 208.19	27.10	209		0.357	0.374	低彩度のYellow		8.75Y6.75/3	R 209	0.81			
			G 203.56	28.15	204						G 202	1.56				
			B 146.52	29.86	148						B 147	0.48				
縞と経縞の杉縞文様	地色		R 39.04	10.50	39		0.283	0.272	低彩度のBluish Purple		5PB2/5	R 39	0.04			
			G 50.47	8.60	50						G 51	0.53				
			B 79.86	9.91	79						B 78	1.86				
	地色		R 193.09	22.64	197		0.358	0.357	低彩度のYellowish Orange		5YR5.75/2.125	R 193	0.09			
			G 172.65	20.91	176						G 175	2.35				
			B 140.01	24.88	140						B 139	1.01				
縞の帯と花束	地色		R 200.28	19.97	199		0.387	0.354	低彩度のOrange Pink		4.25YR5.5/3.5	R 199	1.28			
			G 138.05	22.41	135						G 136	2.05				
			B 108.41	22.00	107						B 107	1.41				
格子罫の縞の花	地色		R 138.88	23.31	140		0.371	0.387	低彩度のYellow		5Y4.125/3.5	R 137	1.88			
			G 126.91	23.43	129						G 128	1.09				
			B 79.92	24.24	81						B 79	0.92				
田園風景	地色		R 185.47	23.65	183		0.416	0.406	低彩度のYellowish Orange		4.375YR4.875/5	R 188	2.53			
			G 131.54	26.23	128						G 133	1.46				
			B 61.03	24.20	59						B 61	0.03				
縹飾り	地色		R 184.64	13.37	183		0.551	0.306	Red		6.25R4.5/10	R 186	1.36			
			G 31.62	19.84	27						G 38	6.38				
			B 27.36	11.76	26						B 47	19.64				
花の壺	地色		R 209.30	24.20	211		0.384	0.392	低彩度のYellow		7.5YR6.25/3.25	R 210	0.70			
			G 177.18	26.54	180						G 177	0.18				
			B 103.16	26.58	105						B 103	0.16				
トルコ戦士の闘い	地色		R 128.35	14.85	127		0.487	0.262	低彩度のPurpleish Red		3.75R3.5/9	R 128	0.35			
			G 23.38	13.14	23						G 21	2.38				
			B 40.63	15.47	41						B 43	2.37				
花束	地色		R 137.21	12.28	138		0.410	0.436	低彩度のYellow		6.25R3.25/10	R 135	2.21			
			G 28.79	12.10	29						G 26	2.79				
			B 29.95	12.24	31						B 34	4.05				
「鳩」の壁掛け	地色		R 122.22	17.48	122		0.482	0.259	低彩度のPurpleish Red		3.75R3.5/10	R 124	1.78			
			G 22.38	13.14	23						G 20	2.38				
			B 40.63	15.47	41						B 40	0.63				
「花の壺」の壁掛け	地色		R 229.14	16.48	229		0.410	0.436	低彩度のYellow		2.5Y7.75/5.5	R 230	0.86			
			G 191.36	19.27	191						G 191	0.36				
			B 68.36	32.43	65						B 68	0.36				
田園風景のメダリオン	地色		R 95.69	34.55	88		0.342	0.319	低彩度のPurpleish Pink		7.5RP3/1.5	R 96	0.31			
			G 81.61	30.73	74						G 83	1.39				
			B 89.61	37.96	87						B 93	3.39				

表3-3. ロココ時代のサンプル目録

タイトル	染色部分	作者	製作年	所蔵場所	出典
フォルテ＝アンボ＝侯爵夫人	ドレス地 リボン	ジャン＝マルク・ナティエ	1740年	東京 富士美術館	東京富士美術館蔵「近世フランスの絵画と版画」徳島県立近代美術館他(2002年)
若い婦人の肖像	ドレス地	ジャン＝バティスト・グルーズの工房	18世紀後半	東京 富士美術館	
夜会の後で	ドレス地	ルイ・ロラン・トランケス	1774年	東京 富士美術館	
門	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1780～84年	パリ ルーブル美術館	
コヴェントリー伯爵夫人の肖像	ドレス地	ジャン＝エティエンヌ・リオタール	1750年頃	ジュネーブ 歴史美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の大家20 フラゴナール』中
ギマル嬢の肖像	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1767～71年	パリ ルーブル美術館	坂本満寛任編『世界美術大全集18 ロココ』株式会社 小学館(1993年)
ジェルサンの看板	左の女性 ドレス地 中の女性 ドレス地 右の女性 ドレス地	ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー	1720年	ベルリン シャルロットテンブルク宮	大野芳村他『名画への旅15 18世紀1 選集のロココ』講談社(1993年)
シテール島への巡礼	ドレス地 外衣	ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー	1717年	パリ ルーブル美術館	
ぶらんこ	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1766年	ロンドン ウオールズ・コレクション	
ボンパドゥール侯爵夫人の肖像	ドレス地	モーリス・カンタン・ド・ラ・トゥール	1752年	パリ ルーブル美術館デッサン室	
ボンパドゥール夫人像	ドレス地 胸衣	フランソワ・ブーシェ	1756年	ミュンヘン アルテ・ピナコテーク	
マリー＝アントワネットと子供達	ドレス地	エリザベト・ヴィジェール・ブラン		ヴェルサイユ ヴェルサイユ宮殿国立美術館	
ソルカンヴィル夫人	ドレス地 胸衣	ジャン＝バティスト・ペロノー	1749年	パリ ルーブル美術館	
愛の宣言	中左の女性 ドレス地 中右の女性 ドレス地 右の女性 ドレス地 右の女性 リボン 左の女性 ドレス地	ジャン＝フランソワ・ド・トロワ	1731年	ベルリン シャルロットテンブルク宮	
冠を受ける恋人	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1771～73年	ニューヨーク フリック・コレクション	
棄てられて	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1790～91年	ニューヨーク フリック・コレクション	
盗まれた接吻	ドレス地	マルグリット・ジェラール	1788年	サンクトペテルブルク エルミタージュ美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の大家20 フラゴナール』中央公論社(1983年)
読書する女	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1776年頃	ワシントン ナショナルギャラリー	
二人の姉妹	左の女性 ドレス地 右の女性 ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1770年頃	ニューヨーク メトロポリタン美術館	
目隠し鬼	ドレス地 ベティコート	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1748～52年	オハイオ州 トレド美術館	
ドルーエ夫人の肖像	外衣 胸衣	ドルーエ		パリ ルーブル美術館	吉川遼治総編集『ルーブルとパリの美術館 ルーブル美術館4』小学館(1986年)
フランス王妃マリー＝レザンスカの肖像	ドレス地 マント	トック・ルイ	1740年	パリ ルーブル美術館	
歌の勉強	ドレス地	ジャン＝オノレ・フラゴナール	1769年頃	パリ ルーブル美術館	
狩りの休息	ドレス地	カルル・ヴァン・ロー	1737年	パリ ルーブル美術館	
朝食	左の女性 ドレス地 右の女性 ケープ 右の女性 スカート	フランソワ・ブーシェ	1739年	パリ ルーブル美術館	
庭園の語り	ドレス地 ベティコート	トーマス・ゲインズバラ	1746～47年	パリ ルーブル美術館	
冬	ケープ 右奥の女性 ドレス地 最右の女性 ドレス地	ニコラ・ランクレ	1738年	パリ ルーブル美術館	
おしゃれな若い女性	腰布	デレ	1776年	東京 文化女子大学図書館	
英国風の帽子を被ったおしゃれな女性	スカート 上衣	N.トージュ	1776年	東京 文化女子大学図書館	
サーカシア風のドレスを着た若い婦人	ドレス地 リボン	デレ	1776年	東京 文化女子大学図書館	
ポロネーズ風のドレス	ドレス地 フリル飾り ベティコート	ル・クレール	1777年	東京 文化女子大学図書館	石山彰編『ファッション・プレート全集1』文化出版局(1983年)
レースの腰飾りのあるサーカシア・ドレスを着た若い夫人	ドレス地	デレ	1777年	東京 文化女子大学図書館	
子供と戯れる市民	ドレス地	ル・クレール	1777年	東京 文化女子大学図書館	
艶やかなデザビエ姿のおしゃれな女性	ドレス地	デレ	1778年	東京 文化女子大学図書館	
若い花嫁と花婿	ドレス地	ル・クレール	1778年	東京 文化女子大学図書館	

イタリア産ゴーズの新型サーカシア・ドレス	ドレス地 飾り	テレ	1788年	東京 文化女子大学図書館	石山彰編『ファッション・プレート全集1』文化出版局(1983年)
完全に英国風のドレス	ベティコート ドレス地	ル・クレール	1780年	東京 文化女子大学図書館	
冬の装い	外衣	ワトー・ド・リール	1785年頃	東京 文化女子大学図書館	
テオドル風の帽子と英国風ドレス	外衣 リボン	ドゥフレーヌ	1787年頃	東京 文化女子大学図書館	
ロシア皇妃風のドレス	スカート 腰布 外衣	ドゥフレーヌ	1788年	東京 文化女子大学図書館	
ローブ・アラ・フランセーズ	ドレス地		1760年頃	京都 京都服飾文化研究財団	京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命ーロココと新古典の衣裳展』(1989年)
ドレス	左のマネキン ドレス地		1760年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ベティコート	右のマネキン ベティコート		1750年代中期	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・アラ・フランセーズ	ドレス地		1770年	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・アラ・フランセーズ	ドレス地		1765年	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・アラ・フランセーズ	左のマネキン ドレス地		1770~75年	京都 京都服飾文化研究財団	
ドレス	中のマネキン ドレス地		1770~75年	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・ルトウルーセ・ダン・レ ボッシュ	ドレス地		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・アラ・ボロネーズ	ドレス地		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ベティコート	ベティコート		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ローブ・アラ・フランセーズ	ドレス地		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ドレス	ドレス地		1785年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
カザカン	ジャケット		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
ベティコート	ベティコート		1780年頃	京都 京都服飾文化研究財団	
フランスの絹織物1	地色		1720年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	『染織の美22』京都書院(1983年)
フランスの絹織物2	地色		1720年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物3	地色		1724~26年	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物4	地色		1740年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物5	地色		1740年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物6	文様部分 地色		1740年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物7	地色		1740年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物8	地色		1740年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フランスの絹織物9	地色		1760年頃	アベック=シュティフツング=ベルン染織美術館	
フォー・マルドレス	地色		18世紀半ば	Irene Lewisohn Bequest	Jean L.Druessdow『IN STYLE Celebrating Fifty Years of the Costume Institute』(1987年)
ドレス	地色		1760年頃	Irene Lewisohn Bequest	
シネのドレス	地色		1760年頃	Irene Lewisohn Bequest	
ドレス	地色		1760年頃	Rogers Fund	
ドレス	地色		1775年頃	Irene Lewisohn Bequest	
ドレス	地色		1765年頃	Irene Lewisohn Bequest	ジャン=ミシェル・テュシュレル監修『リヨン織物美術館 第1巻 フランス 17~18世紀』(1976年)
レース風文様の織物	地色		1720年頃	リヨン リヨン織物美術館	
レース風文様の織物	地色		1720~50年	リヨン リヨン織物美術館	
レース風文様の織物	地色		1720~50年	リヨン リヨン織物美術館	
レース風文様の織物	地色		1720~50年	リヨン リヨン織物美術館	
花束の織物	地色		1730年頃	リヨン リヨン織物美術館	
室内装飾用あるいは衣装用織物	地色		1730年頃	リヨン リヨン織物美術館	
室内装飾用あるいは衣装用織物	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の縁飾り	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
アカンサスの花と葉	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花(断片)	地色		1735~40年頃	リヨン リヨン織物美術館	
ロカーユ的な花束	地色		1735~40年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花とロカーユの組合せ文様	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花文様	地色		1735~40年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様	地色		1735~40年頃	リヨン リヨン織物美術館	
五の目に配された花束	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
風景と建物	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花と果実	地色		1725年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様	地色		1725年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の織物	地色		1725年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花	地色		1730年頃	リヨン リヨン織物美術館	
コルスコピア(宝角)	地色		1750年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続	地色		18世紀中頃	リヨン リヨン織物美術館	

花の連続文様	地色		1760年頃	リヨン リヨン織物美術館	ジャン＝ミシェル・デュシェーレル監 修『リヨン織物美術館 第1巻 フラン ス 17～18世紀』(1976年)
花の連続文様	地色		—	リヨン リヨン織物美術館	
連続文様	地色		18世紀中頃	リヨン リヨン織物美術館	
織物断片	地色		18世紀中頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様	地色		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様(断片)	文様部分		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様(断片)	文様部分		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
絹の小紋(ドロケ)	地色		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
絹の小紋(ドロケ)	地色		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
絹の小紋(ドロケ)	地色		18世紀後半	リヨン リヨン織物美術館	
シノワズリー	地色		18世紀中頃	リヨン リヨン織物美術館	
シノワズリー	地色		1740年頃	リヨン リヨン織物美術館	
シノワズリー	地色		1770年頃	リヨン リヨン織物美術館	
シノワズリー	地色		1760～70年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様	地色		1770年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様	地色		1760～70年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花とリボン	地色		1760～70年頃	リヨン リヨン織物美術館	
植物連続文様とバンド	地色		1760～70年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の連続文様と縦のバンドの 縦縞織	地色		1775年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花束と縦のバンドの縦縞織	地色		1775～80年頃	リヨン リヨン織物美術館	
植物連続文様と縦のバンドの 縦縞織	地色		1770年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の小枝と縦のバンドの縦縞 織	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
植物連続文様、花束、縦のバ ンドの縦縞織	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
植物連続文様、花束、縦のバ ンドの縦縞織	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
飾り紐、引紐の飾りと花飾り文 様	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花束、植物連続文様、縦のバ ンドの縦縞織	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花と毛皮の連続文様、縦のバ ンドの縦縞織	地色		1775～80年頃	リヨン リヨン織物美術館	
縦縞織	地色		1785年頃	リヨン リヨン織物美術館	
小さな花の束、花飾り文様、縦 の縞の縦縞織	地色		1770～85年頃	リヨン リヨン織物美術館	
縦縞織	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
絹と経緯の杉綾文様	文様部分		1780～85年頃	リヨン リヨン織物美術館	
絹と経緯の杉綾文様	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
絹の帯と花束	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
格子囲いの絹の花	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
田園風景	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
織物断片	地色		1785～89年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花の壺	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
トルコ戦士の闘い	地色		1775年頃	リヨン リヨン織物美術館	
花束	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
「鳩」の壁掛け	地色		1780年頃	リヨン リヨン織物美術館	
「花の壺」の壁掛け	地色		1785年頃	リヨン リヨン織物美術館	
田園風景のメダイヨン	地色		1785年頃	リヨン リヨン織物美術館	

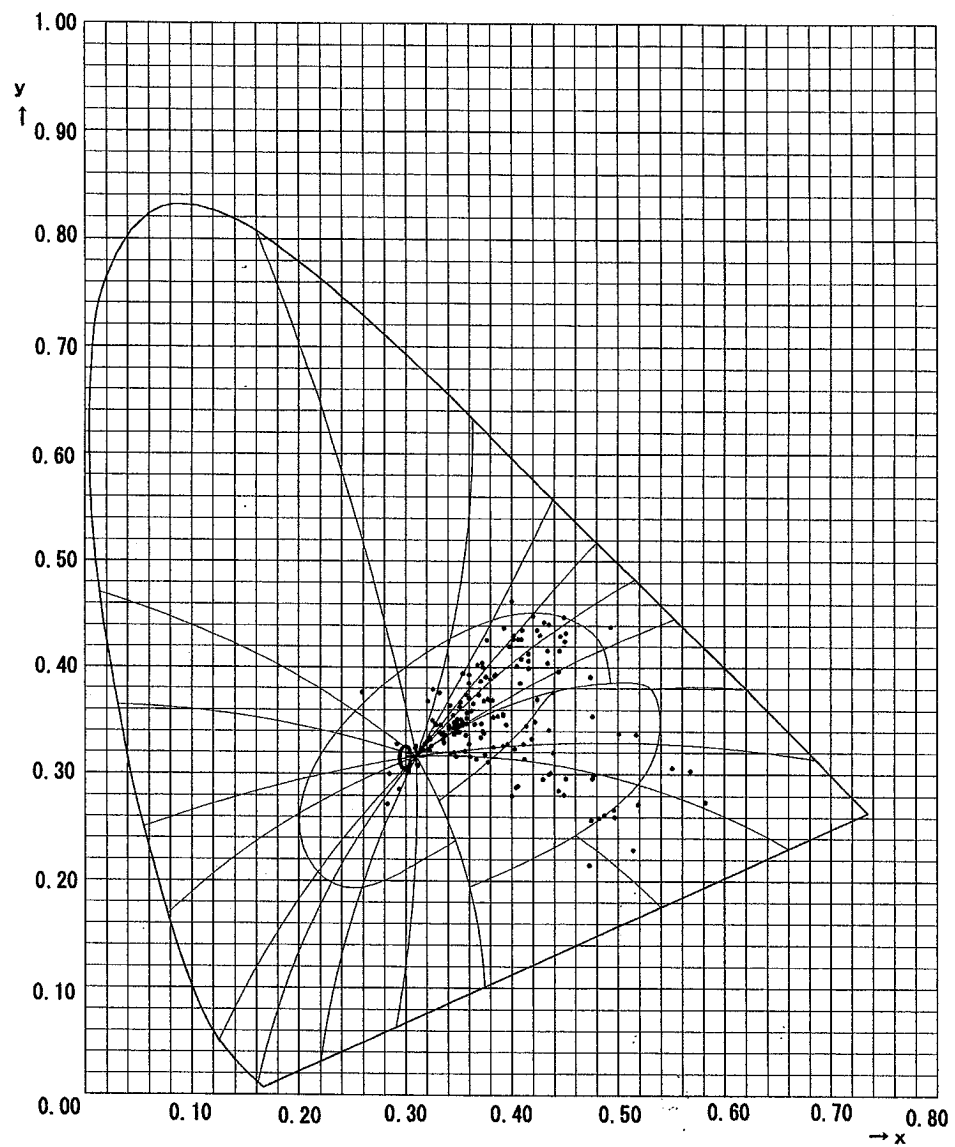


図 3-2. ロココ時代の色彩出現分布

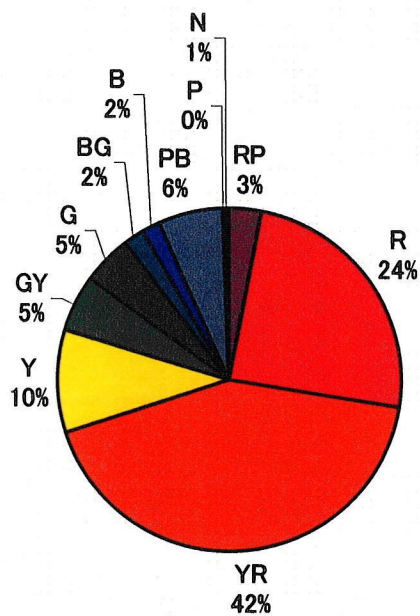


図3-3 ロココ時代の色彩出現比率(色相)

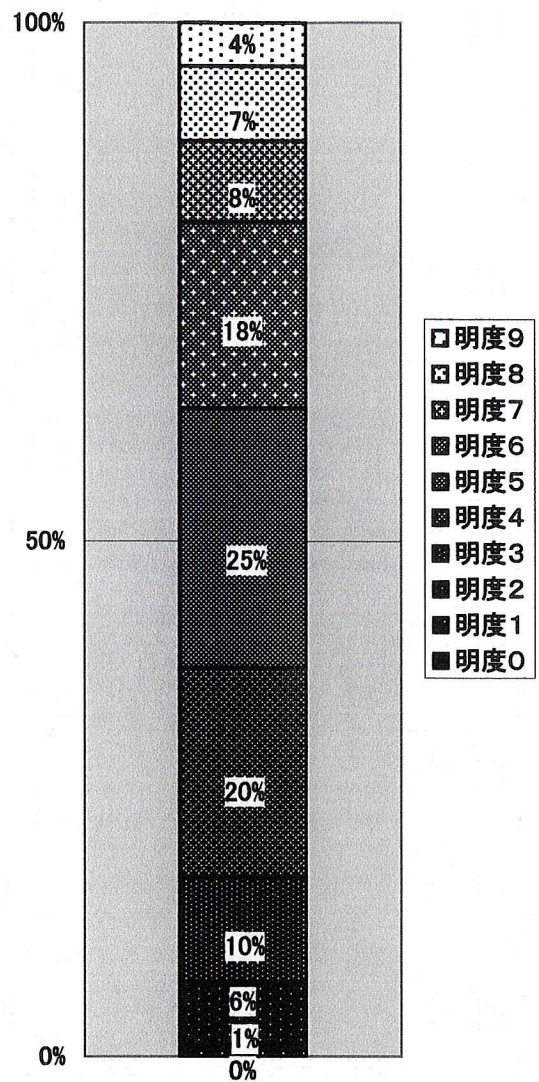


図3-4 ロココ時代の色彩出現比率(明度)

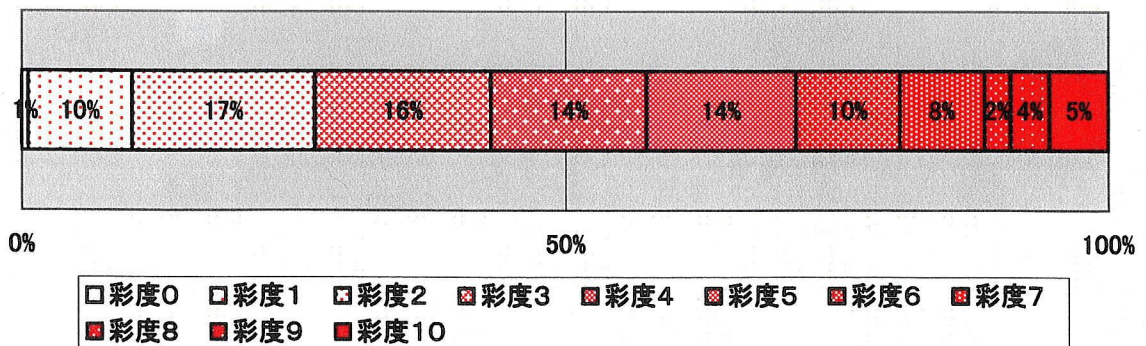


図3-5 ロココ時代の色彩出現比率(彩度)

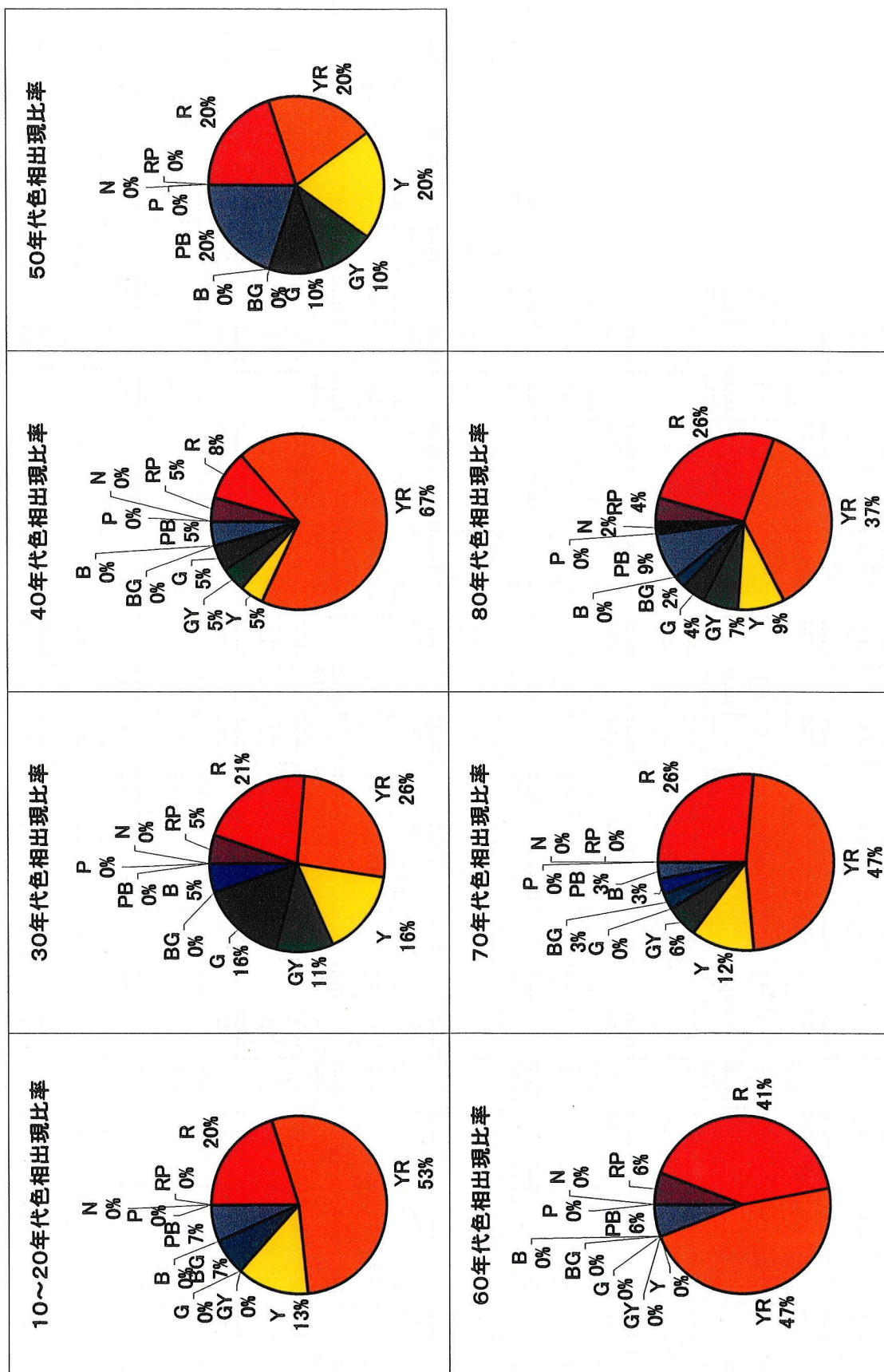


图3-6. 年代別色彩出現比率(色相)

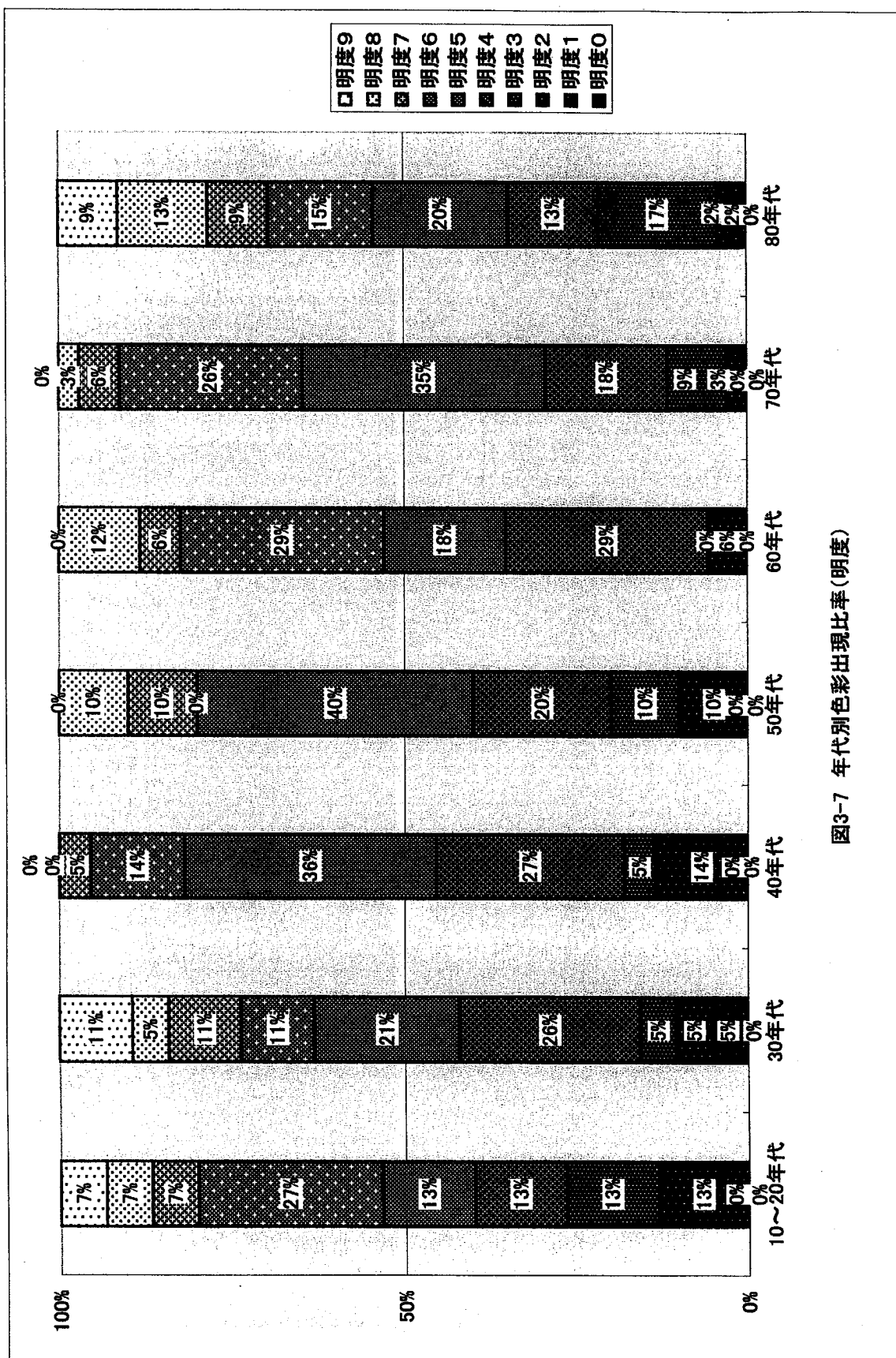


图3-7 年代别色彩出现比率(明度)

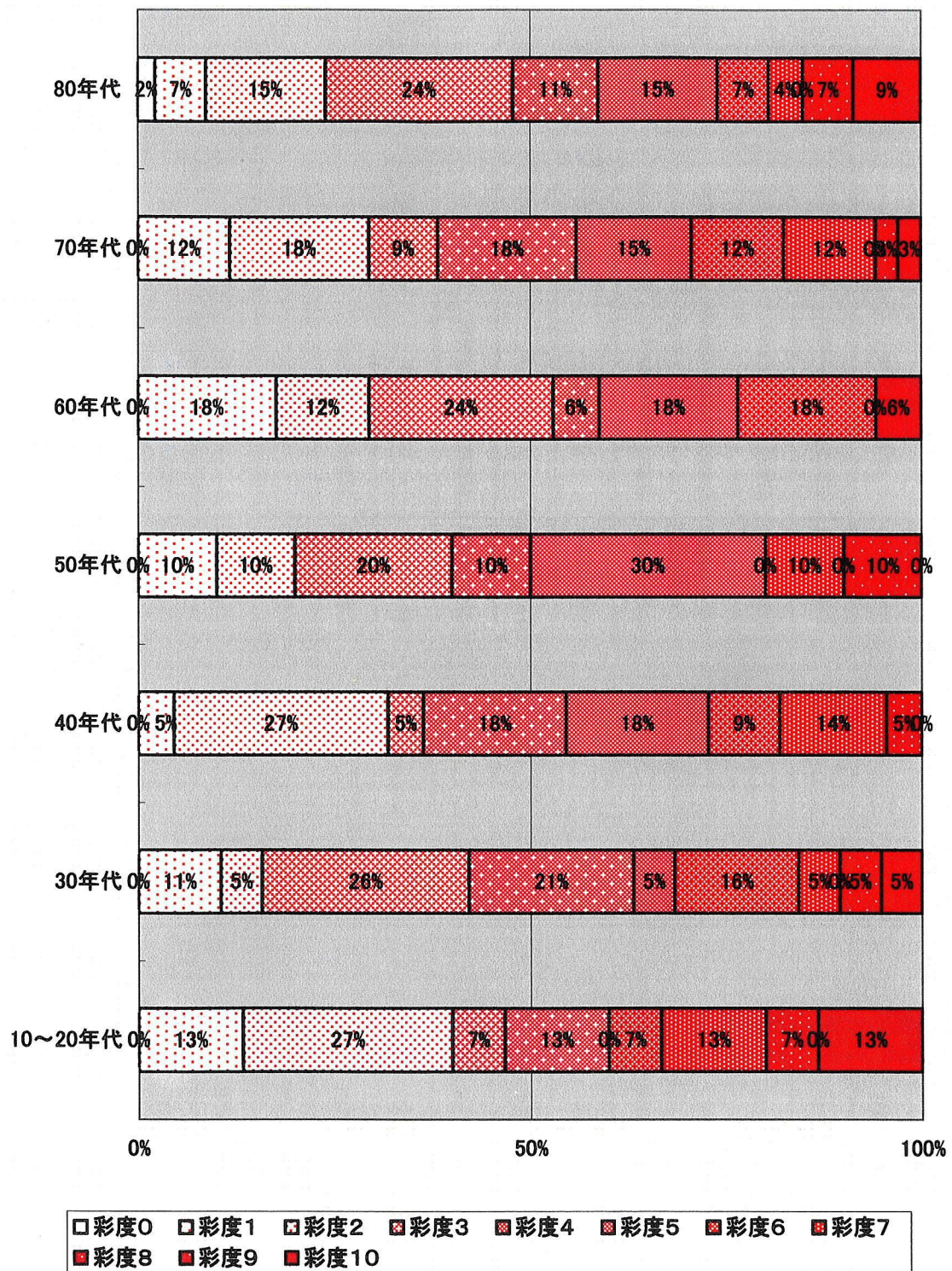























































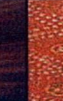














図3-8 年代別色彩出現比率(彩度)

表3-4. ルネサンス時代のサンプル別測色結果一覧

サンプル			測色結果					色度図		マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差
アルルフィニ夫妻の肖像	ドレス		R 72.63	9.06	72		0.360	0.396	低彩度のGreenish Yellow	7.5GY2.5/4	R 73	0.37
			G 76.69	8.41	77						G 79	2.31
	袖		B 46.25	8.31	46		0.331	0.328	低彩度のOrange Pink	9.375PB3.25/1	B 49	2.75
			R 103.47	7.55	104						R 104	0.53
ジェーン・シーモアの肖像	ドレス		G 102.63	7.36	104		0.446	0.342	Orange Pink	10R3.375/6	G 102	0.63
			B 107.01	9.08	108						B 108	0.99
	ドレス		R 136.08	20.54	134		0.481	0.301	Pink	7.5R3.5/7.5	R 135	1.08
			G 58.12	21.88	53						G 57	1.12
ヤコブ・マイヤーとその妻ドロテア・カネンギーサーの肖像	ドレス		B 44.23	12.01	43		0.329	0.282	低彩度のPurple Pink	5P0/4	B 43	1.23
			R 135.43	9.83	136						R 135	0.43
	縁どり		G 35.66	7.90	35		0.473	0.331	Orange Pink	9.375R4.125/7	G 34	1.66
			B 38.67	8.15	38						B 38	0.67
ヨハネス・クスピニアン博士とその妻アンナの肖像	赤		R 20.17	13.57	16		0.289	0.282	低彩度のBluish Purple	6.25PB1/7	R 23	2.83
			G 15.73	9.63	13						G 16	0.27
	縁どり		B 22.90	10.01	21		0.474	0.319	Pink	8.75R3.75/7	B 25	2.1
			R 169.63	15.05	171						R 170	0.37
ルクレツィア・バンチアティキの肖像	ドレス		G 57.06	13.11	57		0.403	0.328	Orange Pink	10R2.5/4	G 58	0.94
			B 45.40	11.49	45						B 47	1.6
	袖		R 11.94	8.13	10		0.291	0.277	低彩度のBluish Purple	5.625PB3.75/5	R 13	1.06
			G 15.08	8.16	14						G 16	0.92
乙女の肖像	ドレス		B 22.21	8.77	21		0.437	0.398	低彩度のYellowish Orange	2.5YR4/5.5	B 35	12.79
			R 151.47	9.37	151						R 154	2.53
	袖		G 47.10	7.10	47		0.456	0.293	低彩度のPurple Pink	7.5R3.25/6.5	G 47	0.1
			B 42.43	6.27	43						B 44	1.57
画家の妻マルガレーテの肖像	ドレス		R 100.89	16.40	98		0.310	0.304	低彩度のPurple	7.5PB1/6	R 97	3.89
			G 53.68	11.61	53						G 55	1.32
	袖		B 50.88	11.30	51		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.75/4.75	B 50	0.88
			R 72.04	22.16	66						R 73	0.96
若い女性の肖像	ドレス		G 86.14	21.25	80		0.448	0.351	Orange Pink	10R3.625/6	G 88	1.86
			B 131.29	21.79	128						B 134	2.71
	袖		R 150.17	16.60	150		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR4/5.5	R 151	0.83
			G 89.87	14.59	89						G 90	0.13
若い女性の肖像	ドレス		B 40.89	13.41	40		0.310	0.304	低彩度のPurple	7.5PB1/6	B 41	0.11
			R 121.88	12.01	121						R 122	0.12
	胸衣		G 35.94	6.47	35		0.290	0.275	低彩度のBluish Purple	5.625PB3.5/5	G 36	0.06
			B 44.04	5.73	44						B 43	1.04
若い女性の肖像	ドレス		R 69.07	11.27	67		0.448	0.351	Orange Pink	10R3.625/6	R 67	2.07
			G 82.06	9.72	80						G 81	1.06
	胸衣		B 127.28	18.17	127		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.75/4.75	B 124	3.28
			R 14.63	10.92	12						R 14	0.63
若い女性の肖像	ドレス		G 16.22	9.84	14		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.75/4.75	G 15	1.22
			B 20.29	10.01	18						B 34	13.71
	胸衣		R 142.26	21.18	144		0.448	0.351	Orange Pink	10R3.625/6	R 146	3.74
			G 62.92	18.38	62						G 62	0.92
若い女性の肖像	ドレス		B 43.95	11.33	44		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.75/4.75	B 47	3.05
			R 203.29	9.85	203						R 205	1.71
	ドレス		G 130.99	9.99	130		0.417	0.386	低彩度のYellowish Orange	2.5YR5.75/4.75	G 130	0.99
			B 72.08	8.91	72						B 70	2.08

サンプル			測色結果					色度図			マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差	
若い婦人の肖像(一角獣を抱く女性)	袖		R 133.79	18.92	130		0.449	0.280	Purplish Pink	6.25R3.25/7		R 137	3.21
			G 37.58	10.38	36							G 37	0.58
			B 52.97	11.14	52							B 53	0.03
ジョヴァンナ・トルナブオーニの肖像	ドレス		R 212.42	18.92	211		0.369	0.339	低彩度のOrange Pink	10R5.75/3		R 212	0.42
			G 156.95	23.39	156							G 155	1.95
			B 143.63	22.43	142							B 146	2.37
ウルビーノ公夫妻の肖像	ドレス		R 38.98	4.06	39		0.348	0.336	低彩度のOrange Pink	10R1/1		R 36	2.98
			G 34.20	3.80	34							G 32	2.2
			B 31.18									B 31	1.8
ドーニ夫妻の肖像	袖		R 175.15	9.95	175		0.420	0.393	低彩度のYellowish Orange	3.125YR4.625/5		G 115	1.1
			G 113.90	9.65	113							B 59	0.61
			B 58.39	8.42	58							R 190	0.16
ドーニ夫妻の肖像	ドレス		R 189.84	9.76	191		0.458	0.354	Orange Pink	0.625YR4.75/6.5		G 81	1.06
			G 79.94	8.07	80							B 50	2.54
			B 52.54	5.22	53							R 70	0.84
二人のヴェネツィア婦人の肖像	袖		R 70.84	7.70	70		0.311	0.313	低彩度のReddish Purple	3.75PB2.625/3		G 82	1.14
			G 80.86	8.79	80							B 94	1.42
			B 95.42	11.09	94							R 142	1.66
二人のヴェネツィア婦人の肖像	手前の女性 スカート		R 143.66	10.00	143		0.463	0.308	Pink	8.75R3.5/6.5		G 48	3.48
			G 44.52	7.56	44							B 46	0.2
			B 46.20	6.90	46							R 197	0.53
二人のヴェネツィア婦人の肖像	奥の女性 袖		R 196.47	23.69	195		0.381	0.389	低彩度のYellow	7.5YR5.5/3.625		G 168	1.05
			G 166.95	27.49	167							B 100	0.49
			B 100.49	25.23	101							R 214	1.75
二人のヴェネツィア婦人の肖像	奥の女性 ドレス		R 215.75	20.01	216		0.368	0.377	低彩度のYellow	8.75YR7/3		G 194	0.89
			G 193.11	24.41	195							B 129	3.28
			B 132.28	26.04	133							R 191	2.29
美しくシモンネッタの肖像	ドレス		R 188.71	11.56	187		0.393	0.341	Orange Pink	10R4.75/4		G 115	1.86
			G 116.86	10.24	115							B 104	3.22
			B 100.78	10.96	99							R 178	2.74
美しくシモンネッタの肖像	肩からかけた		R 175.26	17.57	174		0.451	0.346	Orange Pink	10R4.375/6.5		G 73	0.92
			G 73.92	24.55	68							B 54	0.65
			B 53.35	16.54	50							R 160	2.06
婦人の肖像	ドレス		R 162.06	13.53	162		0.403	0.401	低彩度のYellowish Orange	5YR4.25/4.25		G 122	1.27
			G 123.27	12.51	122							B 62	0.45
			B 62.45	17.23	62							R 25	1.68
恋人たち	ドレス		R 26.68	6.40	26		0.267	0.253	低彩度のBluish Purple	4.25PB2/7		G 42	2.48
			G 39.52	7.74	39							B 75	3.28
			B 71.72	9.37	71							R 168	0.13
婦人の肖像(ラ・グラヴィダ)	ドレス		R 168.13	33.61	168		0.405	0.382	低彩度のYellowish Orange	2.5YR4.5/4.25		G 117	1.51
			G 115.49	25.42	116							B 70	1.19
			B 68.81	20.30	68							R 196	0.02
面替商とその妻	袖		R 195.98	17.58	195		0.438	0.323	Pink	9.375R4.75/6		G 81	1.48
			G 79.52	13.86	78							B 70	3.96
			B 73.96	14.01	73							R 174	1.03
面替商とその妻	ドレス		R 175.03	9.17	175		0.452	0.330	Orange Pink	9.375R4.25/6.5		G 66	1.21
			G 67.21	7.25	66							B 55	1.66
			B 56.66	5.23	57							R 166	0.8
ガブリエル・デストレとその姉妹	ドレス		R 165.20	19.86	162		0.411	0.332	Orange Pink	10R4.125/4.75		G 86	1.45
			G 84.55	18.80	81							B 73	3.35
			B 76.35	17.71	73								

サンプル		測色結果						色度図		マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	差	
パッコス祭(アンドロス島の人々)	左の人物 ドレス		R 22.04 G 16.44 B 25.16	10.78 8.09 7.77	20 15 24		0.329	0.276	低彩度のReddish Purple	5P0/4	R 23 G 16 B 25	0.96 0.44 0.16
	中の人物 ドレス		R 101.37 G 39.05 B 42.59	38.31 18.52 13.99	93 35 42		0.431	0.308	Pink	8.125R2.75/5	R 102 G 39 B 45	0.63 0.05 2.41
	ドレス		R 59.17 G 69.67 B 85.74	14.30 15.41 20.06	56 65 83		0.306	0.307	低彩度のPurple	5PB2.25/3.5	R 61 G 69 B 87	1.83 0.67 1.26
	ドレス		R 98.68 G 53.53 B 56.42	23.02 10.12 10.29	96 53 55		0.393	0.317	Pink	8.75R2.625/3.75	R 100 G 54 B 56	1.32 0.47 0.42
ユディット	胸衣		R 160.41 G 93.58 B 61.28	25.93 22.49 22.94	162 94 61		0.418	0.367	低彩度のOrange Pink	1.25YR4.375/4.5	R 163 G 94 B 62	2.59 0.42 0.72
	ドレス		R 156.57 G 69.25 B 44.34	23.36 19.68 15.31	152 64 42		0.453	0.358	Orange Pink	0.625YR4/6	R 155 G 69 B 45	1.57 0.25 0.66
	左の人物 ドレス		R 171.26 G 47.60 B 39.50	16.16 13.86 11.93	170 47 40		0.494	0.322	Pink	8.75R4.125/7.5	R 171 G 48 B 42	0.26 0.4 2.5
	右の人物 ドレス		R 187.78 G 95.89 B 75.89	25.80 33.75 26.08	188 95 74		0.421	0.344	Orange Pink	10R4.75/5	R 192 G 96 B 79	4.22 0.11 3.11
三姉妹	右の人物 ショール		R 96.60 G 113.86 B 59.43	29.92 27.24 20.44	90 110 57		0.357	0.416	低彩度のYellow Green	7.5GY3.5/5	R 99 G 114 B 57	2.4 0.14 2.43
	左の人物 ドレス		R 84.38 G 32.36 B 30.74	12.29 6.87 6.76	83 32 30		0.443	0.320	Pink	8.75R2/5.25	R 81 G 31 B 31	3.38 1.36 0.26
	中の人物 ドレス		R 85.52 G 44.98 B 34.04	24.16 17.29 10.73	81 41 33		0.421	0.350	Orange Pink	1.25YR2.5/4.25	R 86 G 49 B 35	0.48 4.02 0.96
	右の人物 ドレス		R 163.53 G 54.82 B 37.35	29.62 16.32 10.15	171 52 37		0.484	0.342	Orange Pink	10R4/7.5	R 162 G 56 B 37	1.53 1.18 0.35
巡礼者たちの殉教と聖女の葬儀	左の人物 ドレス		R 92.10 G 90.43 B 67.95	18.40 17.73 17.41	91 89 66		0.353	0.369	低彩度のYellow	2.5GY3.25/2.25	R 94 G 91 B 70	1.9 0.57 2.05
	左の人物 ショール		R 126.79 G 43.90 B 39.71	25.23 19.79 17.59	124 41 38		0.460	0.322	Pink	8.75R3.25/6.5	R 130 G 43 B 40	3.21 0.9 0.29
	中の人物 ドレス		R 182.89 G 186.25 B 182.62	12.35 10.43 11.63	182 186 183		0.333	0.336	低彩度のYellowish Orange	5G6/0.75	R 182 G 185 B 180	0.89 1.25 2.62
	右の人物 外衣		R 146.93 G 57.08 B 60.15	34.55 40.42 35.39	140 43 48		0.433	0.311	Pink	8.75R3.625/5.5	R 146 G 59 B 60	0.93 1.92 0.15
	右の人物 ドレス		R 104.99 G 120.28 B 134.41	25.46 26.61 32.73	104 121 136		0.315	0.320	低彩度のYellowish Orange	5PB3.75/3	R 105 G 119 B 131	0.01 1.28 3.41







サンプル			測色結果				色度図			マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差
聖アントニウスの誘惑	右の人物 ドレス		R 152.76	13.53	152		0.425	0.327	Pink	9.375R3.75/5	R 150	2.76
			G 69.03	11.74	68						G 69	0.03
			B 63.41	9.28	62						B 63	0.41
	中の人物 ドレス		R 41.05	7.15	40		0.325	0.312	低彩度のPurplish Pink	7.5PB1.5/2.5	R 43	1.95
			G 39.99	6.10	39						G 41	1.01
			B 46.80	7.16	46						B 49	2.2
	左の人物 ドレス		R 54.09	7.52	54		0.336	0.353	低彩度のGreenish Yellow	2.5G1.75/2.5	R 55	0.91
			G 57.91	7.52	58						G 60	2.09
			B 50.26	6.86	50						B 51	0.74

表3-5. ルネサンス時代のサンプル目録

タイトル	測色部分	作者	製作年	所蔵場所	出典
アルノルフィーニ夫妻の肖像	ドレス 袖	ヤン・ファン・エイク	1390頃	ロンドン ナショナルギャラリー	辻茂監修『名画の技法—ジョットからボック ニーまで—』メルヘン社(1987年)
ジェーン・シーモアの肖像	ドレス	ハンス・ホルバイン	1538年	ウィーン 美術史美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第14巻 北方ルネサンス』小学館(1995年)
ヤコブ・マイヤーとその妻ドロテ ア・カネンギーサーの肖像	ドレス 袖どり	ハンス・ホルバイン	1518年頃	スイス バーゼル美術館	
ヨハネス・クスピニアン博士とそ の妻アンナの肖像	ドレス 袖どり	ルーカス・クラナハ	1502~03年頃	スイス オスカー・ラインハルト・コレクション	
ルクレツィア・バンチアディキの 肖像	ドレス 袖	ブロンズイーノ	1540年頃	フィレンツェ ウフィッツ美術館	
乙女の肖像	ドレス 袖	ティツィアーノ・ヴェチェリ	1515年頃	ウィーン 美術史美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3』小学館(1994年)
画家の妻マルガレーテの肖像	ドレス	ヤン・ファン・エイク	1439年	ブリュッセル 市立グルーニング美術館	
若い女性の肖像	ドレス 胸衣	ペトルス・クリストゥス	1470年	ベルリン 国立絵画館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第14巻 北方ルネサンス』小学館(1995年)
若いヴェネツィア婦人の肖像	ドレス	アルブレヒト・デューラー	1505年	ウィーン 美術史美術館	
若い婦人の肖像(一角獣を抱く 女性)	ドレス 袖	ラファエロ・サンティ	1505~08年	ローマ ボルゲーゼ美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大画家10ラファエロ』中央公論社(1985年)
ジョヴァンナ・トルナボオーニの 肖像	ドレス	ギルランダイオ	1490年頃	東京 富士美術館	
ウルビーノ公夫妻の肖像	ドレス 袖	ピエロ・デ・フランチェスカ	1474~75年	フィレンツェ ウフィッツ美術館	『西洋美術館』小学館(1999年)
ドーニ夫妻の肖像	ドレス 袖	ラファエロ・サンティ	1506年頃	フィレンツェ ピッティ美術館	
二人のヴェネツィア婦人の肖像	手前の女性 スカート 奥の女性 袖 奥の女性 ドレス 袖から	ヴィットーレ・カルパッチョ	1510年頃	ヴェネツィア 市立コッレール美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3』小学館(1994年)
美しきシモネッタの肖像	ドレス 胸から	ポッティチェリ	1480~85年	東京 丸紅株式会社	『西洋美術館』小学館(1999年)
婦人の肖像	ドレス	ヴィットーレ・カルパッチョ	1505年	ローマ ボルゲーゼ美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3』小学館(1994年)
恋人たち	ドレス	ハウスブーフの画家	1480年頃	ドイツ、ゴータ城美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第14巻 北方ルネサンス』小学館(1995年)
婦人の肖像(ラ・グラヴィダ)	ドレス 袖	ラファエロ・サンティ	1505~08年	フィレンツェ ピッティ美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大画家10ラファエロ』中央公論社(1985年)
両替商とその妻	ドレス	クエンティン・マッサイス	1514年	パリ ルーヴル美術館	『西洋美術館』小学館(1999年)
ガブリエル・デストレとその姉妹	ドレス	フォンテーヌブロー派	1594年	パリ ルーヴル美術館	
パッコス祭(アンドロス島の 人々)	寝転ぶ女性左 ドレス 寝転ぶ女性右 ドレス	ティツィアーノ・ヴェチェリ	1523~25年	マドリッド プラド美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3』小学館(1994年)
ダナエ	ドレス	マビューズ	1527年	ミュンヘン アルテ・ピナコテーク	『西洋美術館』小学館(1999年)
ユディット	ドレス 胸衣	ルーカス・クラナハ	1530年頃	ウィーン 美術史美術館	
ラザロと富める人	ドレス	ヤコポ・パッサーノ	1554年頃	オハイオ州 クリーヴランド美術館	佐々木英也・森田義之編『世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3』小学館(1994年)
婚約者の対面と巡礼への出発	中右に立つ2人の女性左 ドレス 中右に立つ2人の女性右 ドレス 中右に立つ2人の女性右 肩から	ヴィットーレ・カルパッチョ	1495年	ヴェネツィア アカデミア美術館	
三姉妹	左の人物 ドレス 中の人物 ドレス 右の人物 ドレス	バルマ・イル・ヴェッキオ	1520年	ドレスデン 国立絵画館	
巡礼者たちの殉教と聖女の葬 儀	中央に膝まつく女性のうち左 ドレス 中央に膝まつく女性のうち左 肩から 中央に膝まつく女性のうち中 ドレス 中央に膝まつく女性のうち右 外衣 中央に膝まつく女性のうち右 ドレス	ヴィットーレ・カルパッチョ	1493年	ヴェネツィア アカデミア美術館	
聖アントニウスの誘惑	最右の女性 ドレス 右から2番目の女性 ドレス 右から3番目の女性 ドレス	マッサイスとパティニール	1520~24年頃	マドリッド プラド美術館	『西洋美術館』小学館(1999年)

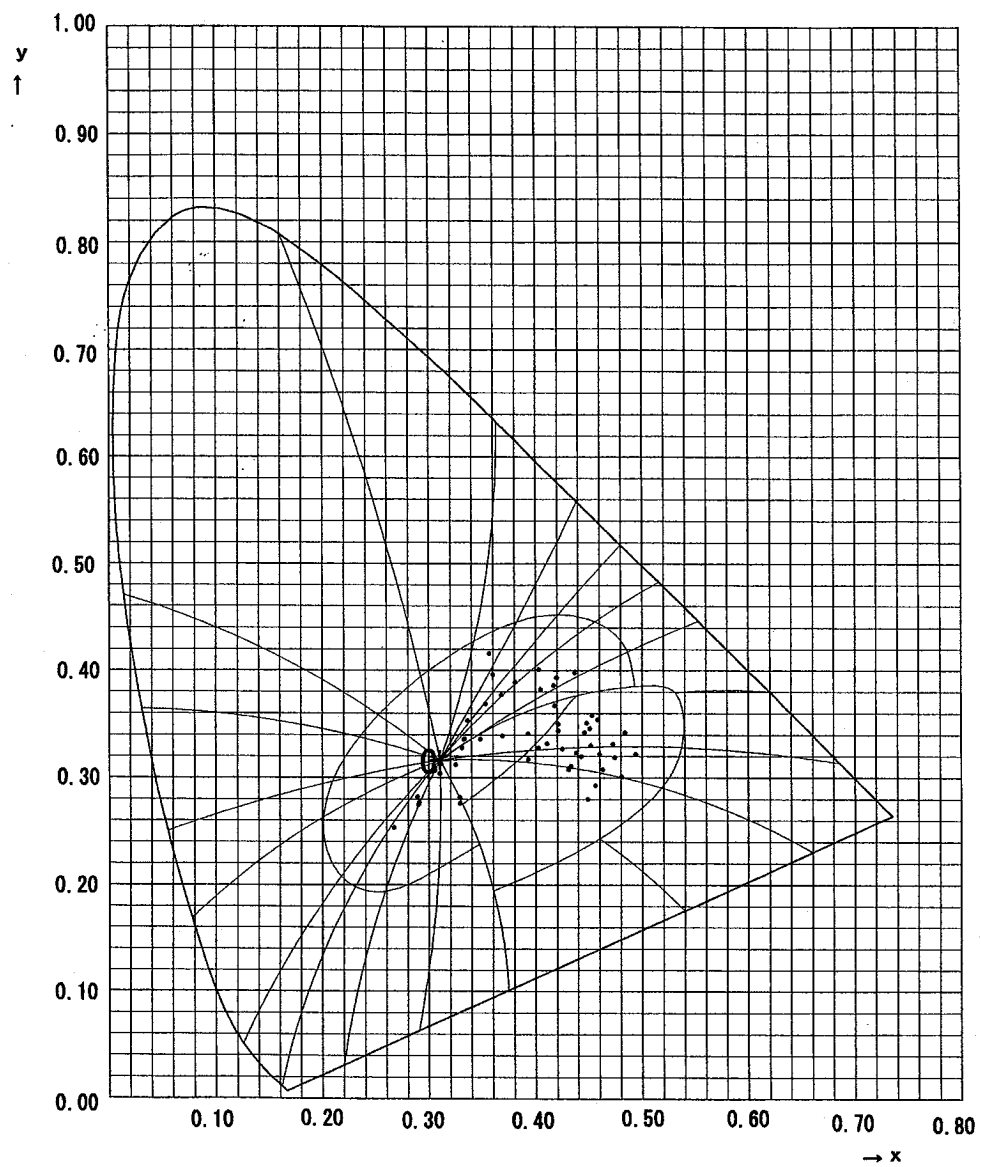


図3-9. ルネサンス時代の色彩出現分布

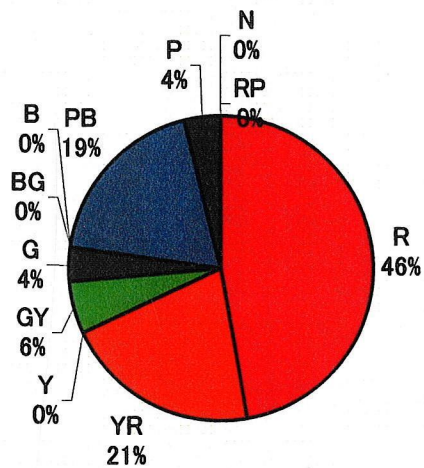


図3-10 ルネサンス時代の色彩出現比率(色相)

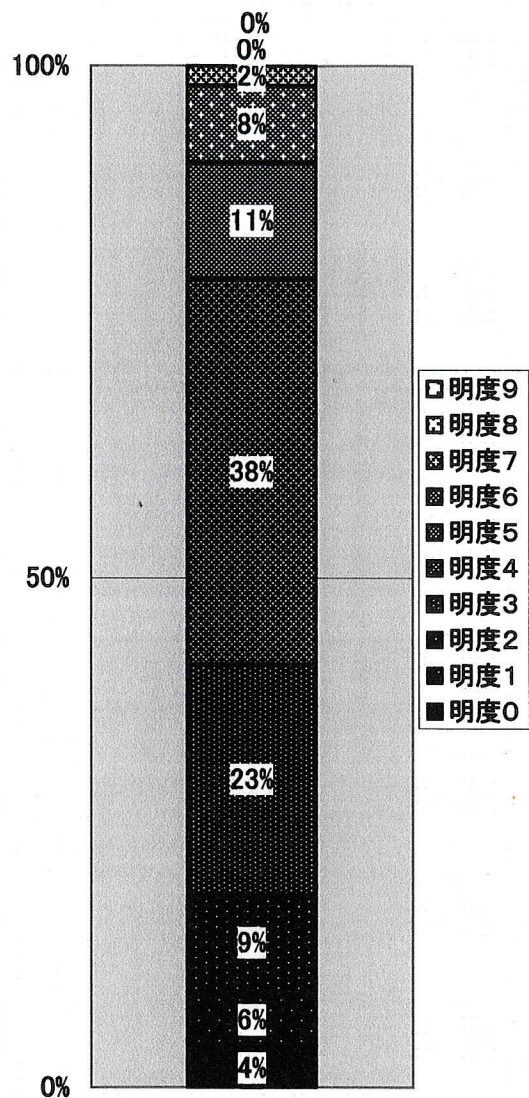


図3-11 ルネサンス時代の色彩出現比率(明度)

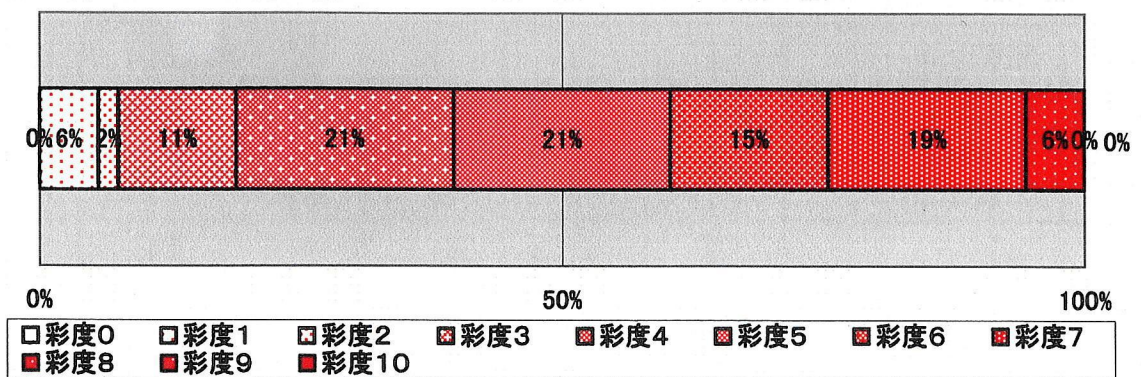

















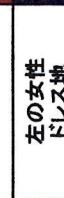
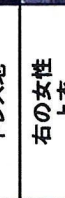
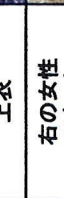

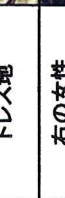
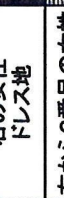


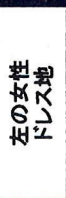
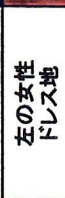
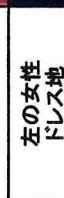






図3-12 ルネサンス時代の色彩出現比率(彩度)

表3-6. バロック時代のサンプル別測色結果一覧

サンプル			測色結果							色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差	
アガタバスの肖像	ドレス地		R 22.12	5.88	22		0.345	0.333	低彩度のOrange Pink	N1	R 25	2.88	
			G 19.70	5.02	19			G 21			1.3		
			B 19.44	5.46	19			B 22			2.56		
アルバハム・デル・ケールとその妻	ドレス地		R 207.55	23.64	212		0.342	0.342	低彩度のYellowish Orange	7.5YR9/0.125	R 207	0.55	
			G 198.31	23.58	203			G 196			2.31		
			B 184.53	28.68	189			B 180			4.53		
いかさま師	右の女性 ドレス地		R 192.26	10.10	190		0.387	0.326	低彩度のOrange Pink	9.375R4.75/3.75	R 192	0.26	
	G 115.11		10.32	113			G 117	1.89					
	右から2番目の女性 ドレス地		B 113.22	11.62	111				低彩度のOrange	2.5YR3.625/6	B 115	1.78	
			R 141.25	11.13	142		0.459	0.401			R 139	2.25	
			G 74.77	10.56	75						G 78	3.23	
			B 29.53	10.16	30						B 33	3.47	
エステルの食事	ドレス地		R 118.11	11.38	118		0.316	0.323	低彩度のYellowish Orange	10B4.125/1.75	R 118	0.11	
			G 134.66	10.17	134						G 135	0.34	
			B 147.15	11.48	147						B 145	2.15	
エレーヌ・フールマンと子供たち	ドレス地		R 208.29	10.94	208		0.361	0.362	低彩度のYellowish Orange	7.5YR7/2.5	R 209	0.71	
			G 185.51	10.73	185						G 188	2.49	
			B 144.05	11.59	144						B 142	2.05	
エレーヌ・フールマンの肖像	ドレス地		R 31.90	6.99	30		0.358	0.342	低彩度のOrange Pink	1.25YR1.125/2	R 31	0.9	
			G 26.37	6.48	24						G 27	0.63	
			B 23.99	6.28	23						B 25	1.01	
サスキア	ドレス地		R 149.62	10.08	148		0.432	0.333	Orange Pink	10R3.75/5.5	R 150	0.38	
			G 66.80	8.03	65						G 69	2.2	
			B 57.26	7.33	57						B 55	2.26	
シュゼンヌ・フールマンの肖像	ドレス地		R 22.38	7.78	23		0.455	0.352	Orange Pink	N0	R 22	0.38	
			G 9.48	6.58	10						G 18	8.52	
			B 6.39	5.64	6						B 19	12.61	
袖			R 220.73	11.26	219		0.510	0.327	Pink	8.75R5.5/8.5	R 219	1.73	
			G 57.35	13.60	56						G 57	0.35	
			B 42.76	10.94	41						B 42	0.76	
左の女性 ドレス地	左の女性 ドレス地		R 161.19	11.37	162		0.481	0.352	Orange Pink	10R4/7.5	R 162	0.81	
			G 58.10	10.22	58						G 56	2.1	
			B 35.86	9.80	36						B 36	0.14	
チャールズ1世の子供	中の女性 ドレス地		R 203.73	11.23	204		0.335	0.336	低彩度のYellowish Orange	N6.125	R 203	0.73	
			G 203.15	13.60	204						G 203	0.15	
			B 198.28	11.52	199						B 205	6.72	
右の女性 ドレス地	右の女性 ドレス地		R 101.09	10.24	101		0.313	0.323	低彩度のYellowish Green	5B3.625/2	R 101	0.09	
			G 119.97	9.59	120						G 120	0.03	
			B 131.93	11.02	131						B 127	4.93	
ホイットモア夫人フランシス・ブルック	ドレス地		R 144.54	10.87	144		0.329	0.323	低彩度のOrange Pink	6.25PB4.625/1.5	R 144	0.54	
			G 142.84	10.49	142						G 143	0.16	
			B 154.10	11.26	154						B 153	1.1	
マリー・ド・メディシスのマルセイユ上陸	王妃 ドレス地		R 219.61	10.71	219		0.362	0.361	低彩度のYellowish Orange	5YR7.5/2.5	R 221	1.39	
	G 192.68		10.37	191				G 195			2.32		
	王妃の左の女性 ドレス地			B 151.01	11.34	150				低彩度のYellowish Orange	3.75YR8/2	B 153	1.99
R 224.70				10.33	223		0.356	0.353	R 223			1.7	
			G 198.70	10.37	197						G 197	1.7	
			B 166.95	11.43	166						B 167	0.05	

サンプル			測色結果					色度図		マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差
マリー・ド・メデシスのマルセイユ上陸	王妃の右の女性 ドレス地		R 42.98	6.84	42		0.421	0.354	Orange Pink	10R1/4	R 39	3.98
			G 23.06	5.99	23						G 20	3.06
			B 16.85	6.00	17						B 16	0.85
公女の教育	王妃 ドレス地		R 125.89	10.54	124		0.398	0.337	低彩度のOrange Pink	10R3.25/4	R 125	0.89
			G 73.20	8.55	72						G 74	0.8
			B 64.59	8.57	63						B 67	2.41
統治権の王太子への譲渡	王妃 ドレス地		R 73.07	9.33	74		0.331	0.329	低彩度のOrange Pink	N2.25	R 74	0.77
			G 73.07	8.83	73						G 74	0.93
			B 75.51	9.37	75						B 77	1.49
王太子の誕生	王妃 上衣		R 200.58	10.56	201		0.395	0.389	低彩度のYellowish Orange	4.375YR5.5/4.125	R 200	0.58
			G 153.25	10.88	155						G 152	1.25
			B 88.30	10.22	89						B 89	0.7
パリを去る王母	王妃 スカート		R 148.89	11.67	149		0.436	0.340	Orange Pink	10R3.75/5.5	R 150	1.11
			G 66.99	9.66	68						G 69	2.01
			B 53.64	9.84	53						B 55	1.36
和解	王妃 ドレス地		R 43.64	8.82	42		0.342	0.302	低彩度のPurple Pink	2.5RP1.5/3	R 47	3.36
			G 33.61	7.44	32						G 33	0.61
			B 41.86	7.83	40						B 43	1.14
メノ派説教師アンスロとその妻	王妃 ドレス地		R 225.93	10.18	225		0.337	0.338	低彩度のYellowish Orange	10R9/0.25	R 232	6.07
			G 223.33	9.51	223						G 225	1.67
			B 215.79	10.63	215						B 217	1.21
ユノー	ドレス地		R 24.48	8.62	22		0.379	0.350	低彩度のOrange Pink	N0	R 21	3.48
			G 17.56	8.01	16						G 18	0.44
			B 14.47	8.29	12						B 19	4.53
ルーベンスとイザベラ・ブランク	上衣		R 153.73	11.04	154		0.443	0.382	低彩度のOrange	1.875YR4.125/5.5	R 155	1.27
			G 82.31	9.67	82						G 85	2.69
			B 42.92	9.63	43						B 42	0.92
ルクレツィア	スカート		R 38.10	7.74	39		0.379	0.330	低彩度のOrange Pink	10R1/3	R 38	0.1
			G 24.80	7.21	26						G 24	0.8
			B 23.97	7.55	25						B 23	0.97
家族という自画像	右の女性 ドレス地		R 132.66	11.20	132		0.423	0.355	Orange Pink	0.625YR3.5/4.75	R 132	0.66
			G 70.65	9.71	70						G 69	1.65
			B 50.92	9.54	50						B 51	0.08
果物と野菜を売る女	右の女性 ドレス地		R 172.29	11.08	172		0.454	0.410	低彩度のYellowish Orange	3.125YR4.5/6.75	R 175	2.71
			G 97.03	10.28	96						G 98	0.97
			B 35.69	10.61	35						B 37	1.31
犬と戯れる女	左の女性 ドレス地		R 19.01	9.34	20		0.333	0.299	低彩度のPurple Pink	N0	R 21	1.99
			G 15.69	8.94	16						G 18	2.31
			B 20.12	10.14	21						B 19	1.12
犬と戯れる女	上衣		R 20.99	6.35	21		0.339	0.315	低彩度のPurple Pink	N0	R 21	0.01
			G 18.00	6.31	18						G 18	0
			B 20.47	6.47	21						B 19	1.47
侯爵夫人ブルジスタ・スピノラ	スカート		R 216.90	13.76	219		0.388	0.393	低彩度のYellowish Orange	6.25YR6.5/3.25	R 216	0.9
			G 177.85	16.00	180						G 176	1.85
			B 101.73	15.60	102						B 104	2.27
侯爵夫人ブルジスタ・スピノラ	ドレス地		R 186.50	16.74	186		0.468	0.342	Orange Pink	10R4.625/7	R 188	1.5
			G 69.08	22.64	64						G 71	1.92
			B 49.38	17.34	46						B 50	0.62
侯爵夫人ブルジスタ・スピノラ	ドレス地		R 200.20	10.67	199		0.360	0.360	低彩度のYellowish Orange	5YR6/2.5	R 197	3.2
			G 177.36	10.51	176						G 177	0.36
			B 140.35	11.25	139						B 139	1.35

サンプル			測色結果							色度図		マンセル	
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域		マンセル値	差	
若い学者とその姉妹	右の女性 上衣		R 16.41 G 13.38 B 12.79	7.11 6.60 6.85	16 13 12		0.356	0.336	低彩度のOrange Pink	N0	R 21 G 18 B 19	4.59 4.62 6.21	
	右の女性 スカート		R 146.22 G 51.56 B 36.06	10.06 7.46 7.20	148 53 37		0.476	0.342	Orange Pink	10R3.625/7	R 146 G 54 B 37	0.22 2.44 0.94	
	左の女性 ドレス地		R 25.28 G 19.04 B 14.61	7.67 7.18 7.43	26 20 15		0.379	0.359	低彩度のOrange	N0	R 21 G 18 B 19	4.28 1.04 4.39	
	右の女性 上衣		R 198.56 G 195.48 B 198.84	9.94 9.38 8.52	199 196 199		0.334	0.331	低彩度のOrange Pink	10P6.5/0.5	R 202 G 195 B 199	3.44 0.48 0.16	
女の肖像	右の女性 スカート		R 192.16 G 181.21 B 161.58	19.40 22.03 28.89	192 180 160		0.346	0.347	低彩度のYellowish Orange	8.75YR8/1	R 191 G 180 B 162	1.16 1.21 0.42	
	ドレス地		R 174.13 G 158.63 B 134.75	14.22 14.50 18.02	175 159 135		0.353	0.352	低彩度のYellowish Orange	6.25YR5/1.75	R 172 G 159 B 134	2.13 0.37 0.75	
	右の女性 ドレス地		R 51.18 G 46.39 B 45.44	18.00 17.90 17.62	47 42 41		0.344	0.334	低彩度のOrange Pink	8.75R1.625/2	R 53 G 44 B 44	1.82 2.39 1.44	
	右から2番目の女性 ドレス地		R 154.00 G 144.40 B 123.56	11.30 10.44 11.31	154 144 123		0.350	0.352	低彩度のYellowish Orange	7.5YR4.75/1.5	R 153 G 144 B 124	1 0.4 0.44	
狩りからの帰還	右から3番目の女性 ドレス地		R 133.61 G 97.01 B 70.19	10.33 9.60 10.10	133 96 70		0.387	0.364	低彩度のOrange	1.875YR3.75/3.5	R 134 G 96 B 71	0.39 1.01 0.81	
	左の女性 ドレス地		R 22.46 G 18.47 B 18.37	5.69 5.62 6.15	23 19 19		0.352	0.331	低彩度のOrange Pink	N0	R 21 G 18 B 19	1.46 0.47 0.63	
	左の女性 ドレス地		R 161.92 G 95.90 B 93.82	40.58 45.36 41.33	162 89 87		0.388	0.327	低彩度のOrange Pink	9.375R4.125/3.875	R 164 G 97 B 94	2.08 1.1 0.18	
	左の女性 ドレス地		R 18.30 G 11.87 B 15.75	8.93 8.23 9.64	19 12 16		0.355	0.293	Purplish Pink	N0	R 21 G 18 B 19	2.7 6.13 3.25	
女占い師	左から2番目の女性 ドレス地		R 20.70 G 14.21 B 18.47	8.10 7.08 7.98	22 15 19		0.350	0.296	低彩度のPurplish Pink	N0	R 21 G 18 B 19	0.3 3.79 0.53	
	左から3番目の女性 ドレス地		R 203.08 G 156.73 B 51.97	33.31 33.14 33.13	204 157 52		0.422	0.436	低彩度のYellow	8.75YR5.5/5.75	R 202 G 158 B 51	1.08 1.27 0.97	
	左から4番目の女性 ドレス地		R 90.95 G 84.85 B 38.23	11.20 8.34 9.95	91 82 35		0.387	0.422	低彩度のGreenish Yellow	1.25GY2.625/4.5	R 89 G 86 B 39	1.95 1.15 0.77	
	左から5番目の女性 ドレス地		R 181.33 G 125.08 B 22.85	11.27 10.23 14.75	182 125 23		0.456	0.462	Yellow	8.125YR4.625/7.5	R 181 G 125 B 26	0.33 0.08 3.15	
	左から6番目の女性 ドレス地		R 23.58 G 20.26 B 19.01	15.97 15.61 16.19	22 18 17		0.352	0.339	低彩度のOrange Pink	N1	R 25 G 21 B 22	1.42 0.74 2.99	







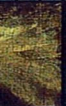







サンプル			測色結果						色度図		マンセル		
タイトル	測色部分	見本	平均値	標準偏差	中央値	測色色彩	X座標	Y座標	色の領域	マンセル値	RGB値	差	
愛の園	右の女性 スカート地		R 211.81	24.49	211		0.370	0.381	低彩度のYellow	8.125YR6.75/3.125	R 213	1.19	
			G 189.77	24.07	188						G 190	0.23	
			B 125.37	35.34	126						B 126	0.63	
青衣のマルガリータ王女	ドレス地		R 44.02	12.08	43		0.255	0.221	低彩度のBluish Purple	5.625PB4.25/7.75	R 44	0.02	
			G 63.22	13.21	62						G 66	2.78	
			B 144.84	20.82	112						B 144	0.84	
扇を持つ若い女性の肖像	ドレス地		R 55.12	8.41	55		0.394	0.339	低彩度のOrange Pink	10R1.375/3.5	R 54	1.12	
			G 33.33	7.55	33						G 33	0.33	
			B 29.09	7.69	29						B 30	0.91	
窓辺のヘンドリックエ	ドレス地		R 207.05	11.72	206		0.453	0.355	Orange Pink	0.625YR5.25/6	R 205	2.05	
			G 90.84	10.44	90						G 93	2.36	
			B 59.86	10.34	59						B 60	0.14	
庭園の中の夫婦の肖像	ドレス地		R 52.77	9.93	51		0.336	0.332	低彩度のOrange Pink	N1.625	R 50	2.77	
			G 50.85	9.66	49						G 49	1.85	
			B 51.15	10.01	49						B 51	0.15	
風景の中の家族の肖像	右から2番目の女性 上衣		R 29.63	16.69	28		0.362	0.329	低彩度のOrange Pink	8.75R1/3	R 35	5.37	
	G 22.06		15.93	20				G 21			1.06		
	B 21.88		16.32	20				B 21			0.88		
風景の中の家族の肖像	右から2番目の女性 スカート		R 146.04	32.67	142		0.395	0.415	低彩度のYellow	10YR3.875/4	R 143	3.04	
	G 125.12		31.55	120				G 125			0.12		
	B 58.02		31.51	55				B 59			0.98		
	右の女性 ドレス地		R 18.80	10.11	18		0.387	0.298	Purplish Pink	N0	R 21	2.2	
	G 9.51		9.10	8				G 18			8.49		
	B 11.84		10.80	10				B 19			7.16		
	左の女性 ドレス地		R 209.47	15.44	210		0.342	0.348	低彩度のYellowish Orange	7.5YR8.25/0.75	R 209	0.47	
	G 206.73		13.88	207				G 208			1.27		
	B 183.70		16.25	184				B 189			5.3		
踊る人物のいる風景	左から2番目の女性 ドレス地		R 84.56	24.71	81		0.285	0.273	低彩度のBluish Purple	5.625PB4.75/5.5	R 87	2.44	
	G 107.23		26.37	103				G 106			1.23		
	B 168.85		26.65	166				B 170			1.15		
	左から3番目の女性 ドレス地		R 114.58	10.38	114		0.312	0.312	低彩度のReddish Purple	4.625PB4.125/3	R 113	1.58	
	G 129.34		9.87	129				G 130			0.66		
	B 153.47		11.52	153				B 152			1.47		
	左から4番目の女性 ドレス地		R 194.78	23.65	201		0.381	0.392	低彩度のYellow	7.5YR5.5/3.5	R 195	0.22	
	G 168.41		22.92	173				G 168			0.41		
	B 99.49		21.04	103				B 103			3.51		
陽気な集い	左から2番目の女性 ドレス地		R 155.88	24.33	154		0.413	0.342	Orange Pink	10R3.875/4.75	R 155	0.88	
	G 83.25		23.46	80				G 80			3.25		
	B 68.33		21.57	65				B 68			0.33		
エレーヌ・ファールマンとその息子	ドレス地		R 99.88	10.23	99		0.377	0.408	低彩度のGreenish Yellow	1.25GY3/4	R 97	2.88	
			G 95.40	9.38	94						G 95	0.4	
			B 50.00	9.87	49						B 50	0	

表3-7. バロック時代のサンプル目録

タイトル	着色部分	作者	製作年	所蔵場所	出典
アガタ・バスの肖像	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1641年	ロンドン バッキンガム宮王室コレクション	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
アルバハム・デル・クー ルと妻マリア・デ・ケール セーテルの肖像	ドレス地	バルトロメウス・ファン・デル・ヘルスト	1654年	ロッテルダム ボイマンス=ファン・ビューニンゲン美術館	
いかさま師	右の女性 ドレス地 右から2番目の女性 ドレス地	ジョルジュ・ド・ラ・トゥール	1635年頃	テキサス州フォートワース キンベル美術館	
エステルの食事	ドレス地	ヤン・リーフェンス	1625~26年	ノースカロライナ州ローリー ノースカロライナ美術館	
エレーヌ・フルマンと子 供たち	ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1636年頃	パリ ルーヴル美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家13 ルーベンス』中央公論社(1982年)
エレーヌ・フルマンの 肖像	ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1630年代	パリ ルーヴル美術館	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
サスキア	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1634年頃	カッセル 国立美術館	
ジュザンヌ・フルマンの 肖像	ドレス地 袖	ペーテル・パウル・リユベンス	1622年	ロンドン ナショナル・ギャラリー	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家13 ルーベンス』中央公論社(1982年)
チャールズ1世の子供	左の女性 ドレス地 中の女性 ドレス地 右の女性 ドレス地	ヴァン・ダイク	1635年	トリノ サバウダ美術館	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
ホイットモア夫人フランシス・ブルック	ドレス地	ピーター・リリー	1665年	ロンドン ハンプトン・コート 王室コレクション	
マリー・ド・メディスのマルセイユ上陸	王妃 ドレス地 王妃の左の女性 ドレス地 王妃の右の女性 ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	パリ ルーヴル美術館	
公女の教育	王妃 ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	パリ ルーヴル美術館	
統治権の王太子への譲渡	王妃 ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	パリ ルーヴル美術館	『西洋美術館』小学館(1999年)
王太子の誕生	王妃 上衣 王妃 スカート	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	パリ ルーヴル美術館	
パリを去る王母	王妃 ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	ミュンヘン アルテ・ピナコテーク	
和解	王妃 ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1622~25年	パリ ルーヴル美術館	
メノ派説教師アンスロとその妻	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1641年	ベルリン 国立絵画館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家16 レンブラント』中央公論社(1982年)
ユノー	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1662~65年	ロサンゼルス アルマンド・ハマー・コレクション	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家13 ルーベンス』中央公論社(1982年)
ルーベンスとイザベラ・ブランド	上衣 スカート	ペーテル・パウル・リユベンス	1609~10年頃	ミュンヘン アルテ・ピナコテーク	
ルクレツィア	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1666年	ミネアポリス ミネアポリス美術館研究所	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家16 レンブラント』中央公論社(1982年)
家族という自画像	右の女性 ドレス地	コルネリス・デ・フォス	1621年	ブリュッセル ブリュッセル王立美術館	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
果物と野菜を売る女	左の女性 ドレス地	ルイーズ・モワロン	1630年	パリ ルーヴル美術館	
犬と戯れる女	上衣 スカート	ヤーコブ・オフテルフェルト	1672年頃	ペンシルベニア州ピッツバーグ カーネギー美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大図家16 レンブラント』中央公論社(1982年)
侯爵夫人ブルジタ・スピノラ=ドーリアの肖像	ドレス地	ペーテル・パウル・リユベンス	1606年	ワシントン ナショナル・ギャラリー	
若い学者とその姉妹	右の女性 上衣 右の女性 スカート 左の女性 ドレス地 右の女性 ドレス地 右の女性 スカート	ゴンザレス・コック	1640年	ドイツ カッセル美術館	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
手紙	ヘラルト・テル・ボルフ		1660年頃	ロンドン セント・ジェームズ宮王室コレクション	
女の肖像	ドレス地	カスパー・ネットチェル	1679年	ベルリン 国立絵画館	
狩りからの帰還	右の女性 ドレス地 右から2番目の女性 ドレス地 右から3番目の女性 ドレス地 左の女性 ドレス地	ピーテル・コッデ	1635年	アムステルダム 国立美術館	
女占い師	左の女性 ドレス地 左の女性 ドレス地	シモン・ヴァーエ	1618年頃	オタワ カナダ国立美術館	神吉敬三・若桑みどり編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994年)
愛の園	左から2番目の女性 ドレス地 左から3番目の女性 ドレス地 左から4番目の女性 ドレス地 左から5番目の女性 ドレス地 左から6番目の女性 ドレス地 右の女性 スカート地	ペーテル・パウル・リユベンス	1632~35年頃	マドリッド プラド美術館	
青衣のマルガリータ	ドレス地	ディエゴ・ベラスケス	1659年	ウィーン 美術史美術館	

扇を持つ若い女性の肖像	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1632年	ストックホルム 国立美術館	井上靖・高階秀爾編『カンヴァス世界の 大画家16 レンブラント』中央公論社(1 982年)
窓辺のヘンドリックエ	ドレス地	レンブラント・ファン・レイン	1656～57年	ベルリン 国立絵画館	
庭園の中の夫婦の肖像	ドレス地	フランス・ハルス	1620年代前半	アムステルダム 国立美術館	『西洋美術館』小学館(1999年)
風景の中の家族の肖像	右から2番目の女性 上衣	フランス・ハルス	1648年頃	マドリード ティツセン＝ボルネミッサ美術館	神宮敬三・若桑みどり編『世界美術大全 集 第17巻 バロックⅡ』小学館(1994 年)
	右から2番目の女性 スカート				
	右の女性 ドレス地				
踊る人物のいる風景	左の女性 ドレス地	クロード・ロラン	1648年頃	ローマ ドーリア＝パルフィーリ美術館	
	左から2番目の女性 ドレス地				
	左から3番目の女性 ドレス地				
	左から4番目の女性 ドレス地				
陽気な集い	左から2番目の女性 ドレス地	ウィレム・バイテウェフ	1620～22年頃	ハンガリー ブダペスト国立美術館	
エレヌ・フルマンとその 息子	ドレス地	ペーテル・パウル・リュウベンス	1634年頃	ミュンヘン アルテ・ピナコテーク	アルベルト・マルチニ他監修『ファブリ世界 名画全集Ⅴ』平凡社(1974年)

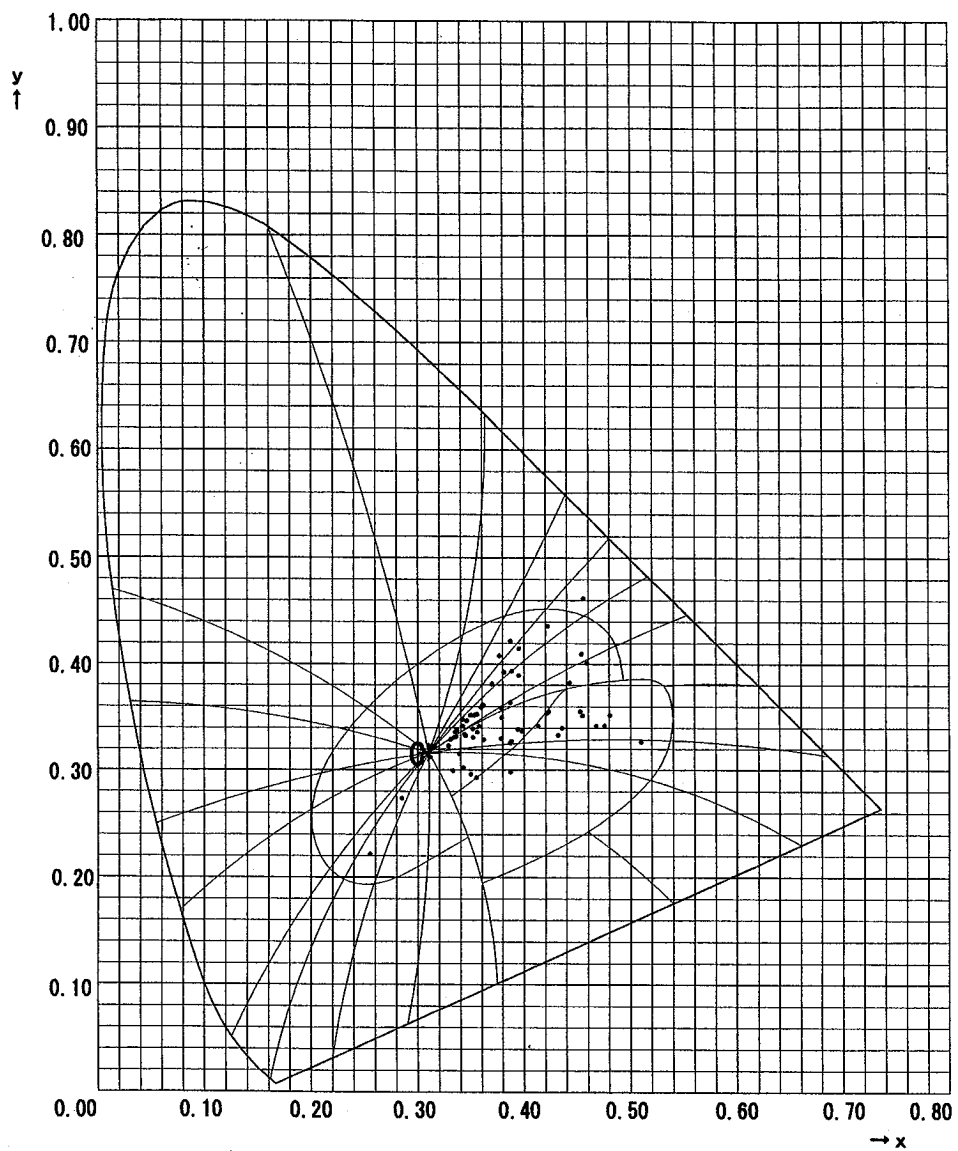


図 3-13. バロック時代の色彩出現分布

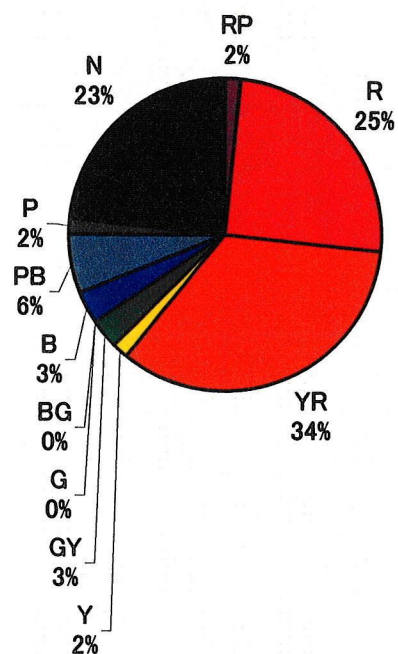


図3-14 バロック時代の色彩出現比率 (色相)

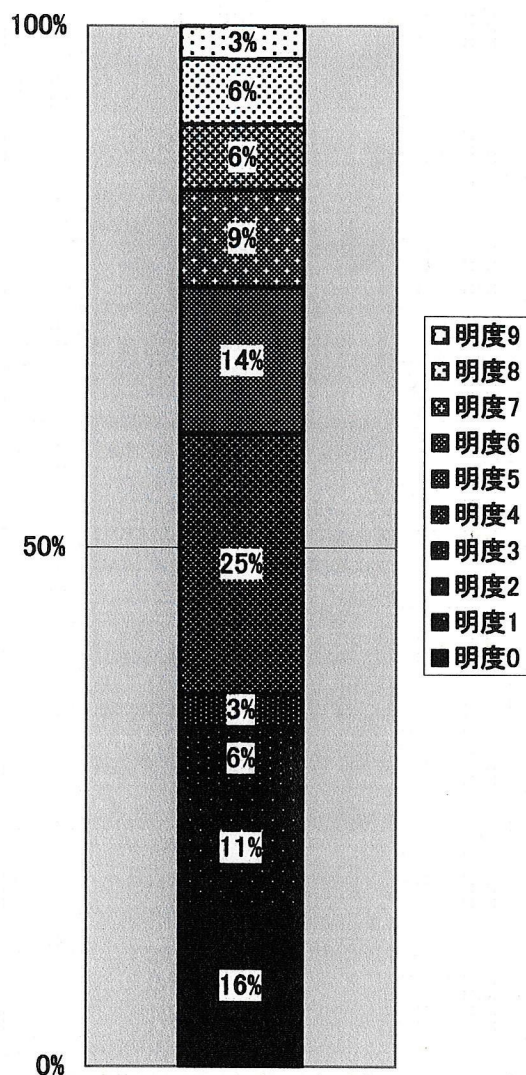


図3-15 バロック時代の色彩出現比率 (明度)

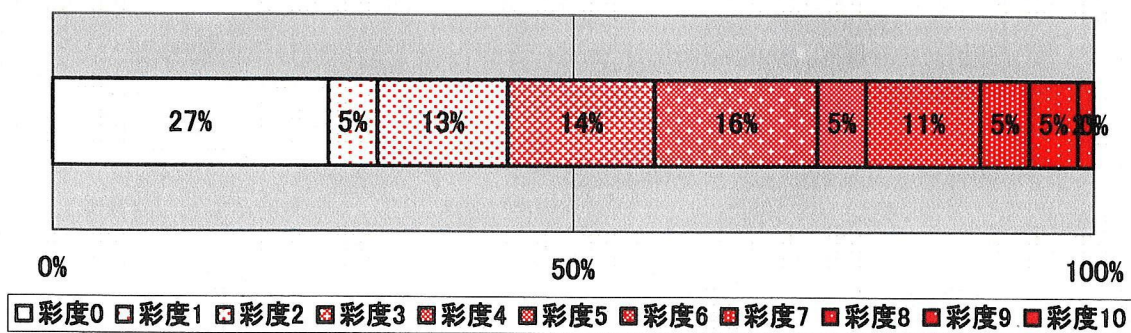


図3-16 バロック時代の色彩出現比率 (彩度)

表4-1. フィレンツェ貴族プッチョ・プッチの財産目録(1449年5月)

	色名	色の説明	上衣	マント	被り物	色の出現回数
赤系	ケルミーズィ	深紅色	8		3	63
	ロザート	薔薇色	19	2	10	
	パオナツツォ	孔雀の赤色	12		1	
	グラーナ	洋紅色			2	
	ブルスキーノ	濃い赤	2			
	赤			1	1	
緑系	緑		3	1		8
	暗緑色		4			
黄系	獅子毛色	獅子毛に似た黄色	1			1
青系	青		1	1	1	4
	トゥルキーノ	トルコ石の青色	1			
白	白		9			9
灰色	モスカヴォリエーレ	蠅の羽の灰色	3			11
	灰色		8			
褐色	モナキーノ	濃い赤褐色	2	2	1	5
黒	黒		12		3	15
混色	モルモリーノ	大理石の色、混色	1	1		2

Carlo Merkel, “I beni della famiglia di Puccio Pucci. Inventario del sec. XV illustrato”, in NozzeRossi-Teiss, Istituto Italiano d’Arti Grafiche, Bergamo, 1897, pp. 139-205. の論考をまとめたもの。ここでも赤系の服飾品の割合が非常に大きいように、ルネサンス時代において赤衣はステイタス・シンボルとして富裕階級の人々に着用された。

表4-2. 『フィレンツェのニンフ譚』の7人のニンフの衣裳の色彩

ニンフ名	徳目	衣裳の色彩	色の説明
リーア	信仰	金	
アガペス	慈愛	ヴェルミリオ	小さな虫を語源とする赤系の色
アディオーナ	節制	ポルポラ	赤味がかった紫色
エミリア	正義	サングイーニョ	血紅色
フィアンメッタ	希望	緑	
アクリモニア	剛毅	白	
モブサ	賢明	ロザート	薔薇色

ボッカッチョ著『フィレンツェのニンフ譚』に登場する七元徳の擬人化であるニンフ達の着けた衣裳の色彩。当時既に多くの色彩があったにも関わらず、ボッカッチョは7人のニンフのうち3人に赤衣を与えている。

表4-3. 染色された布の最終的な取引価格

染色された布	最終取引価格
2度染めのケルミーズィ	40ソルド
暗緑色	40ソルド
アレッサンドリーノ	40ソルド
ケルメス製のパオナッツォ	35ソルド
グラナー製のパオナッツォ	35ソルド
ブラジルスオウ製のパオナッツォ	35ソルド
ヴェルミリオ	25ソルド
ザッフィオラート	25ソルド
青色	24ソルド
1度染めのケルミーズィ	20ソルド
緑色	20ソルド
サフラン製の黄色	13ソルド
グラナーによるもの	12ソルド
灰色	12ソルド
タンニン色	12ソルド
ハグマノギによる黄色	12ソルド
肉桂色	12ソルド
ズビアダート	12ソルド
硫黄による燻蒸	1ソルド
煮沸	1ソルド

これは『絹織物製作に関する論』に拠るもの。上位を占めているのはケルミーズィ（深紅色）やパオナッツォ（孔雀を語源とする赤系の色）、ヴェルミリオ（小さな虫を語源とする赤系の色）、ザッフィオラート（ブラジルスオウで作られる赤系の色）といった赤系の色、そして暗緑色やアレッサンドリーノ（濃い青色）のような濃色であり、赤衣は高価であった事がわかる。

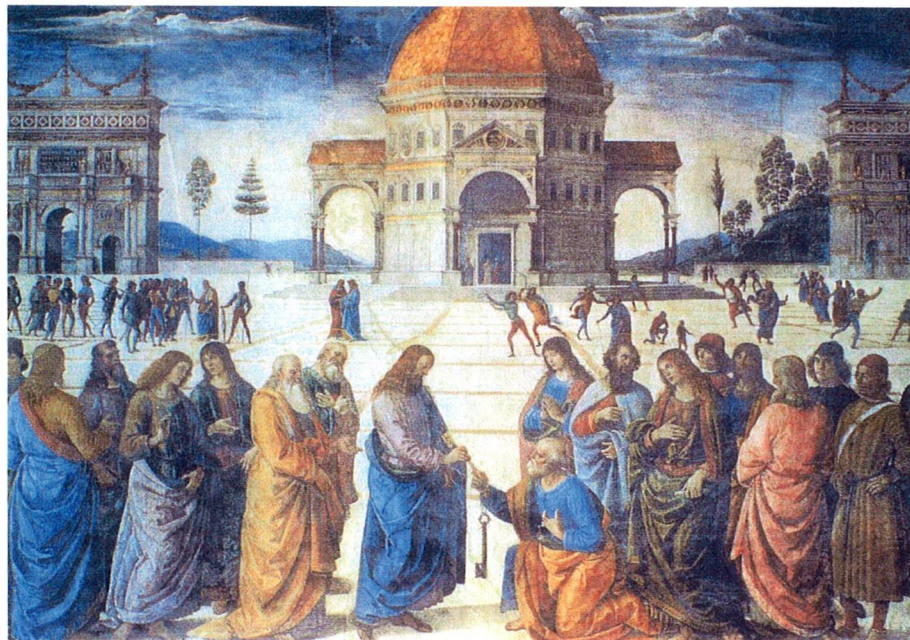


図4-1. 「ペテロへの鍵の授与」(1481~82年)

“信仰”を象徴する黄金色の衣服は、鍵と共に彼が聖ペテロである事を示すアトリビュートである。



図4-2. 「ユダの接吻」(1304~06年)

画面左端の深い黄金色の衣裳を着けているのがペテロで、画面中央の薄い黄色の人物がユダである。



図4-3. 「ネーデルラントのことわざ」(1559年)

青いマントを着せる＝騙すという意味のことわざが描かれている。このように、ルネサンス時代において青色は“不誠実”の意味を負う色彩であった。

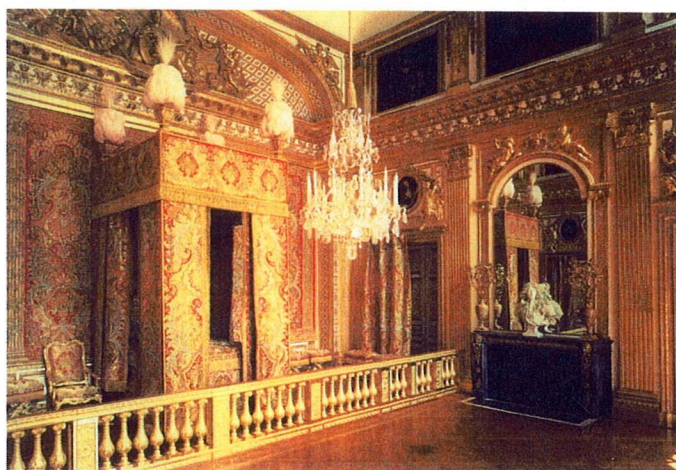


図4-4. ヴェルサイユ宮・王の寝室(1701年)

ルイ14世の寝室。黄金色は“権力”“富裕”の色であり、君主の生活の場は黄金色に包まれていた。

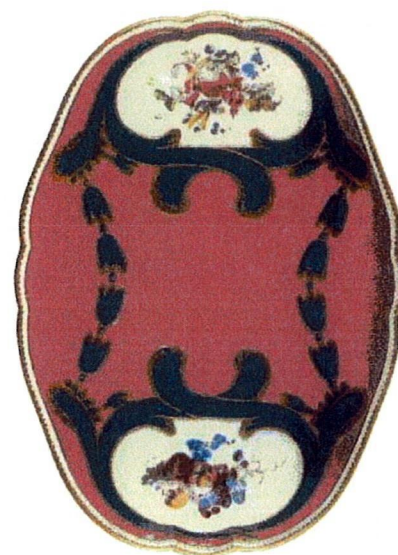


図4-5. セーブル磁器(1759年)

ポンパドゥールピンクと呼ばれる薔薇色の磁器。この皿のように薔薇色と緑色の組合せはセーブル窯特有の配色のひとつである。

表 4-4. 『三色娘』の3人の男性の好みとそれに対する評価

	第1の男 蒼色の髪	第2の男 金髪	第3の男 赤毛
髪の好み	グリゼット(貧しい階級の娘)風に、しかし趣味豊かに髪を結う	無帽	
服飾の好み	白いドレス ほとんどいつでも普段着	縮れた毛 贅沢な服装 桃色	緑色
靴の好み	ヒールの細くて低い可愛らしいもの ほとんどいつも白い室内履	高さ6インチの、細い、弓なりの踵 桃色	他の二人のちょうど中間 緑色
その他の好み	清潔な身なり 「気取らない、楽な」 「官能に満ちた」 「百合のように白い肌」 「愛嬌がある」 「可愛らしくて、品行も模範的な」	物憂げな態度 「いつもとても良い趣味」 「彼女は特に履物にセンスがあつて」 「肉感的」	「魅力的な恋人」



図 4-6. 中国の梔子色の衣服 (清代)
皇后の衣服。中国では黄色は地上で最も尊い色、高貴な色であった。



図 4-7. 「ポンパドゥール夫人像」(1756 年)
緑色のローブ・ア・ラ・フランセーズを着けたポンパドゥール侯爵夫人。



図4-8. サーカシアドレス (1788年)
薔薇色と緑色が調和しているドレス。



図4-11. セーブル磁器 (1774年)
この青い地色は「天上の青」や「王者の青」と呼ばれて、ルイ15世にも愛好された。



図4-9. 青花 (1723年)



図4-10. 青磁 (1736年)



図4-12. サロン・ルージュ (1733年)
漆喰の乳白色はロココ時代のインテリアに大変喜ばれた。

図表リスト

図1-1. フランソワ・ブーシェ「朝食」パリ, ルーブル美術館 (1739年)

吉川逸治編『ルーブルとパリの美術館 ルーブル美術館4』株式会社 小学館 (1986年) より。

図1-2. ニコラ・ランクレ「四季」(1740年)

飯塚信雄著『ロココへの道—西洋生活文化史点描』文化出版局 (1984年) より。

表1-1. 1751年の数ヶ月のデュボアの売上日誌

小林太一郎著『支那と仏蘭西美術工芸』弘文堂書房 (1937年) 参考。

図1-3. フランソワ・ブーシェ「ボンパドゥール夫人肖像銅版画 (未完成)」パリ, コレクション・モーリス・フナイユ (1757年)

小林太一郎著『支那と仏蘭西美術工芸』弘文堂書房 (1937年) より。

図1-4. フランソワ・ユーベルト・ドルーエ「ボンパドゥール侯爵夫人の肖像」ロンドン, ナショナル・ギャラリー (1763~64年)

深井晃子監修『京都服飾文化財団コレクション ファッション 18世紀から現代まで』タッシェン・ジャパン株式会社 (2002年) より。

図2-1. ジャン=アントワヌ・ヴァトー「ジェルサンの看板」ベルリン, シャルロットテンブルク宮 (1720年)

大野芳材他著『名画への旅15 18世紀I 逸楽のロココ』講談社 (1993年) より。

図2-2. ジャン=フランソワ・ド・トロワ「愛の宣言」ベルリン, シャルロットテンブルク宮 (1731年)

大野芳材他著『名画への旅15 18世紀I 逸楽のロココ』講談社 (1993年) より。

図2-3. フランソワ・ブーシェ「ボンパドゥール夫人の肖像」ロンドン, ウォーレス・コレクション (1759年)

中山公男責任編集『週刊朝日百科 世界の美術60』朝日新聞社 (1979年) より。

図2-4. カンタン・ド・ラ・トゥール「ボンパドゥール夫人の肖像」パリ, ルーブル美術館 (1752年)

中山公男責任編集『週刊朝日百科 世界の美術60』朝日新聞社（1979年）より。

図2-5. ルイーズ＝エリザベト・ヴィジェ＝ルブラン「ローブ・シュミーズを纏ったマリー・アントワネット」ワシントン, ナショナル・ギャラリー（1783年）
深井晃子著『名画とファッション』株式会社 小学館（1999年）より。

図2-6. 「ローブ・ア・ラ・ポロネーズ」京都, 京都服飾文化研究財団（1780年頃）
京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図2-7. クレオール風ローブ『ガリリー・デ・モード・エ・コスチューム・フランセ誌』（1787年）
フランソワ・ブーシェ著『西洋服装史』文化出版局（1973年）より

図2-8. 「演劇『アタリー』の聖職者の衣裳」（18世紀）
菅原珠子著『絵画・文芸にみるヨーロッパ服飾史』株式会社 朝倉書店（1991年）より。

図2-9. バロック様式『アカンサス』リヨン, リヨン織物美術館（17～18世紀）
城一夫著『西洋染色文様史』株式会社 朝倉書店（1995年）より。

図2-10. カスパル・ネツチェル「女の肖像」ベルリン, 国立絵画館（1679年）
神吉敬三他編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』株式会社 小学館（1994年）より。

図2-11. レース様式『レース風の文様』リヨン, リヨン織物美術館（18世紀初）
佐野敬彦著『織りと染めの歴史—西洋編』株式会社 昭和堂（1999年）より。

図2-12. 「ビザール様式」京都, 京都服飾文化研究財団（18世紀初）
太田晶子著「十八世紀フランスの絹織物—『華麗な革命』展の出品衣裳を中心に」『月刊染織α』第96号（1989年）

図2-13. 摂政様式『風景と花』リヨン, リヨン織物美術館（1735～40年頃）
佐野敬彦著『織りと染めの歴史—西洋編』株式会社 昭和堂（1999年）より。

図2-14. 「ポワン・ラントレ」京都, 京都服飾文化研究財団（1760年頃）
京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図2-15. 「ポワン・ラントレのローブ」京都, 京都服飾文化研究財団（1760年頃）

京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図2-16. ロココ様式『花の連続文様』リヨン, リヨン織物美術館（18世紀中頃）

佐野敬彦著『織りと染めの歴史—西洋編』株式会社 昭和堂（1999年）より。

図2-17. シノワズリ『中国風の人物と花鳥』リヨン, リヨン織物美術館（18世紀後半）

佐野敬彦著『織りと染めの歴史—西洋編』株式会社 昭和堂（1999年）より。

図2-18. 「シネ」京都, 京都服飾文化財団（1765年）

京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図2-19. 「シネのローブ」京都, 京都服飾文化財団（1765年）

京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図2-20. 「インド更紗のローブ」『チンツのローブ・ア・ラングレース』ジュイ, オーベルカンプ博物館（1785年）

ジョゼット・ブレディフ著『フランスの更紗 ジュイ工場の歴史とデザイン』平凡社（1990年）より。

図2-21. 「インド的文様のジュイ更紗」『花柄のアンディエンヌ』ジュイ, オーベルカンプ博物館（1788年）

ジョゼット・ブレディフ著『フランスの更紗 ジュイ工場の歴史とデザイン』平凡社（1990年）より。

図2-22. 「中国風文様のジュイ更紗」『岩橋の上のパゴタ』ジュイ, オーベルカンプ博物館（1775年）

ジョゼット・ブレディフ著『フランスの更紗 ジュイ工場の歴史とデザイン』平凡社（1990年）より。

図2-23. 「西洋独特の文様のジュイ更紗」『バラのギルランド〔花綱模様〕とパンジーの散らし模様』ジュイ, オーベルカンプ博物館（1773～75年）

ジョゼット・ブレディフ著『フランスの更紗 ジュイ工場の歴史とデザイン』平凡社（1990年）より。

図2-24. 「縞柄と花柄」京都, 京都服飾文化財団（1770～75年）

京都服飾文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展』（1989年）より。

図3-1. 色度図

日本色彩学会編『新編 色彩科学ハンドブック』財団法人 東京大学出版会（1980年）参考。

表3-1. サンプル別測色結果一覧の内容説明

表3-2. ロココ時代のサンプル別測色結果一覧

表3-3. ロココ時代のサンプル目録

図3-2. ロココ時代の色彩出現分布

図3-3. ロココ時代の色彩出現比率（色相）

図3-4. ロココ時代の色彩出現比率（明度）

図3-5. ロココ時代の色彩出現比率（彩度）

図3-6. 年代別色彩出現比率（色相）

図3-7. 年代別色彩出現比率（明度）

図3-8. 年代別色彩出現比率（彩度）

表3-4. ルネサンス時代のサンプル別測色結果一覧

表3-5. ルネサンス時代のサンプル目録

図3-9. ルネサンス時代の色彩出現分布

図3-10. ルネサンス時代の色彩出現比率（色相）

図3-11. ルネサンス時代の色彩出現比率（明度）

図3-12. ルネサンス時代の色彩出現比率（彩度）

表3-6. バロック時代のサンプル別測色結果一覧

表3-7. バロック時代のサンプル目録

図3-13. バロック時代の色彩出現分布

図3-14. バロック時代の色彩出現比率（色相）

図3-15. バロック時代の色彩出現比率（明度）

図3-16. バロック時代の色彩出現比率（彩度）

表4-1. フィレンツェ貴族ブッチョ・ブッチの財産目録（1449年5月）

伊藤亜紀著『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』株式会社
ありな書房（2002年）参考。

表4-2. 『フィレンツェのニンフ譚』の7人のニンフの衣裳の色彩

伊藤亜紀著『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』株式会社
ありな書房（2002年）参考。

表4-3. 「染色された布の最終的な取引価格」

伊藤亜紀著『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』株式会社
ありな書房（2002年）参考。

図4-1. ペルジーノ「ペテロへの鍵の授与」ヴァティカン, システィーナ礼拝堂（1481～82年）

『西洋美術館』株式会社 小学館（1999年）より。

図4-2. ジョット「ユダの接吻」パドヴァ, スクロヴェーニ礼拝堂（1304～06年）

『西洋美術館』株式会社 小学館（1999年）より。

図4-3. ピーテル・ブリューゲル「ネーデルラントのことわざ」ベルリン, 国立絵画館（1559年）

『西洋美術館』株式会社 小学館（1999年）より。

図4-4. 「ヴェルサイユ宮・王の寝室」ヴェルサイユ, ヴェルサイユ宮殿（1701年）

神吉敬三他編『世界美術大全集 第17巻 バロックⅡ』株式会社 小学館（1994年）より。

図4-5. セーブル磁器『柄付き水差しと受け皿』パリ, 市立プティ・パレ美術館（1759年）

千足伸行監修『フランス王家3人の貴婦人の物語展』TBS（2001年）より。

表4-4. 『三色娘』の3人の男性の好みとそれに対する評価

レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ著「三色娘—当世美女烈伝から」鈴木信太郎他編『世界短編文学全集5 フランス文学／中世～18世紀』株式会社 集英社（1963）参考。

図4-6. 「中国の梔子色の衣服」北京, 胡宮博物院（清代）

黄能馥著『中国美術全集7 工芸編 染色刺繍Ⅱ』株式会社 京都書院（1996）より。

図4-7. フランソワ・ブーシェ「ポンパドゥール夫人像」ミュンヘン, アルテ・ピナコテーク（1756年）

大野芳材他著『名画への旅15 18世紀Ⅰ 逸楽のロココ』講談社（1993）

年) より。

図4-8. デレ「サーカシアドレス」東京, 文化女子大学図書館 (1788年)

石山彰編『ファッション・プレート全集1』文化出版局 (1983年) より。

図4-9. 『青花牡丹唐草文龍耳瓶』ロンドン, ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
(1723年)

相賀徹夫編『世界陶磁全集15 清』株式会社 小学館 (1983年) より。

図4-10. 『青磁瓢形瓶』ジュネーブ, バウアー・コレクション (1736年)

相賀徹夫編『世界陶磁全集15 清』株式会社 小学館 (1983年) より。

図4-11. セーブル磁器『蓋付きポプリポット』パリ, 市立プティ・パレ美術館 (1774年)

千足伸行監修『フランス王家3人の貴婦人の物語展』TBS (2001年) より。

図4-12. ニコラ・ピノー「サロン・ルージュ」パリ, ロクロール館 (1733年)

坂本満責任編集『世界美術大全集18 ロココ』株式会社 小学館 (1996年)
より。

参考文献

1. 丹野郁著『西洋服飾発達史 近世編』光生館（1960年）
2. フランソワ・ブーシェ著『西洋服装史』文化出版局（1973年）
3. マックス・フォーン・ベーン著『ロココの世界—十八世紀のフランス—』三修社（2000年）
4. 財団法人 京都服装文化研究財団監修『華麗な革命—ロココと新古典の衣裳展—』（1989年）
5. 深井晃子監修『京都服飾文化財団コレクション ファッション 18世紀から現代まで』タッシェン・ジャパン株式会社（2002年）
6. 千足伸行監修『フランス王家3人の貴婦人の物語展』TBS（2001年）
7. ルイ・セバスチャン・メルシェ著『18世紀パリ生活誌—タブロー・ド・パリ（上）（下）』岩波書店（1989年）
8. エデュワード・フックス著『風俗の歴史1～10』光文社（1955年）
9. 飯塚信雄著『ロココへの道—西洋生活文化史点描—』文化出版局（1984年）
10. 飯塚信雄著『ロココの女王 ポンパドゥール侯爵夫人』文化出版局（1980年）
11. 中山公男総監修『ロココの魅力』同朋社（1997年）
12. 坂本満責任編集『世界美術大全集18 ロココ』株式会社 小学館（1996年）
13. 東京富士美術館編『近世フランスの絵画と版画』徳島県立近代美術館他（2002年）
14. アンドレ・モロワ著『フランス史 上』新潮社（1952年）
15. 安部美智子著「ロココ時代の服飾—その美意識—」『東横学園女子短大紀要』6号（1968年）
16. 文田哲雄著「ロココ衣裳についての一考察—女性服の衣裳美—」『鹿児島県立短期大学紀要』第19号（1968年）
17. 菅原珠子著「近世フランスにみられる服飾の批判と諷刺」『服飾美学』第15号（1986年）
18. 菅原珠子著『絵画・文芸にみるヨーロッパ服装史』株式会社 朝倉書店（1991年）
19. 「近代ヨーロッパの染織」『染織の美22』京都書院（1983年）
20. ジャック・パンセ他著『文庫クセジュ300 美容の歴史』株式会社 白水社（1961年）
21. ユッタ・ヘルト著『ヴァトー〈シテール島への船出〉』株式会社 三元社（1992年）

22. モンテスキュー著「ペルシア人の手紙」(1721年)『世界文学大系16巻』筑摩書房(1960年)
23. 若宮信晴著「十八世紀に流行した装飾文様」『服装文化』174号(1982年)
24. 佐野敬彦著『織りと染めの歴史—西洋編』株式会社 昭和堂(1999年)
25. 城一夫著『西洋染色文様史』株式会社 朝倉書店(1995年)
26. モリエール著「町人貴族」『モリエール全集第3巻』中央公論社(1973年)
27. 石山彰著「十八世紀のヨーロッパ—その時代と服飾—」『服装文化』174号(1982年)
28. 飯塚信雄著「西洋生活文化史試論(8) ロココの生活美術」『服装文化』(1983年)
29. 太田晶子著「十八世紀フランスの絹織物—「華麗な革命」展の出品衣裳を中心に—」『月刊染織α』第96号(1989年)
30. 日本色彩学会編『新編色彩科学ハンドブック』財団法人 東京大学出版会(1980年)
31. 日本色彩学会編『色彩用語事典』財団法人 東京大学出版会(2003年)
32. 城一夫編著『カラーアトラス5510 世界慣用色名色域辞典』株式会社 光村推古書院(1986年)
33. ミッシェル・パストゥロー著『ヨーロッパの色彩』株式会社 パピルス(1995年)
34. 徳井淑子著『服飾の中世』株式会社 勁草書房(1995年)
35. 伊藤亜紀著『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』株式会社 ありな書房(2002年)
36. 若桑みどり著「ルネサンスの色 中世色彩論の変遷」『色』ポーラ文化研究所(1982年)
37. ダンテ著『神曲 煉獄篇』集英社(1987年)
38. ヨハン・ホイジンガー著『中世の秋』創文社(1958年)
39. パスカル・セッセ著『服飾の歴史 その神秘と科学』株式会社 美術出版社(1964年)
40. ミッシェル・パストゥロー著『紋章の歴史—ヨーロッパの色とかたち—』株式会社 創元社(1997年)
41. チャールズ・シンガー編『技術の歴史』筑摩書房(1963年)
42. 『西洋美術館』株式会社 小学館(1999年)

43. カステイリオーネ著『カステイリオーネ 宮廷人』東海大学出版会（1987年）
44. ジョン・ハーヴェイ著『黒服』研究社出版株式会社（1997年）
45. モリエール著「ドン・ジュアン」『世界文学全集4』河出書房新社（1961年）
46. ボワロー著『諷刺詩』株式会社 岩波書店（1987年）
47. ルネ・シャトラン著『ルイ14世の軍隊 近代軍制への道』株式会社 新紀元社（2000年）
48. 黒川知文著『ユダヤ人迫害史—繁栄と迫害とメシア運動』株式会社 教文館（1997年）
49. 井上政己監訳『キリスト教2000年史』いのちのことば社（2000年）
50. 山田智三郎著『十七・十八世紀における欧州美術と東亜の影響』アトリエ社（1942年）
51. 小林太一郎著『支那と佛蘭西美術工芸』弘文堂書房（1937年）
52. ダントルコール著『中国陶磁見聞録』株式会社 平凡社（1979年）
53. アンドレ・シェニエ著「寸鉄詩集」『世界名詩集大成2 フランス篇1』株式会社 平凡社（1960年）
54. レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ著「三色娘—当世美女烈伝から」『世界短編文学全集5 フランス文学／中世～18世紀』株式会社 集英社（1963年）
55. ジャンティ・ベルナール著「フロジヌとメリドール」『フランス詩大系』青土社（1989年）
56. 嶋佐和子著『洋家具とインテリアの様式』婦女界出版社（1987年）
57. 青木英雄著「紅（あか）—ロココと紅—」『被服文化』No. 115（1969年）

註

- ⁱ 千足伸行監修『フランス王家3人の貴婦人の物語展』TBS（2001年）から引用。
- ⁱⁱ モンテスキュー著「ペルシア人の手紙」（1721年）『世界文学大系16巻』筑摩書房（1960年）より引用。
- ⁱⁱⁱ これは Durant が言ったもので、千足伸行監修『フランス王家3人の貴婦人の物語展』TBS（2001年）から引用したものである。
- ^{iv} これは1729年の『メルキユール・ド・フランス』誌の記述で、フランソワ・ブーシェ著『西洋服装史』文化出版局（1973年）から引用。
- ^v 丹野郁著『西洋服飾発達史 近世編』光生館（1960年）より引用。
- ^{vi} 青木英雄著「紅（あか）ーロココと紅ー」『被服文化』No. 115（1969年）より引用。
- ^{vii} モンテスキュー著「ペルシア人の手紙」（1721年）『世界文学大系16巻』筑摩書房（1960年）から引用したもの。
- ^{viii} 太田晶子著「十八世紀フランスの絹織物ー「華麗な革命」展の出品衣裳を中心にー」『月刊染織α』第96号（1989年）より引用。
- ^{ix} モリエール著「町人貴族」『モリエール全集第3巻』中央公論社（1973年）より引用。
- ^x エデュワード・フックス著『風俗の歴史5』光文社（1955年）より引用。
- ^{xi} 伊藤亜紀著『色彩の回廊ールネサンス文芸における服飾表象について』株式会社ありな書房（2002年）を参考にまとめたもの。
- ^{xii} 伊藤亜紀著『色彩の回廊ールネサンス文芸における服飾表象について』株式会社ありな書房（2002年）を参考にまとめたもの。
- ^{xiii} 伊藤亜紀著『色彩の回廊ールネサンス文芸における服飾表象について』株式会社ありな書房（2002年）を参考にまとめたもの。
- ^{xiv} ボッカッチョ著『愛の幻想』の引用で、伊藤亜紀著『色彩の回廊ールネサンス文芸における服飾表象について』株式会社ありな書房（2002年）より。
- ^{xv} ジョン・ハーヴェイ著『黒服』研究社出版株式会社（1997年）より。
- ^{xvi} カスティリオーネ著『カスティリオーネ 宮廷人』東海大学出版会（1987年）より引用。
- ^{xvii} 『色彩の紋章』の記述で、ヨハン・ホイジンガー著『中世の秋』創文社（1958年）より引用したもの。
- ^{xviii} モリエール著「ドン・ジュアン」『世界文学全集4』河出書房新社（1961年）より引用。
- ^{xix} ボワロー著『諷刺詩』株式会社 岩波書店（1987年）より引用。
- ^{xx} 『光と陰影の大技術』の引用で、城一夫編著『カラーアトラス5510 世界慣用色名色域辞典』株式会社 光村推古書院（1986年）より引用。
- ^{xxi} アンドレ・シェニエ著『世界名詩集大成2 フランス篇1』株式会社 平凡社（1960年）より引用。
- ^{xxii} レチフ・ド・ラ・ブルトヌ著「三色娘ー当世美女烈伝から」『世界短編文学全集5 フランス文学／中世～18世紀』株式会社 集英社（1963年）より引用。
- ^{xxiii} ダントルコール著『中国陶磁見聞録』株式会社 平凡社（1979年）より引用。

あとがき

本研究の主題を決めた契機は、ポンパドゥールピンクのセーブル磁器に心を奪われた事でした。こうした思いがけない出会いから、私はロココ時代の色彩に関心を持ち始めたのです。ロココ時代の女性服は、肖像画に描かれたポンパドゥール侯爵夫人やマリーアントワネットの色鮮やかで華麗な衣裳によってあまりにも有名ですが、こんなにも美しい色彩に溢れた時代の服飾であるにも関わらず、調べてみるとその色彩についての先行研究は非常に乏しく、改めて研究する必要性が多分に残されています。しかし、資料の少ない上に、更に色彩という極めて主観性を帯びた、客観的評価の難しい主題を選択した本研究は、筆者にとって大変難しいものでした。文献資料の少ないロココ時代の服色を如何にして明らかにするか、どのようにして色彩を論ずる事に客観性を持たせるか。ご指導頂きました広島女学院大学大学院 相川佳予子教授には、始終ご心配をおかけした事と存じます。本論文を構成・展開する方法に関しても、先行研究を用いて多くのご教示を頂きました。心より御礼申し上げます。

色彩を客観的に評価する方法を考えた時に、広島女学院大学大学院 橋本一夫教授にパソコンを用いて色彩を数値化し、統計学的に考えるという方法を助言して頂きました。これまでの服飾史学の研究になかった方法だったので、サンプルの服飾以外の部分まで測色してしまう事、サンプルの光の当たっている部分と当たっていない部分に誤差がある事等、本研究は試行錯誤の連続でした。先生に有益なご助言を頂き、色彩データの収集を実現できた事を、深く感謝いたします。

ルネサンス時代・バロック時代はまだ肖像画が少なく、サンプルの収集に骨が折れました。広島女学院大学大学院 原田佳子教授には絵画を探す方法をご指導頂き、更には大変お忙しい時期であったにも関わらず、目的の絵画を探し出す事までご協力頂きました。心から感謝申し上げます。

広島大学名誉教授 寺地遵先生には、ロココ時代におけるシノワズリの捉え方や絵画の見方を始めとして、最後まで様々なご指導・ご提案を賜り、誠にありがとうございました。

広島女学院大学大学院 灰山彰好教授には、精密な色度図をご提供頂き、またそこに色彩データをプロットする方法までご懇切なご指導を頂きました。厚く御礼申し上げます。

本研究に取り組むにあたって多くの先生方にご指導・ご鞭撻を賜り、新しい独自の方法で考察するアイデアを享受できた事は、まさに筆者にとってこの上ない幸運であったと感じずにはいられません。心から御礼申し上げます。